EAQ0176e

Plugwise Source

取扱説明書

（操作編）

第6版　2015年9月18日

株式会社 東光高岳

・安全にお使いいただくために、製品のお取り扱いの前に、必ずこの取扱説明書をよくお読み下さい。

・お読みになった後は、いつでも見ることができる場所に、必ず保管して下さい。

－安全上のご注意－

本製品の性能を十分に発揮させ，正しく安全にお使い頂くために，ご使用の前に，本書を必ずお読みになり，下記の事項に留意してご使用下さい。

●危険の度合いを表す記号の区分

危 険	取扱を誤った場合に，危険な状況が起こり得て，死亡や重傷を受ける可能性が想定される場合。
注 意	取扱を誤った場合に，危険な状況が起こり得て，障害や軽症を受ける可能性が想定される場合及び物的障害のみの発生が想定される場合。ただし，状況によっては，重大な結果に結びつく可能性があります。

上記の内容はいずれも重要な内容を記載しておりますので，必ずお守り下さい。

●危険の内容を表す記号の区分

	記号は，警告・注意を促す内容がある事を告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図は，感電注意）が描かれています。
	記号は，禁止行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図は，接触禁止）が描かれています。
	記号は，行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図は，業務行動一般）が描かれています。

―ご使用上の注意―

■配線など 機器に触れる可能性がある作業を行う場合は，必ず主電源を切って下さい。
通電状態で作業を行った場合，感電する恐れがあります。

■異常時（焦臭いなど）は，使用を中止してください。
異常のままご使用を続けると，感電，火災の恐れがあります。

■機器を絶対に分解，改造しないで下さい。故障，感電，火災の恐れがあります。

■装置の上にものを乗せないで下さい。機器の破損，火災の恐れがあります。

▲本製品負荷は，照明機器に使用願います。人命や財産に多大な影響が予想される用途には，使用しないで下さい。

▲機器の故障，異常，誤った取り扱いを行った場合のシステムへの重大事故防止のため，
適切な保護回路を設けてください

▲機器の配線は，誤配線がないようにご注意願います。誤配線を行われた場合，
機器が焼損する場合があります。

▲配線など 機器に触れる可能性がある場合は，機器に静電気の放電がないよう注意して作業を行ってください。

▲配線作業後，結線の確認をしてください。結線が正しくない場合，
機器が正常に動作しない場合があります。また，故障，感電の原因となります。

▲濡れた手で作業を行わないで下さい。
感電する恐れがあります。

▲ﾈｯﾄﾜｰｸﾏﾈｰｼﾞﾒﾝﾄﾂｰﾙなどにて ﾉｰﾄﾞの登録，削除を行う場合，登録，削除が完全にされてから電源を切ってください。登録，削除中に電源断されると，装置が動作しなくなる場合があります。

1. ご使用にあたり知っておいていただきたいこと

◇データのバックアップについて

本アプリケーションには、各機器のデータを定期的にバックアップする機能があります。ハードドライブのクラッシュ、ソフトウェアの誤動作によりデータを損失することがないよう、バックアップファイルの保存先を外部媒体記憶装置に指定し保存することを推奨します。

◇ネットワークのセキュリティー対策について

お客様の環境においてファイアウォールなどのセキュリティー対策を行ってください。もし、セキュリティー対策を行わない場合、計測データなどの流出、不正な制御による障害などの原因となります。セキュリティー対策については、お客様自身の責任において実施していただきますようお願い致します。セキュリティーの不備などによる損害については当社では一切責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

2. 取扱説明書について

◇本書での表記について

本書では、Source を使用する一般的な環境として、「Windows 7 が動作するパソコン」として説明の表記をしています。お使いの使用環境によって、表示が異なることがございますので、ご注意ください。

◇商標表示

「スティック」、「スティングプラス」「ステルスプラス」「スティング」「ステルス」「センス」「スイッチ」「スキャン」「SLP」以上の Plugwise 各製品は Plugwise B.V.の商標または登録商標です。
「Internet Explorer」、「インターネットエクスプローラ」、「エクスプローラ」、「Microsoft Excel」。
その他、記載された会社名および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

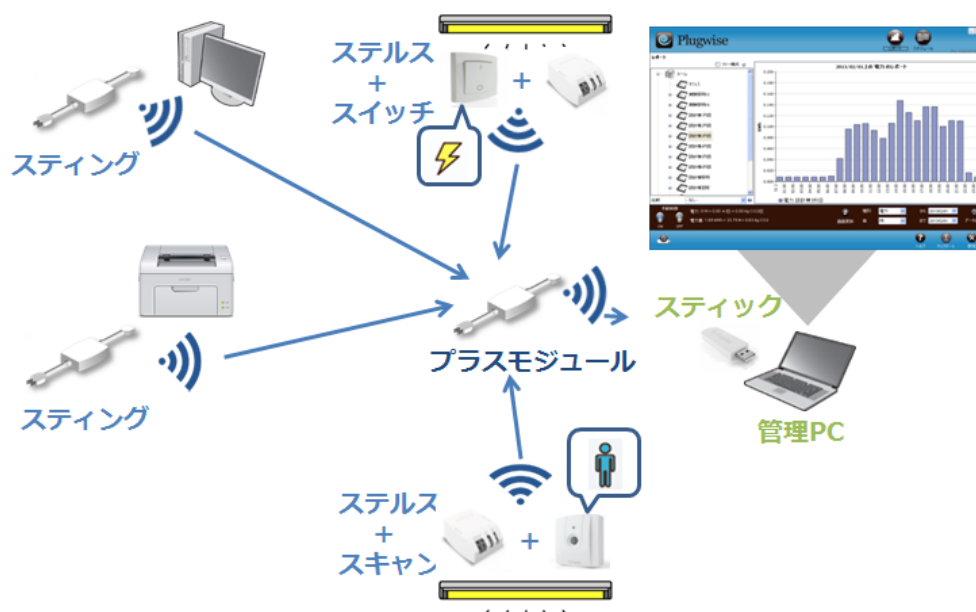
１．　概要

1．1　はじめに

本書は、Plugwise 社製 Source アプリケーションの『取扱説明書』です。アプリケーションの操作方法について記載しています。スマートコンセント本体についての機器仕様・設置方法・運用上の注意事項については、『スマートコンセント機器取扱説明書』をご参照下さい。

1．2　Source アプリケーションとは

Source アプリケーションは、各モジュールが蓄積した電力使用量の実態をリアルタイムで把握／抑制、電力をスマートに「見える化」できるアプリケーションです。過去の電力データも遡って閲覧することができる為、運用においての傾向、対策を立てることでの消費エネルギー削減をサポートします。

ネットワークの基本構成は Source と会話する為の USB タイプのスティック、子を束ねて USB と会話するプラスモジュール（スティングプラス、ステルスプラス）、と電力計測能及び LED 照明等の ON/OFF 制御機能持つ子機モジュール（スティング、ステルス　※スティングは計測のみ）で構成されます。SED 端末（センス、スイッチ、スキャン）と組み合わせることで、温室度情報の監視、壁スイッチにおける LED 照明等の ON/OFF 制御(ステルス＋スイッチ)、人感連動制御（ステルス＋スキャン）も可能です。

スマートコンセント基本システム構成

最大構成（Home 版）		最大構成(Source Pro 版)	
スティック	1	スティック	1
スティングプラス またはステルスプラス	1	スティングプラス またはステルスプラス	1
スティング、ステルス、 センス、スイッチ、スキャン	23	スティングまたは、ステルス、 センス、スイッチ、スキャン	64

各エディションシステム最大構成

1．3　ライセンスについて

Source では無償の Home 版ライセンスの他にオプションライセンスが用意されています。追加購入することでスマートコンセントを管理できる台数を増やしたり、新たな機能が利用できるようになります。

※ライセンスの詳細については「プログラム」の章を参照して下さい。

■HOME 版ライセンスの主な機能

項目	内容
消費電力計測機能	現在値及び６０分値の消費電力をモジュール毎に表示することができます。
スケジュール機能	スケジュールによる電源制御を行うことができます。リレーを有するステルスに対してのみ有効な機能です。
Web サーバー機能	ローカルネットワークを介し、Web ブラウザからアクセスすることで計測データを遠隔から監視することできます。※英語表記
ON/OFF 制御機能	照明の電源制御を Source 画面から行うことができます。リレーを有するステルスに対してのみ有効な機能です。
センサ計測機能	センス（温湿度センサ）、スキャン（人感センサ）を Source 上に登録することでそれぞれの計測データをレポート画面で確認することができます。

1．4　表記について

本取り扱い説明書に記載されている表記についての注意事項を記載します。

■スティック

・スティックはプラスモジュールからデータを受け取り Source へデータを送る役割を担います。スケジュールを設定した場合はスティック⇒プラスモジュールを経由して各モジュールが記憶します。

■モジュール

・Zigbee ネットワーク接続可能な Plugwise 製品は全て「モジュール」と呼ばれます。全てのモジュールは他モジュールと通信することができ、プラスモジュール⇒スティックを介して計測したデータを Source 送信します。計測データ及びスケジュールは個々のモジュールが記憶しています。

■プラスモジュール

・スティングプラス、ステルスプラスを表します。子機モジュールを束ねてスティックを会話する役目を担います。

■子機モジュール

・スティング、ステルスを表します。プラスモジュール⇒スティックを介して計測したデータを Source に送信します。

■SED（スリープ端末装置）

・バッテリー駆動のモジュール（センス、スイッチ、スキャン）を表します。電池の消費を防ぐ為、上位に測定データ、制御データを送信する場合のみ起動します。子機モジュールとしか通信を行うことができません。

1．5　ID について

Source では個々のモジュールをユニークな 6 ケタまたは 7 ケタの ID で管理しています。こちらの ID は個々のモジュールの背面にシールで貼られています。同機種の製品は Source 上で区別がつかない為、こちらの ID で区別します。

Plugwise ID

２． Plugwise Source

2. 1　Plugwise Source をご利用頂くために

Plugwise Source を利用する為、初めに Source のインストール及び Plugwise ネットワークの構築をする必要があります。以下の手順に従いセットアップを行なって下さい。また Source をご利用頂く為には以下の環境が必要となります

	項目	内容
1	Plugwise Source インストール	管理用のパソコンへ Source をインストールします。Source アプリケーションは指定された URL からダウンロードして下さい。
2	ネットワーク構築	モジュールを Source アプリケーション上へ登録します。登録することで各モジュール間の「紐付け」を行い、通信を確立させることができます。Source から各モジュールへ電源制御、各種設定を行うことができるようになります。
3	機器、SED プロパティ設定	機器、SED のプロパティ設定を機器画面から行って下さい。
4	ルーム	機器を設置場所毎に分類し管理する為の機能です。部屋毎に分類することでレポート画面では、部屋毎の計測データを一括で表示することができます。SED を使用する場合はこちらの画面で機器と SED をグループ化することでレポート画面上に SED の計測データを表示できます。
5	グループ	機器を設置負荷毎に分類し管理する為の機能です。分類することでレポート画面では、負荷毎の計測データを一括で表示することができます。SED を使用する場合はこちらの画面で機器と SED をグループ化することで SED の制御対象を決めることができます。
6	スケジュール	ステルスにのみ設定し有効な機能です。必要に応じて設定して下さい。

Source の主な機能について

環境	条件	説明
OS ハードウェア	Windows7/XP/Vista ハードウェア：※1	対応 OS 全てのパソコンについて動作を保証するものではありません。ハードウェア、ソフトウェアの組合せによっては、条件を満たしていても正常に動作しない場合があります。 ※1 以下の場合は動作のサポート対象外となります。 ・USB ハブなどを経由して接続した場合 ・拡張カードなどにより増設した USB ポートの場合
HDD	30MB 以上の空き容量	Source をインストールする際に必要な容量です。
メモリ	1GB 以上	Source が安定して動作する為のメモリ容量です。
CPU	1GHz 以上	Source が安定して動作する為のクロック数です。
ビデオカード	64MB 以上	Source 画面を表示する為の容量です。
ソフトウェア	.NET Framework Version 3.5SP1 以上	Windows 7 では、このインストールは不要です。（標準で実装済の為） 左記ソフトがインストールされていない Windows XP をお使いの方は Windows Update により更新して下さい。

必要な環境について

2. 2　Plugwise Source インストール

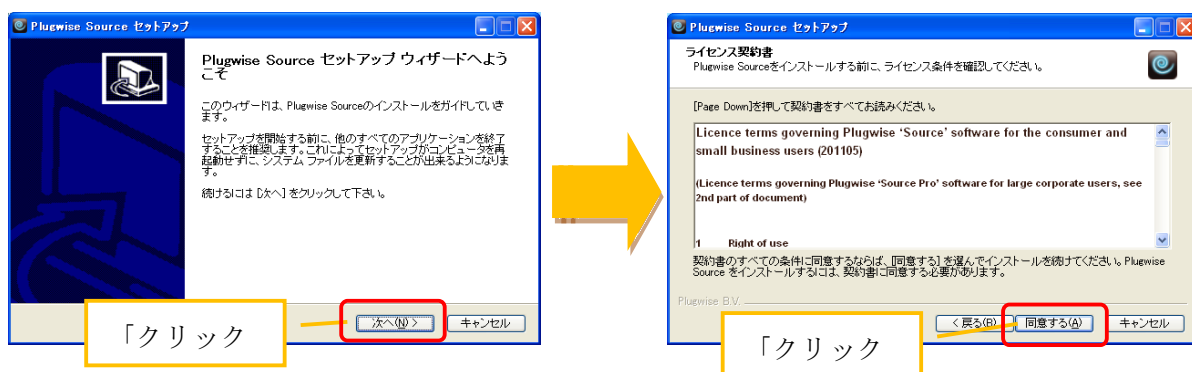
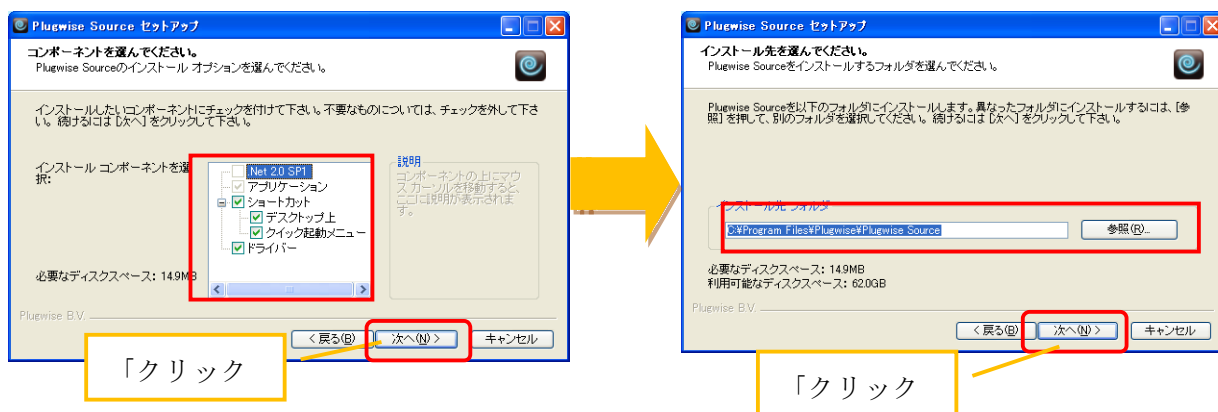
Source のインストール手順を以下に記します。

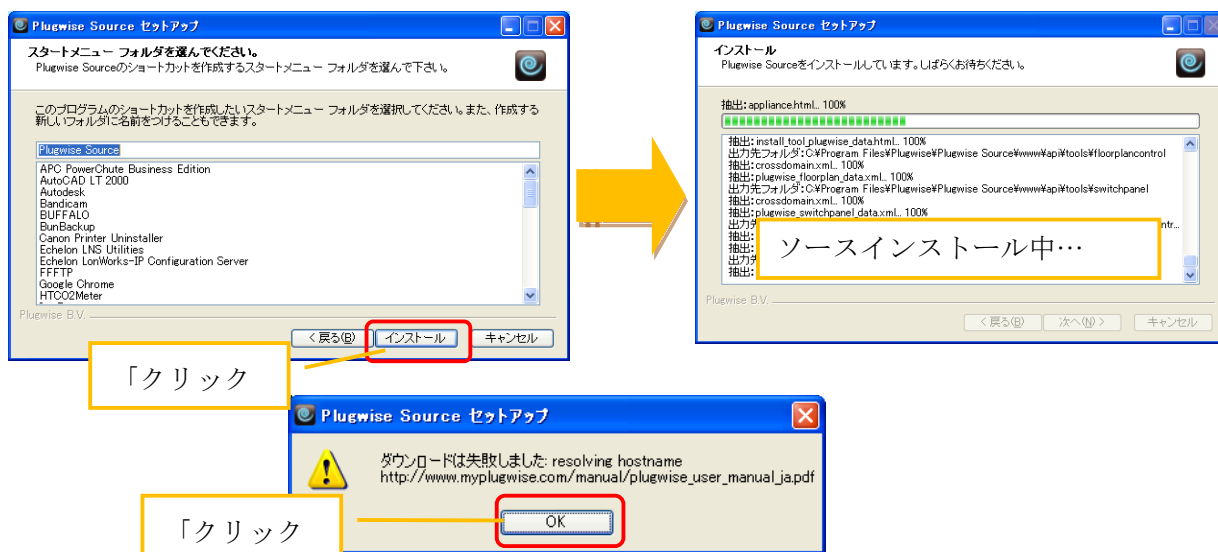
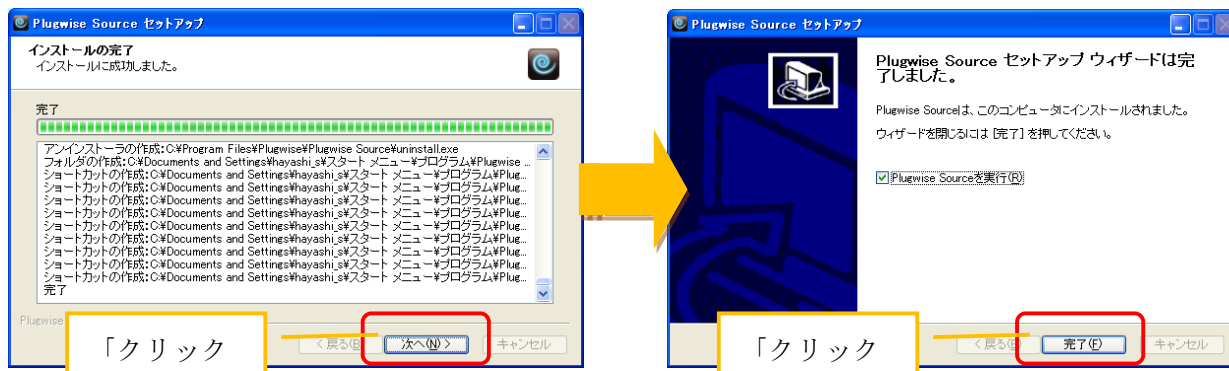
―注意事項―

・インターネットに接続した状態でインストールを行なって下さい。
・スティックはインストールするパソコンに接続しないで下さい。

① Source は以下の HP からダウンロードできます。
　ダウンロードした「exe ファイル」をダブルクリックして起動します。
http://www.tktk.co.jp/product/energy/consent/saving_smart-plug_01/

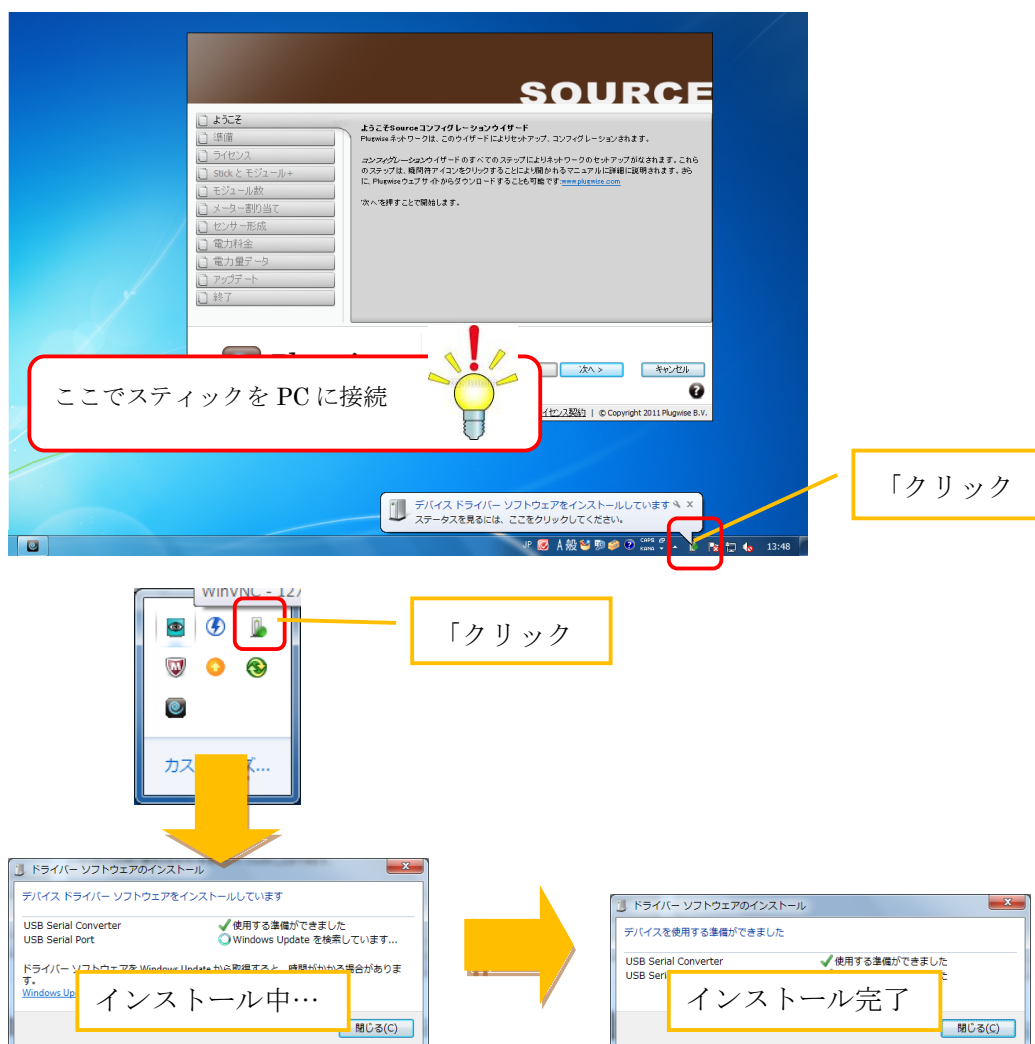
② 言語設定は「日本語」を選択します。続けて「OK」をクリックします。

③ 以下画面が表示されますので、「次へ」及び「同意する」をクリックして下さい。

④ インストールオプションを選択します。コンポーネント全てにチェックが入っていることを確認し「次へ」をクリックして下さい。続いて Source のインストール先を問われますので変更せずにそのまま「次へ」をクリックして下さい。

⑤ Plugwise のショートカットを作成するスタートメニューのフォルダを選択します。何も変更せずに「インストール」をクリックして下さい。Source のインストールが始まります。

<u>※インターネット環境によりマニュアルのダウンロードを失敗することがありますが「OK」クリックてし先へ進んで下さい。</u>

⑥ Source のインストールが完了しましたら「次へ」をクリックして下さい。続けて「Plugwise Source 実行」にチェックマークが入っていることを確認し「完了」をクリックして下さい。

⑦ Source が実行されますが先には進まず、インストールが完了した状態でスティックを PC に接続します。「新しいハードウェアが見つかりました」と画面上のタスクトレイにポップアップウィンドウが表示され、ドライバーソフトウェアが自動インストールされます。タスクトレイを開き、インストール中のアイコンをクリックし、しばらく待機します。全てのドライバインストールが終了したことを確認し「次へ」をクリックします。

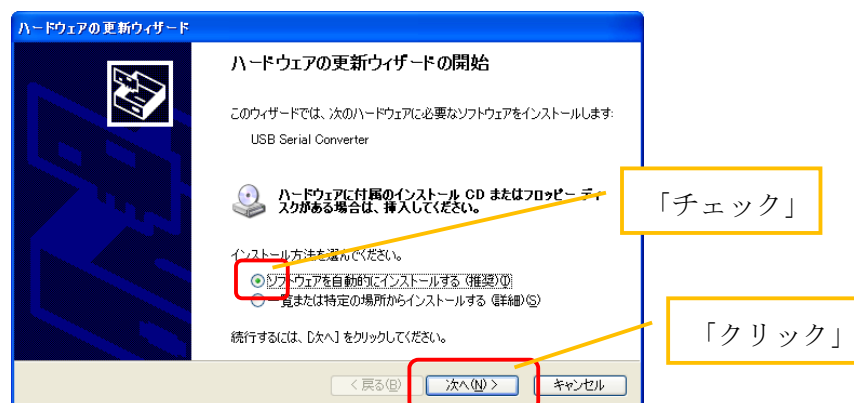
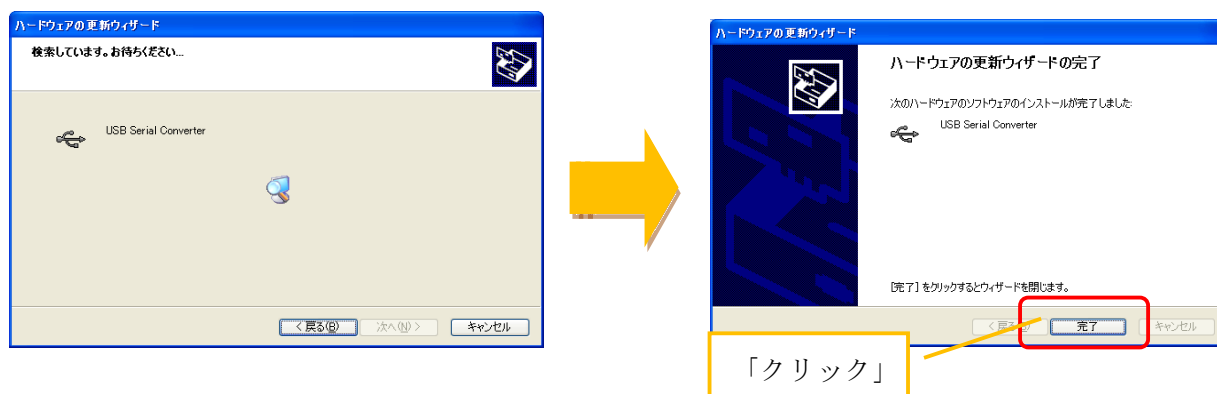
ここでスティックを PC に接続

「クリック

「クリック

インストール中…

インストール完了

自動でインストールが始まらない場合は⑧を参照願います。インストールが終了した場合は Plugwise ネットワーク構成へ進みます。

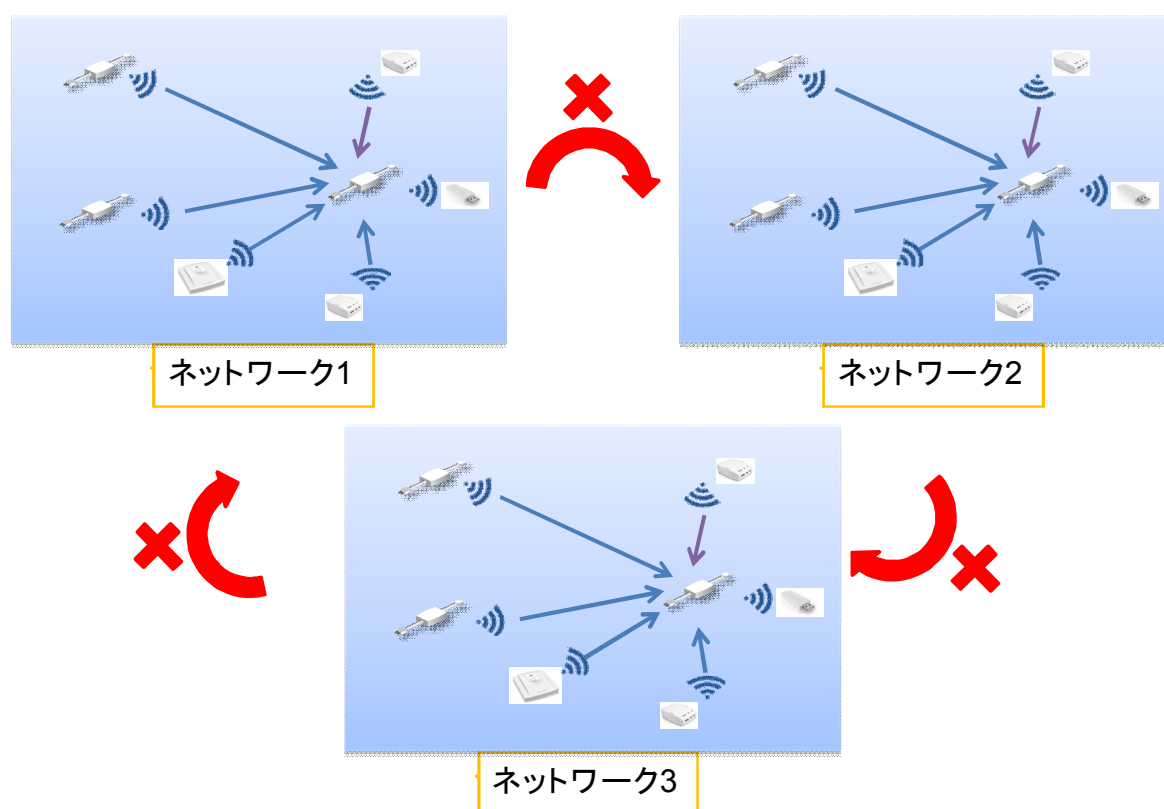
⑧ 「新しいハードウェアが見つかりました」と画面上のタスクトレイにポップアップウィンドウが表示されますのでそちらをクリックして下さい。以下の画面が立ち上がりので「ソフトウェアを自動的にインストールする」にチェックが入っていることを確認し「次へ」をクリックします。

⑨ USB ソフトウェアを検索し自動的にインストールが開始されますので完了しましたら「完了」をクリックして下さい。Source のインストールは全て完了です。

続いて Plugwise ネットワーク構成に移ります。

2．3　Plugwise ネットワーク構成

Plugwise Source のネットワーク構成手順を以下に記します。本章では、モジュールを Source アプリケーションへ登録します。登録すると同時に各モジュール間の「紐付け」を行い、ネットワークを確立させることができます。

※スターターパック、ミニマムパックのモジュールを使用される場合は「紐付け」は完了している為、Source アプリケーションへの登録のみです。以下手順が一部省略されます。

■Plugwise ネットワークとは？

・Plugwise ではモジュール間の紐付けを行うことにより、ユニークなネットワーク番号が個々のモジュールに割り当てられます。モジュールはこの番号を記憶しローカルネットワークでのみ通信を行いますので、基本的に他のネットワークと干渉することはありません。

Plugwise ネットワーク構成のイメージ図

—注意事項—

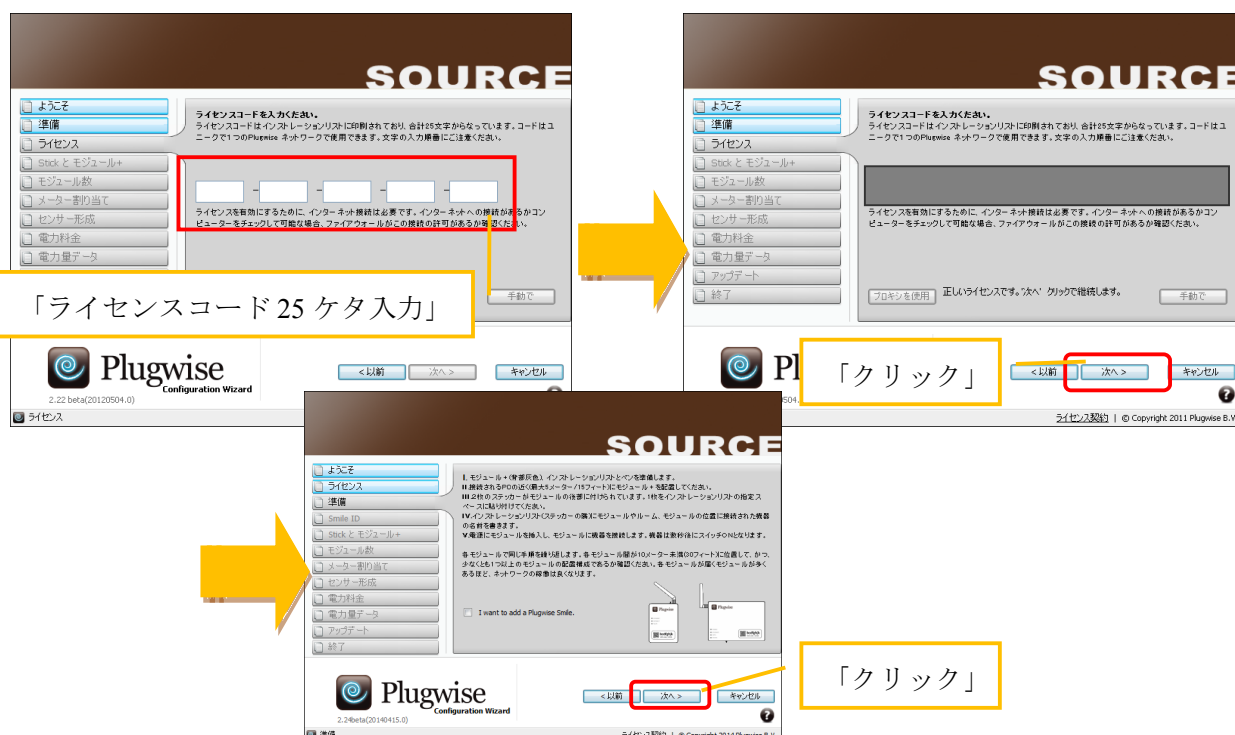
・インターネットに接続した状態で行なって下さい。

・ライセンスを用意し、スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行って下さい。

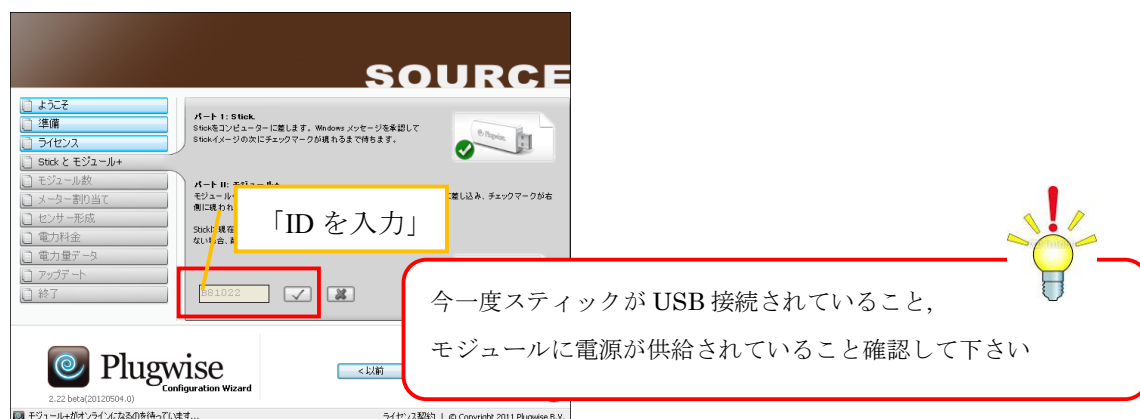
・モジュールに電源を供給した状態且つ通信が確立する距離に配置した状態で行って下さい。プラスモジュールはスティックの半径 5m以内推奨、子機モジュール、SED はプラスの半径 10m以内推奨です。

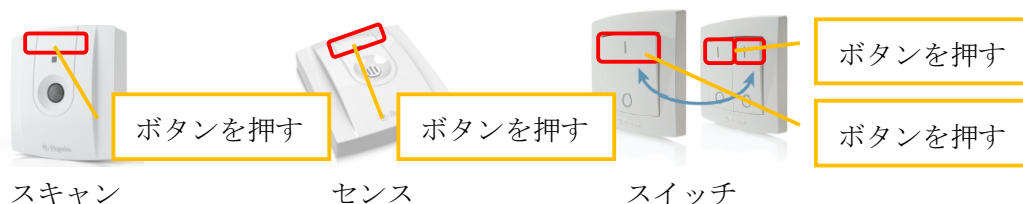
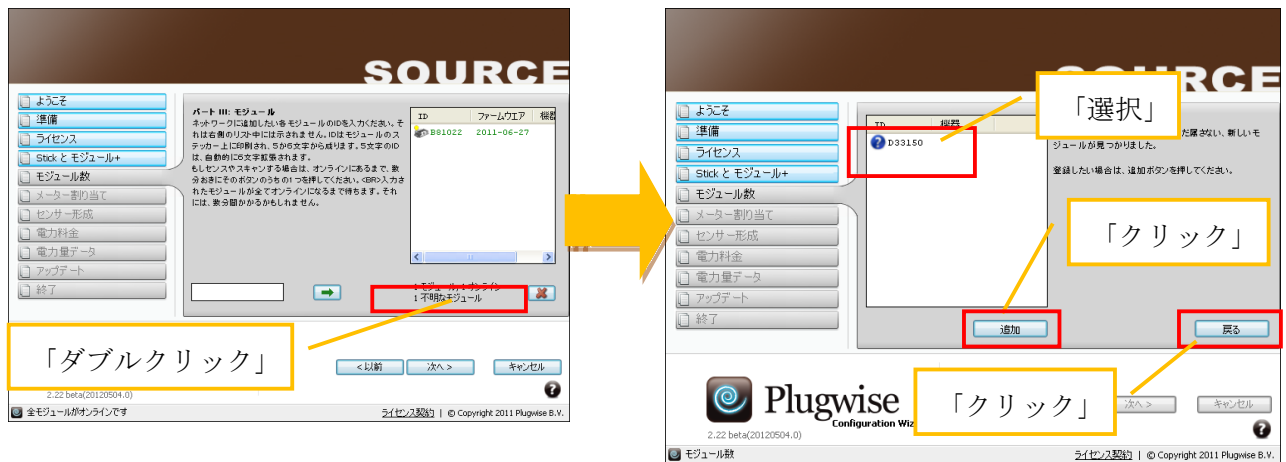
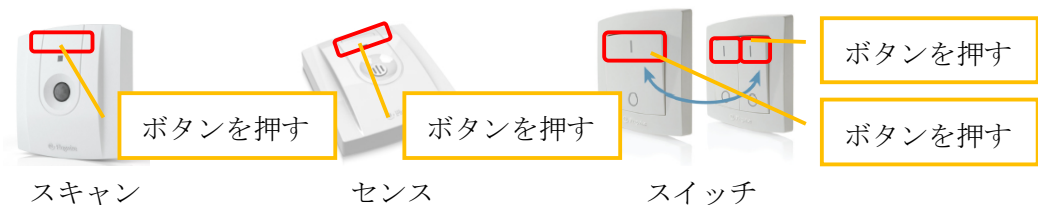
・新しく登録するモジュールについては必ずリセットされたものをご用意下さい。

① 前章から続けて操作をする際、またはスタートメニューから「全てのプログラム⇒Plugwise Source⇒コンフィグレーションウィザード」することで以下画面が表示されます。「次へ」をクリックします。

② 「Installation list」に記載してあるライセンスコード 25 ケタを入力します。Plugwise サーバーに接続し認証すると次のステップへ進むことができます。「次へ」をクリックします。

③ スティック及びプラスモジュールの認証を行ないます。正しく行われると緑色のチェックマークが表示され、次のステップへ自動進行します。認証には数分掛かる場合があります。赤枠内にリセットされたプラスモジュール ID を手動で入力して認証を行って下さい。入力後チェックマークをクリックします。スターターパック、ミニマムパックのモジュール使用する場合は自動進行します。

※スティックが認識されない場合はトラブルシューティングを参照下さい。

※プラスモジュールが認識されない場合はリセット処理を行う必要があります。「モジュールのリセット」の章を参照して下さい。

■スターターパック、ミニマムパックのモジュール使用する場合は⇒⑥へ

④ ネットワークに子機モジュール、SED を登録します。先ほど認証したプラスモジュールがリストに表示されていますが、新たに登録したいリセットされた子機モジュール、SED については「不明なモジュール」と表示され認証待ちの状態です。SED については表示されるまで正面のボタンを数秒おきに押して下さい。(スイッチのセパレートタイプを使用する場合は左右両方のボタンを押して下さい。) 画面上の「不明なモジュール」をダブルリックします。

⑤ 追加したいモジュールがリストに表示され ID が一致していることを確認します。その後、ネットワークに追加したいモジュールの ID を選択し、「追加」をクリックします。その後「戻る」をクリックしモジュール登録の画面に移ります。

⑥ 以下の画面では追加したモジュールの認証を行なっている状態です。全てのモジュールがオンラインになるまで待機して下さい。SED については表示されるまで正面のボタンを数秒おきに押して下さい。(スイッチのセパレートタイプを使用する場合は左右両方のボタンを押して下さい。)その後、全てのモジュールがオンラインになることを確認し、OK ならば「次へ」をクリックして下さい。 1 モジュールがオンラインになるには最大で 15 分程掛かります。

⑦ 続いてモジュールの接続されている負荷（機器タイプ）及び設置場所（ルームタイプ）の情報をプルダウンから選択します。SED については設置場所（ルームタイプ）及びスイッチンググループ（このグループに属しているモジュールに対して電源制御を行う ※詳細説明は「ルーム画面」の章を参照）の情報をプルダウンから選択します。接続する負荷の名前と設置場所の名前を入力あるいはプルダウンより選択します。必要な情報を入力したら「保存」後「次へ」をクリックします。

※ この情報は、Source の機器画面の中で常時変更可能です。

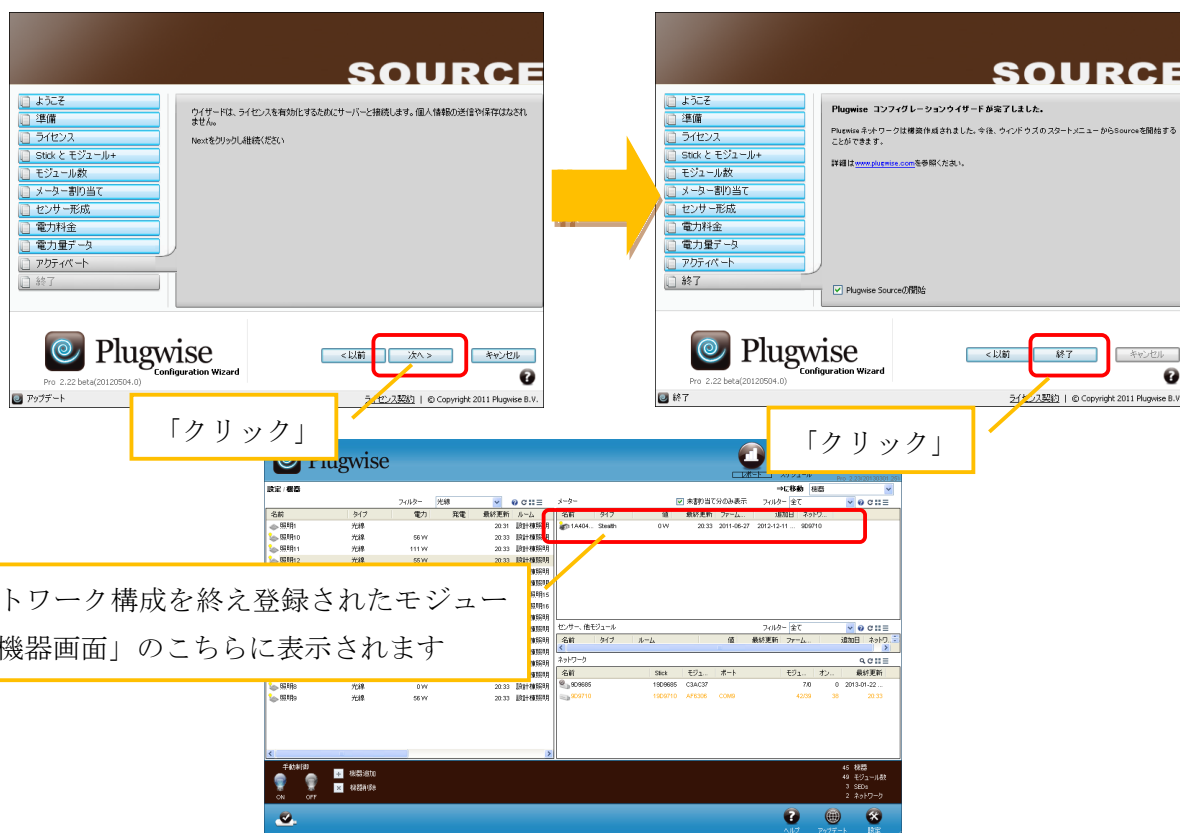
⑧ 電力会社との契約期間、電気料金及び CO_2 排出量の換算値を入力します。また、夜間割引が適用される場合には「ピーク時」に別途電気料金を入力します。入力を終えたら「次へ」を選択します。※この情報は、Source のエネルギー換算値画面の中で常時変更可能です。

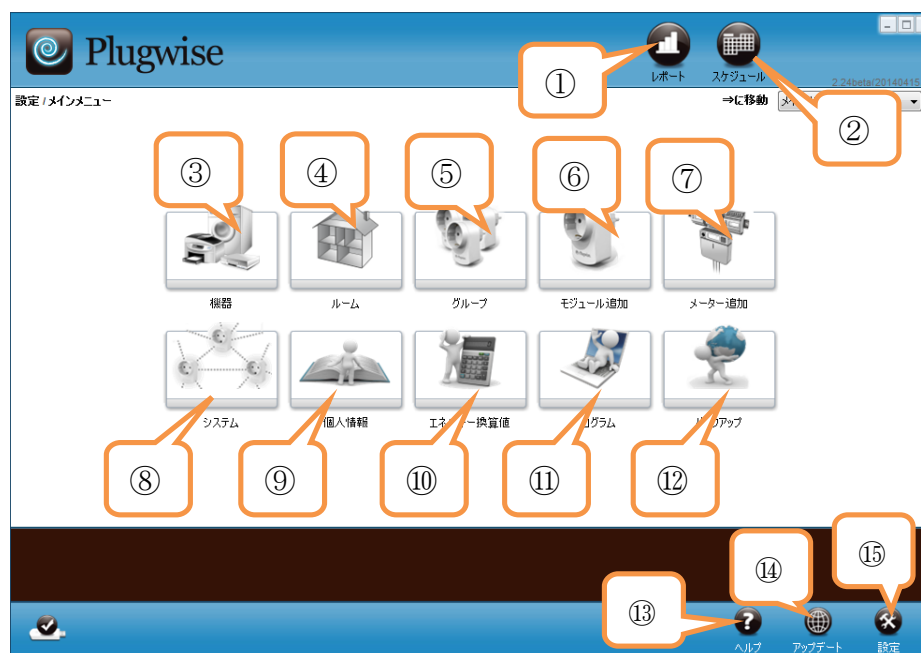
※電気料金は各電力会社の契約条件によって異なります。お客様の契約されている電気料金を確認して数値の入力を行なって下さい。また、詳細は各電力会社のホームページに記載されている数値を確認して下さい。(記入例：20¥/kWh ※基本料金を除く大規模ビルの電力料金単価の一般例になります。)

※CO_2 排出量も同様に各電力会社にて異なります。各電力会社のホームページに記載されている数値を確認して下さい。(記入例：0.374kg/kWh ※電気事業者の一般例になります。)

⑨ 利用者の個人情報入力画面に移ります。「個人情報が Plugwise に送信されることに合意します」のチェックマークを外し、「次へ」を選択します。警告メッセージが表示される場合は「Yes」をクリックし次へ進みます。※この情報は Source の個人情報の中で常時変更可能です。

⑩ 続いて郵便番号及び国の情報入力を求められますが、「使用量データが送られることに合意します」のチェックマークを外し「次へ」をクリックして下さい。警告メッセージが表示される場合は「Yes」を選択し次へ進みます※この情報は Source の個人情報の中で常時変更可能です。

⑪ ライセンスを有効化する為にサーバに再度接続します。「次へ」を選択して下さい。以上でネットワークの構築は完了です。最後に「終了」をクリックして下さい。ネットワーク構成を終えて登録されたモジュールは以下の画面内に表示されます。

3. Source メインメニューコンテンツ解説

Source を立ち上げ画面右下の「設定」ボタンをクリックすることでメインメニューが表示されます。クリックすることで各コンテンツに移行することができます。

項目	用途及び機能
① レポート	現在値及び６０分値の消費電力を表示することができます。また、SED のロギングデータを表示することができます。計測データを一つの表形式で纏めた帳票データを CSV ファイルで出力することができます。
② スケジュール	スケジュールによる電源制御を行うことができます。リレーを有するステルスに対してのみ有効な機能です。
③ 機器	全てのモジュールの通信状態、消費電力（瞬時値）、センサ計測情報、モジュールのプロパティ情報を確認することができます。
④ ルーム	機器を設置場所毎に機器をグループ化することができます。グループ化した機器の消費電力を一括で管理できます。
⑤ グループ	機器を計測負荷対象毎に機器をグループ化することできます。グループ化した機器の消費電力を一括で管理できます。
⑥ モジュールの追加	新たにモジュールを追加することができます。測定対象を増やしたい場合に使用します。選択可能にするにはスティックとプラスモジュールの接続が必要です。
⑦ メーター追加	「Smile」を追加することができます。※この機能は使用しません。
⑧ システム	SED を使用する際のデフォルト設定の変更を行なえます。
⑨ 個人情報	住所や氏名の登録、また Source に関するアップデート情報を Email アドレスに通知する設定を行なうことができます。※本コンテンツの変更は行なわないで下さい

⑩ エネルギー換算値	CO2 排出量、電気料金の換算値、及び電気料金の夜間割引の設定を行なうことができます。
⑪ プログラム	言語、通貨、バックアップ,プロキシサーバー、ポート番号の設定を行なうことができます。また Web server にアクセスすることができます。
⑫ バックアップ	Source に蓄積したデータ及び登録情報をバックアップファイルとして保存することができます。
⑬ ヘルプ	PDF の取り扱い説明書を参照できますが英語表記となっています。 Source をご使用の際は本取り扱い説明書をご覧下さい。
⑭ アップデート	Source 及びモジュールの Firmware をアップデートすることができます。
⑮ 設定	本メインメニュー画面に移動することができます。

メインメニュー画面構成

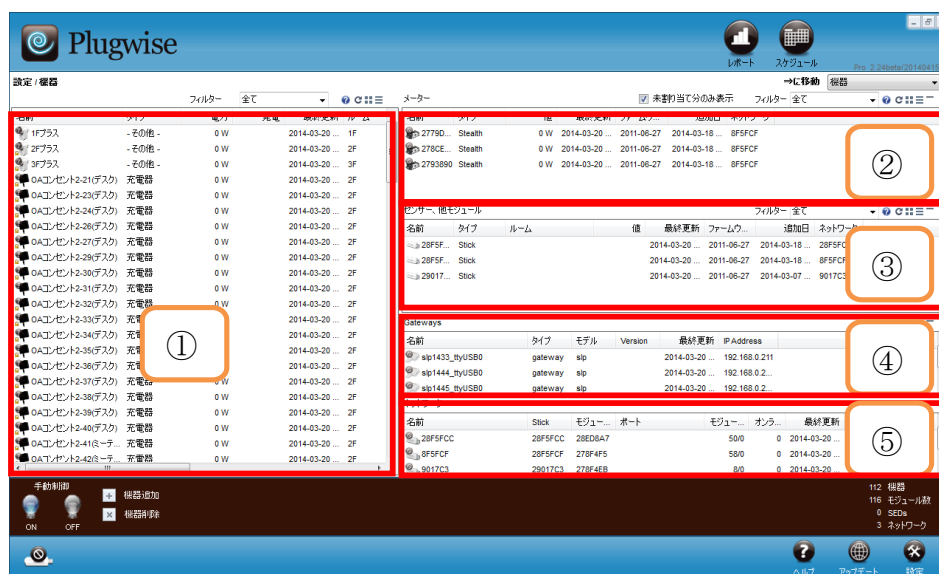
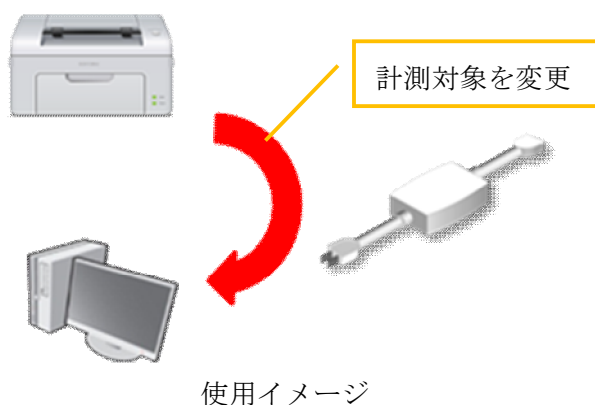
3. 1　機器画面

機器画面の基本説明を記します。

■機器とは？

Source ではエネルギーを管理する為に「機器」と呼ばれる箱を作成します。作成する機器は以下 Source 画面の「①」に表示され「②」に表示されているネットワーク構成で登録したモジュールをドラッグ＆ドロップして割り当てます。割り当てることでモジュールの計測した負荷データがこの機器に蓄積します。この機器を作成する際に、計測する負荷の情報や機能の制限を加えて機器を管理することができます。

この機器の機能を活用する方法として運用例を説明します。予め「パソコン」「プリンター」という名の機器を 2 台分作成しておきます。モジュールを「パソコン」に割り当てて負荷データを計測しました。計測データは「パソコン」の機器に対して蓄積されます。次に負荷の値を比較する為に、モジュールをプリンターに繋ぎ換えて計測しました、この際、モジュールを「プリンター」の機器に対して割り当てを変更します。計測データは「プリンター」の機器に対して蓄積されます。それぞれの機器毎に負荷データは蓄積されるので、レポート画面では比較して閲覧することができます。また、負荷毎のデータをわかりやすく容易に管理することができます。

使用イメージ

① 機器一覧

作成した機器が一覧で表示されます。右クリックすることでプロパティを変更できます。

「機器のプロパティ設定」

■「名前」

・負荷の名称を入力します。機器を分類する為、ユニークな名称を付けることを推奨します。

■「タイプ」

・負荷の対象によって選択します。選ぶタイプによりアイコンが変化します。

■「メーター」

・機器に割り当てられている ID です。

■「電力」

・モジュールが計測している瞬時値が表示されます。

■「スケジュール」

・モジュールに設定されているスケジュール情報です。

■「ルーム」

・機器が属しているルームを表示しています、プルダウンより変更可能です。

■「一時的にネットワークから除外」

・チェックを付けることで対象のモジュールをネットワークから一時的に除外することが出来ます。この設定を有効にすることで、対象のモジュールとは無通信状態となりますので、ネットワークの負荷を一時的に低減することができます。また、不用意な操作を避けたい負荷（照明）が接続されている場合や一時的に ON/OFF 操作を禁止したい場合に設定を有効にして下さい。

■「合計計電力量に含めない」

・レポート画面で合計電力量を表示する際に除外対象とします。

■「手動 OFF 禁止」

・手動制御をクリックした際の OFF 制御禁止とします。

■「発電機（ソーラー）等」

・発電機等にモジュールを接続し発電量を計測する際にチェックをつけます。レポート上での表示色が変わります。

■「ブロードキャスト(ON/OFF)に応答」

・手動 OFF 禁止にチェックを付けることで選択できます。チェックを付けることで SED による ON/OFF 制御を有効にします。※チェックが付いていない場合は OFF 制御が働きません。

■「電力量」

・今まで計測した合計の電力量が表示されます。

※右の「000」アイコンをクリックすることで合計電力量計算の開始日付を変更することができます。

② モジュール一覧

ネットワーク構成で登録したモジュールが一覧で表示されます。ON/OFF 制御の状態に合わせてアイコン横のランプマークが変化します。

「ON 」「OFF 」「オフライン ? 」（モジュールに電源が供給されていないか、または通信不可）

③ センサー、他モジュール一覧

・ 登録済みのスティック、SED が表示されます。右クリック⇒プロパティで詳細情報を表示します

④ Gateways

・ 登録済の SLP が表示されます。右クリック⇒プロパティで詳細情報を表示します。

⑤ ネットワーク

・ 登録済のスティックに紐付されているモジュールの情報が表示されます。右クリック⇒プロパティで詳細情報を表示します。

「スイッチのプロパティ設定」

■「ネットワーク」

・属するネットワークを表示します。（スティックの ID）

■「ルーム」

・スイッチが属しているルームを表示しています、プルダウンより変更可能です。

項目	用途及び機能	初期値
起動間隔	SED（スリープ端末装置）はバッテリー駆動のモジュールです。電池の消耗を防ぐ為、スイッチボタンが押された場合か条件が揃った場合（スキャン⇒人を検知した場合　センス⇒測定間隔毎）のみ Source と通信を行います。 その為、長時間通信を行っていないと故障してしまったのか、条件が揃っていないだけなのか判断がつかないので定期的にライブチェック行っています。SED は「起動間隔」の時間内に、1 度起動して Source と通信を行います。	4 時間
起動経過	SED が起動後に通信を続ける時間です。	20 秒

スイッチへ送信する設定項目

※特別な理由がない場合は初期値の変更しないで下さい。設定値を変更することにより電池の寿命が縮まります。

■設定の保存について

変更した設定を有効にするには「保存」をクリック後にスイッチ本体のボタン（○か|）を数回押して下さい。機器画面上のアイコンが以下のように変化することを確認して下さい。ボタンを押さずとも暫く待機することで設定は有効になりますが最大で数十分掛かります。

「スキャンのプロパティ設定」

■「ネットワーク」

・属するネットワークを表示します。（スティックの ID）

■「ルーム」

・スキャンが属しているルームを表示しています、プルダウンより変更可能です。

項目	用途及び機能	初期値
スイッチ OFF 遅延	スキャンは人を検知すると同じスイッチンググループのモジュールに対して電源制御「ON」を送信します。その後、電源制御「OFF」を送信するまでの待機時間です。待機時間は 1 分～4 時間と幅広く選択できますが **1.5 時間以上の設定は行わないようお願いします。1 時間までの設定値として下さい。**	15 分
感度	人検知の範囲を「中」「強」の 2 タイプで設定できます。仕様の詳細については「機器　取扱説明書」を参照願います。	中
デイオーバーライド（昼光利用）	チェックされることで昼光利用を有効にします。測定された照度が一定のレベルを上回った時、スキャンの人検知を無効にします。測定された照度から一定レベルを下回るレベルの照度に落ちた場合に人検知を再び有効とします。仕様の詳細については「機器　取扱説明書」を参照願います。	無効
次回起動で測定	チェックし「保存」することで、昼光利用の為の設定値を測定します。	無効
起動間隔	スイッチに記載してある内容と同様です。	4 時間
起動経過	スイッチに記載してある内容と同様です。	20 秒

スキャンへ送信する設定項目

■設定の保存について

変更した設定を有効にするには「保存」をクリック後にスキャン本体の通信 LED ボタンを数回押して下さい。機器画面上のアイコンが以下のように変化することを確認して下さい。ボタンを押さずとも暫く待機することで設定は有効になりますが最大で数十分掛かります。

「センスのプロパティ設定」

■「ネットワーク」

・属するネットワークを表示します。（スティックの ID）

■「ルーム」

・センスが属しているルームを表示しています、プルダウンより変更可能です。

項目	用途及び機能	初期値
センス測定間隔	現在の温度と相対湿度を間隔毎に Source へ送信します。※間隔を短くすることで電池の寿命を早めます。	15 分
による切り替え	「温度・湿度」のしきい値を設定し、同じスイッチンググループのモジュールに対して電源制御を行います。	中
アドバンス設定	上限しきい値および下限しきい値を設定し幅を持たせた制御を行うことができます。この幅を不感帯と呼ばれ、その範囲内では何も制御を行いません。 「による切り替え」のしきい値を 25℃と設定されていた場合、実際の温度が 25℃近辺をふらついていると、頻繁に ON/OFF 制御が働くことになり、接続されている負荷に対して負担がかかります。これを防ぐ為に不感帯を持たせた制御を行います。	無効
起動間隔	スイッチに記載してある内容と同様です。	4 時間
起動経過	スイッチに記載してある内容と同様です。	20 秒

センスへ送信する設定項目

■設定の保存について

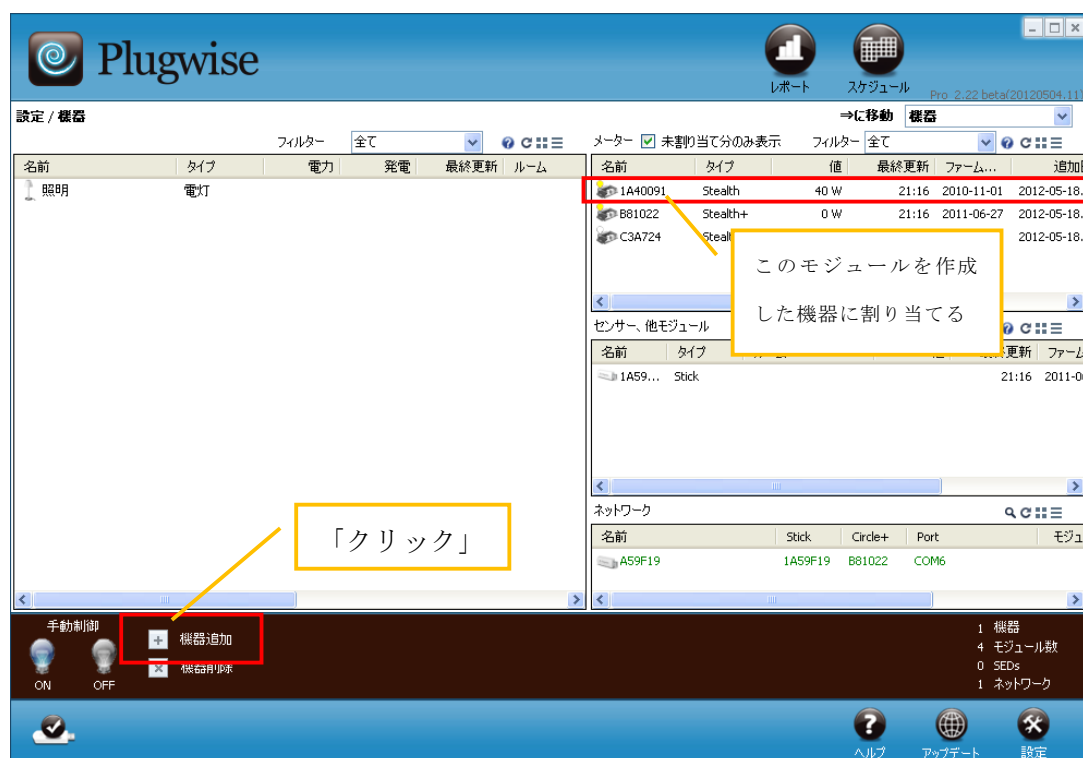
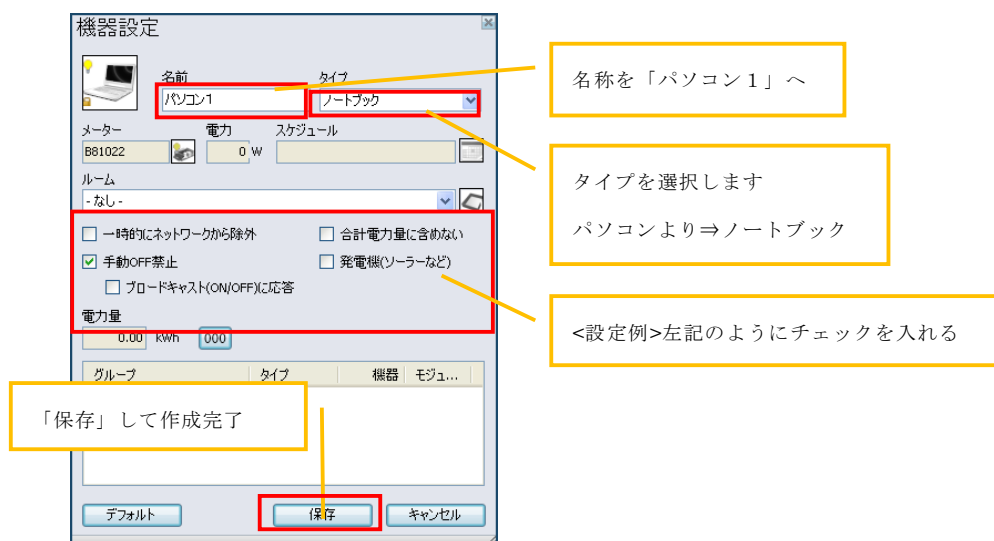
変更した設定を有効にするには「保存」をクリック後にセンス本体の通信 LED ボタンを数回押して下さい。機器画面上のアイコンが以下のように変化することを確認して下さい。ボタンを押さずとも暫く待機することで設定は有効になりますが最大で数十分掛かります。

⑥ ネットワーク情報

・ スティックに紐付けられているプラスモジュール、モジュールの総数等、構築したネットワークの情報が表示されます。
  ※Home 版を使用の場合は非表示

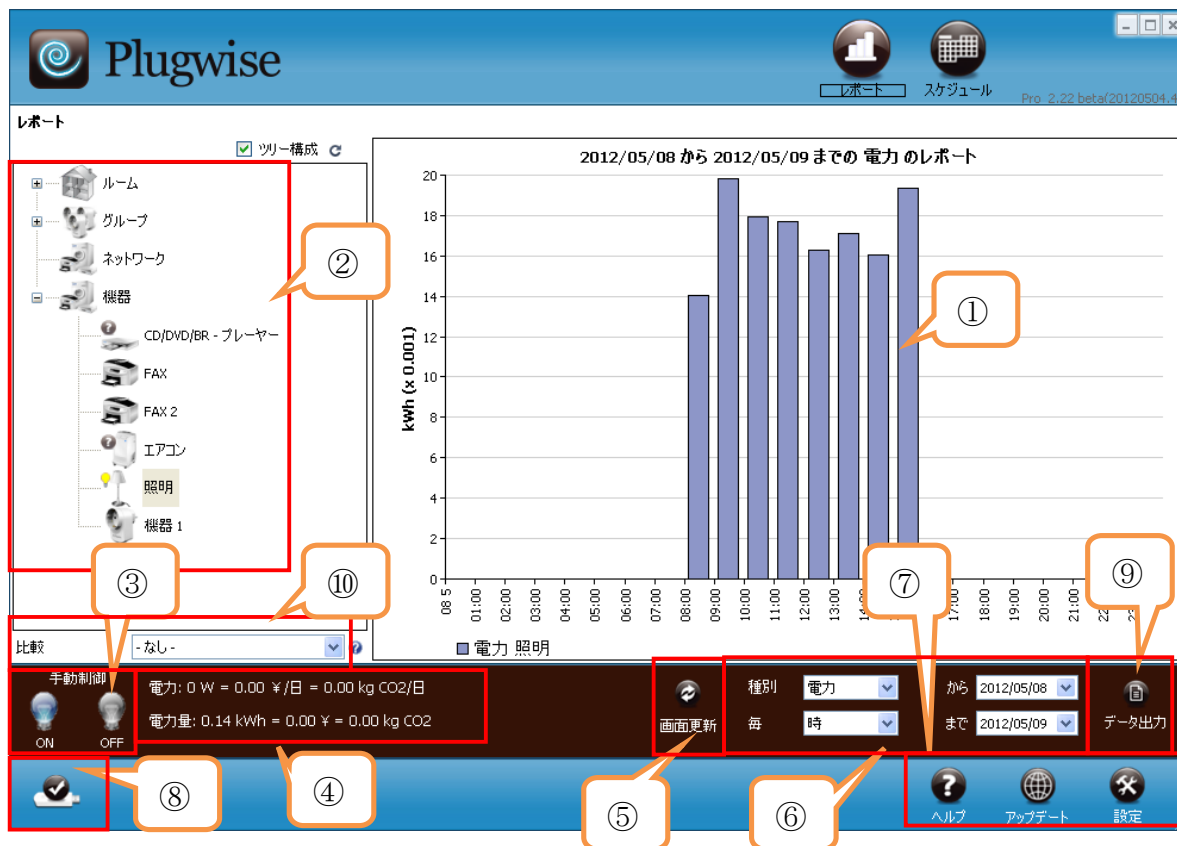
■機器作成＋モジュール割り当て方法

以下の手順で機器の作成を行なうことができます。モジュールを割り当てることで計測した負荷データがこの機器に蓄積します。この機器を作成する際に、計測する負荷の情報や機能の制限を加えて機器を管理することができます。

① 「パソコン 1」という名前の機器を作成し ID が「1A40091」のモジュールを割り当ててみます。「機器追加」をクリックします。

② 登録する機器の名称変更及びタイプを選択します。機器の設定については一般的な方法を記します。最後に「保存」して作成完了です。

③　ドラッグ&ドロップして登録したい機器に対してモジュールを割り当てます。

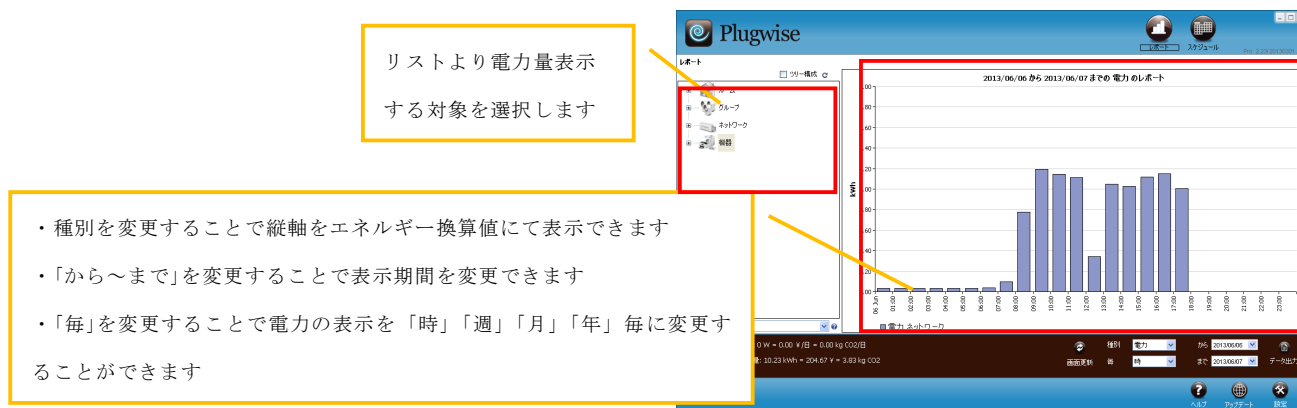
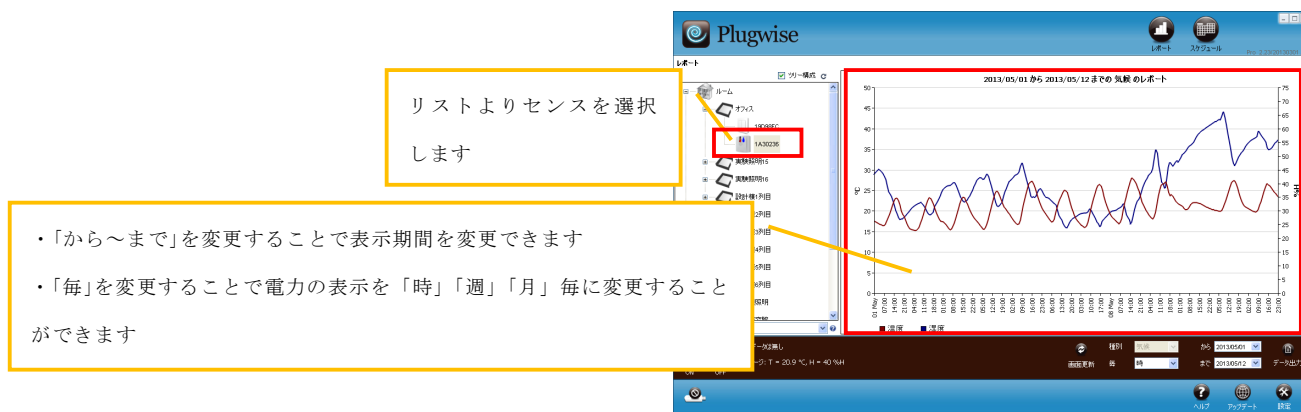
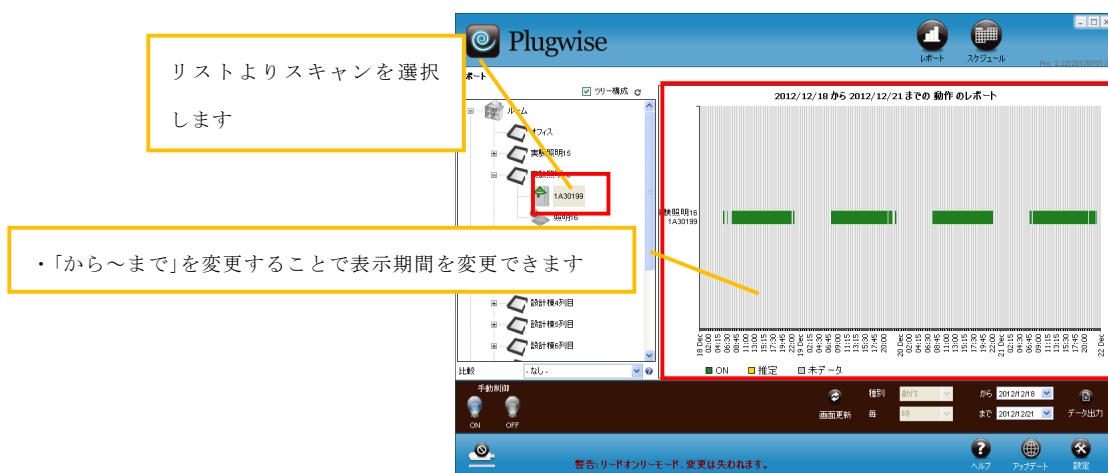
④　「電力」が表示されることを確認して下さい。

3. 2　レポート画面

以下にレポート画面の基本説明を記します。

① 時間別棒グラフ

時間別の電力量データが表示されます。デフォルトは本日分の電力量が１時間毎で表示されます。また、SED が Source 上でグループ設定されている場合は、センスの温度湿度データ、スキャン人感動作データを表示できます。

<u>※機器にモジュールを割り当ててからグラフが表示されるまで最大で２時間程度掛かります。</u>

<u>毎正時３～５分過ぎに棒グラフは更新されます。</u>

電力量表示画面

動作表示画面

動作表示画面

② レポート機器一覧

・ルーム、グループ、機器で登録した内容がツリー構成にて表示されます。アイコン横の＋記号をクリックすることで主要項目を広げることができます。

・制御状態に合わせてアイコン横のランプマークが変化します。

③ 手動制御

・機器アイコン（ 照明 ）を選択した状態で手動制御のアイコン（ 手動制御 ON OFF ）をクリックすると負荷の ON/OFF 制御が可能です。実行する場合は、機器アイコン左に表示されている操作結果のフィードバック（ランプマーク）で操作が確実に行われたことを確認して下さい。

■機器アイコン左のフィードバック情報

「ON 」

「OFF 」

「オフライン ? 」（モジュールに電源が供給されていないか、または通信不可）

④ リアルタイム電力・電力量表示

・リアルタイムの計測値が「電力」として、⑥で設定した期間の計測データのトータルが「電力量」として表示されます。また電気料金及びCO_2排出量は「エネルギー換算値」で設定した値を用い演算表示されます。

⑤ 画面更新

・レポート画面の更新を行ないます。もし、最新データが更新されていない場合はこちらをクリックすることで計測データを各モジュールから吸い上げることができます。

⑥ 棒グラフ表示切替

・選択した「種別」「毎」「期間」の組み合わせにより①棒グラフの表示方法を切替えます。

⑦ コンテンツ移動

・選択した各コンテンツへ移動します。

⑧ スティック通信状態

・スティックが、リアルタイムにネットワークに接続している時の表示です。

・スティックがデータを送信または受信している時の表示になります。時間および下のバーは伝送の進行状態を示しています。

・スティックがモジュールに接続した時の表示です。スティックを接続した状態で Source を起動させるとこのような表示となります。

・スティックが接続されていない状態、または Source 上で認識されていない時の表示です。

⑨ データ出力

・②で選択している「機器」において、CSV ファイル形式のデータ出力が行なえます。

—注意事項—

・計測データは 1kWh 当たりの表示となります。

・丸 1 日分計測データが「0」または、モジュールの供給電源が OFF となっていた場合はその日付のデータは出力されません。

■電力量を CSV 出力した場合のレポートデータ

※出力ファイル名は選択している機器、グループ、ルームの名称となります。

	Date	Day	Time	Name	Type	Room	RoomType	kWh	kgCO2	Costs	peak_kWh	peak_kgCO2	peak_Costs	offpeak_kWh
11	2012/5/7	月	9:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
12	2012/5/7	月	10:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
13	2012/5/7	月	11:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
14	2012/5/7	月	12:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
15	2012/5/7	月	13:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
16	2012/5/7	月	14:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
17	2012/5/7	月	15:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
18	2012/5/7	月	16:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
19	2012/5/7	月	17:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
20	2012/5/7	月	18:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0.0309	0.4631	0.309	0	0	0	0.0309
21	2012/5/7	月	19:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0.032	0.4794	0.32	0	0	0	0.032
22	2012/5/7	月	20:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0.0159	0.2378	0.159	0	0	0	0.0159
23	2012/5/7	月	21:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
24	2012/5/7	月	22:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
25	2012/5/7	月	23:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
26	2012/5/8	火	0:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
27	2012/5/8	火	1:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
28	2012/5/8	火	2:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
29	2012/5/8	火	3:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
30	2012/5/8	火	4:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
31	2012/5/8	火	5:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0
32	2012/5/8	火	6:00	CD/DVD/BR－プレーヤー	player_disc			0	0	0	0	0	0	0

	peak_Costs	offpeak_kWh	offpeak_kgCO2	offpeak_Costs	prod_kWh	Revenue	peak_prod_kWh	peak_Revenue	offpeak_prod_kWh	offpeak_Revenue
29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34	0	0.0137	0.1366	0.273	0	0	0	0	0	0
35	0	0.0212	0.2115	0.423	0	0	0	0	0	0
36	0	0.0211	0.2108	0.422	0	0	0	0	0	0
37	0	0.0244	0.2442	0.488	0	0	0	0	0	0
38	0	0.0024	0.0241	0.048	0	0	0	0	0	0
39	0	0.0196	0.1955	0.391	0	0	0	0	0	0
40	0.325	0	0	0	0	0	0	0	0	0
41	0.635	0	0	0	0	0	0	0	0	0
42	0	0.02	0.1996	0.399	0	0	0	0	0	0
43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
45	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

レポート画面に表示されているデータがそのままの形で出力されます。「毎」を「時」と選択している場合は１時間毎、「月」と選択している場合は「１カ月」毎の電力データが表示されます。１行目の項目について以下に説明します

■Date_＋Day_＋Time

・日付、曜日、時刻が表示されます。

■Name＋Type

・「機器」にて登録されている名称及びタイプが表示されます。

■Room＋Room_Type

・属している部屋名称及びタイプが表示されます。

■kWh+kgCo2+Costs

・計測データが各単位で表示されます。出力データは時刻（時、日、週、月、年）毎の合算値です。また CO2 及び料金は「エネルギー換算値」にて登録した値に従い算出表示されます。Peak,off peak の設定は問いません。

<例>5/8 火曜日 9:00⇒5/8 火曜日 9:00～10:00 間の計測データ。

■peak_kWh+peak_kgCo2+peak_Costs

・「エネルギー換算値」に設定したピーク時間帯の設定時間帯の計測データを表示します。

■offpeak_kWh+offpeak_kgCo2+offpeak_Costs

・「エネルギー換算値」に設定した OFF ピーク時間帯における計測データを表示します。

■Prod kWh+Revenue

・「発電量」「発電料金」を表示します。

■温湿度を CSV 出力した場合のレポートデータ

※出力ファイル名は選択しているセンスの名称となります。

	A	B	C	D
1	Date	Name	Temperature	Humidity
2	2012/12/18 0:00	1A209BF	[illegible]	37
3	2012/12/18 1:00	1A209BF	17.5	38
4	2012/12/18 2:00	1A209BF	17	38
5	2012/12/18 3:00	1A209BF	16.7	39
6	2012/12/18 4:00	1A209BF	16.6	39
7	2012/12/18 5:00	1A209BF	16.4	40
8	2012/12/18 6:00	1A209BF	16.3	40
9	2012/12/18 7:00	1A209BF	16.2	40
10	2012/12/18 8:00	1A209BF	17.7	39
11	2012/12/18 9:00	1A209BF	20.3	40
12	2012/12/18 10:00	1A209BF	21	41
13	2012/12/18 11:00	1A209BF	22	41
14	2012/12/18 12:00	1A209BF	22.4	41
15	2012/12/18 13:00	1A209BF	22.6	42
16	2012/12/18 14:00	1A209BF	22.9	41
17	2012/12/18 15:00	1A209BF	22.9	41
18	2012/12/18 16:00	1A209BF	22.8	39
19	2012/12/18 17:00	1A209BF	22.6	37
20	2012/12/18 18:00	1A209BF	22.5	37
21	2012/12/18 19:00	1A209BF	22.3	37
22	2012/12/18 20:00	1A209BF	22.3	36
23	2012/12/18 21:00	1A209BF	22	34
24	2012/12/18 22:00	1A209BF	21.4	33
25	2012/12/18 23:00	1A209BF	19.6	33
26	2012/12/19 0:00	1A209BF	18.5	33
27	2012/12/19 1:00	1A209BF	17.7	33
28	2012/12/19 2:00	1A209BF	17.1	32
29	2012/12/19 3:00	1A209BF	16.6	31
30	2012/12/19 4:00	1A209BF	16.1	31

レポート画面に表示されているデータがそのままの形で出力されます。「毎」を「時」と選択している場合は１時間毎、「月」と選択している場合は「１カ月」毎の電力データが表示されます。１行目の項目について以下に説明します

■Date

・データの時刻が表示されます。

■Name

・センスの「ID」が表示されます。

■Temperature+Humidity

・温度、湿度の計測データ表示されます。出力データは時刻（時、日、週、月）毎の平均値です。

■動作（人感）を CSV 出力した場合のレポートデータ

Name	On	Off	Minutes
実験照明16 1A30199	2012/12/26 7:47	2012/12/26 7:52	5
実験照明16 1A30199	2012/12/26 7:55	2012/12/26 7:57	2
実験照明16 1A30199	2012/12/26 8:02	2012/12/26 8:06	4
実験照明16 1A30199	2012/12/26 8:07	2012/12/26 8:21	14
実験照明16 1A30199	2012/12/26 8:22	2012/12/26 8:27	5
実験照明16 1A30199	2012/12/26 8:29	2012/12/26 10:09	100
実験照明16 1A30199	2012/12/26 10:11	2012/12/26 10:44	33
実験照明16 1A30199	2012/12/26 10:44	2012/12/26 10:59	15
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:00	2012/12/26 11:25	25
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:26	2012/12/26 11:34	8
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:35	2012/12/26 11:49	14
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:49	2012/12/26 11:51	2
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:51	2012/12/26 11:53	2
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:54	2012/12/26 11:56	2
実験照明16 1A30199	2012/12/26 11:57	2012/12/26 12:05	8
実験照明16 1A30199	2012/12/26 12:10	2012/12/26 12:27	17
実験照明16 1A30199	2012/12/26 12:31	2012/12/26 12:39	8
実験照明16 1A30199	2012/12/26 12:40	2012/12/26 12:45	5
実験照明16 1A30199	2012/12/26 12:46	2012/12/26 12:52	6
実験照明16 1A30199	2012/12/26 12:54	2012/12/26 12:59	5
実験照明16 1A30199	2012/12/26 12:59	2012/12/26 13:11	12
実験照明16 1A30199	2012/12/26 13:14	2012/12/26 13:18	4
実験照明16 1A30199	2012/12/26 13:18	2012/12/26 13:27	9
実験照明16 1A30199	2012/12/26 13:28	2012/12/26 13:40	12
実験照明16 1A30199	2012/12/26 13:42	2012/12/26 14:06	24
実験照明16 1A30199	2012/12/26 14:06	2012/12/26 14:18	12
実験照明16 1A30199	2012/12/26 14:18	2012/12/26 14:23	5
実験照明16 1A30199	2012/12/26 14:24	2012/12/26 14:49	25
実験照明16 1A30199	2012/12/26 14:50	2012/12/26 14:57	7

レポート画面に表示されているデータがそのままの形で出力されます。「毎」を「時」と選択している場合は１時間毎、「月」と選択している場合は「１カ月」毎の電力データが表示されます。１行目の項目について以下に説明します

■Name

・属しているルームの名称＋ID は表示されます。

■ON-Off

・スキャンが人を検知して ON を出力した時間及び、未検知になり OFF を出力した時間のタイムスタンプです。

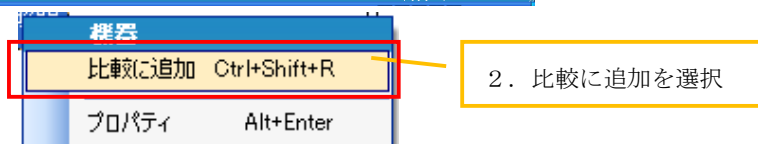
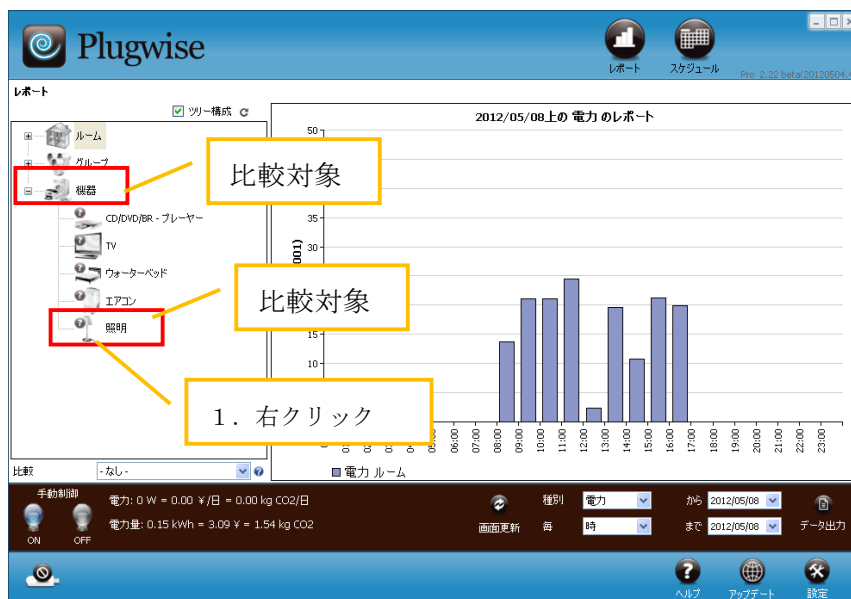
■Minutes

・ON 状態が継続した時間（分）です。

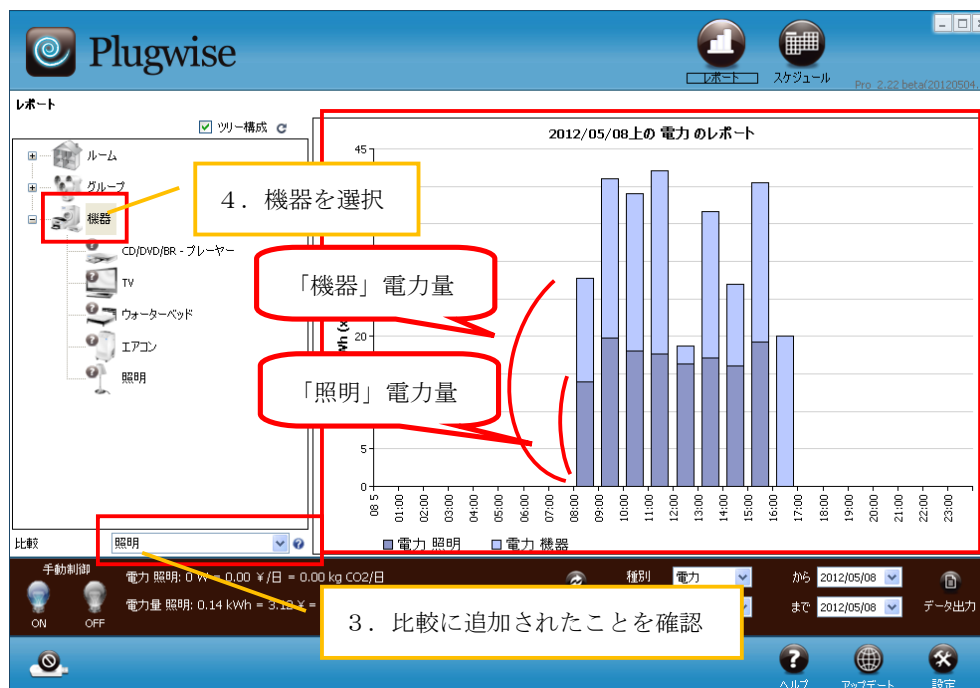
⑩ 電力量比較

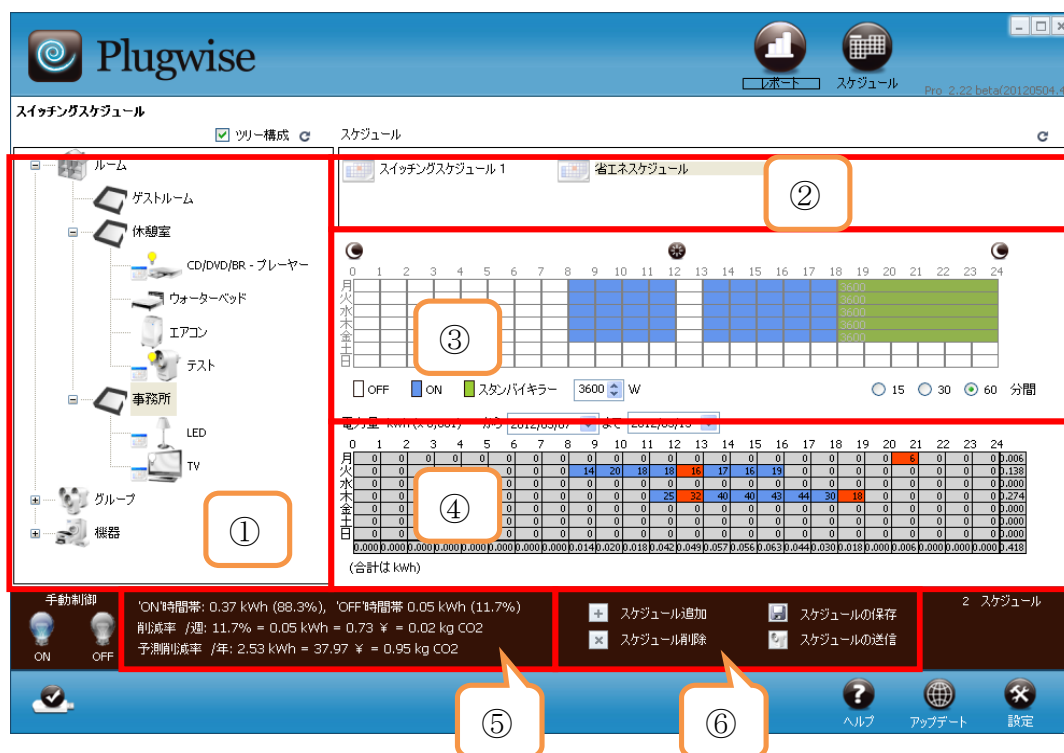
・機器２種類を選んで電力量を比較できます。以下に方法を記します。

１．「照明」と「機器」の電力量を比較します。「照明」を選んで右クリックして下さい。

２．比較に追加を選択します。

３．プルダウンに「照明」が追加されたことを確認して下さい。

４．「機器」を選択します。レポート上に「照明」と「機器」の電力量が同時に表示されます。

※電力量の大きいデータが背面に、少ないデータが前面に表示されます。積み上げ棒グラフではありません。

3. 3　スケジュール画面

スケジュール画面の基本説明を記します。スケジュールによる制御はリレーを有しているステルスプラス、ステルスにのみ有効な機能です。

① スケジュール機器一覧

・ルーム、グループ、機器で登録した内容がツリー構成にて表示されます。アイコン横の＋記号をクリックすることで主要項目を広げることができます。

・ON/OFF 制御の状態に合わせてアイコン横のランプマークが変化します。

「ON 」「OFF 」「オフライン ? 」（モジュールに電源が供給されていないか、または通信不可）

② スケジュールカレンダー一覧

・作成したスケジュールが一覧で表示されます。

③ スケジュール情報

・　②の中で選択しているスケジュール情報が表示されます。スケジュールは最短１５分間で設定できます。

白⇒OFF　青⇒ON　緑⇒スタンバイキラー

スタンバイキラー：消費電量がしきい値以下になると、モジュールの電源を OFF にすることができる待機電力カット機能です。しきい値の設定幅は 5～3600W です。

④ エネルギー情報（カレンダー表示）

・　スケジュールが組まれている機器を選択して下さい。スケジュールを組むことで削減される消費電力が赤色で表示されます。

⑤ エネルギー情報

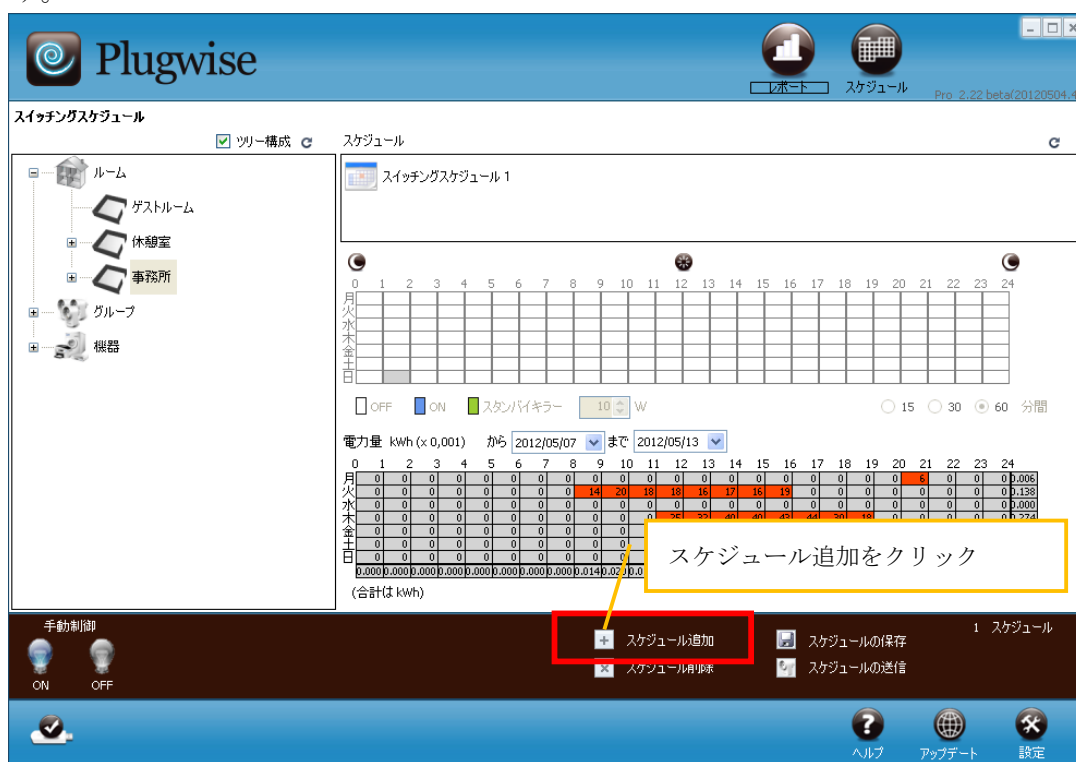
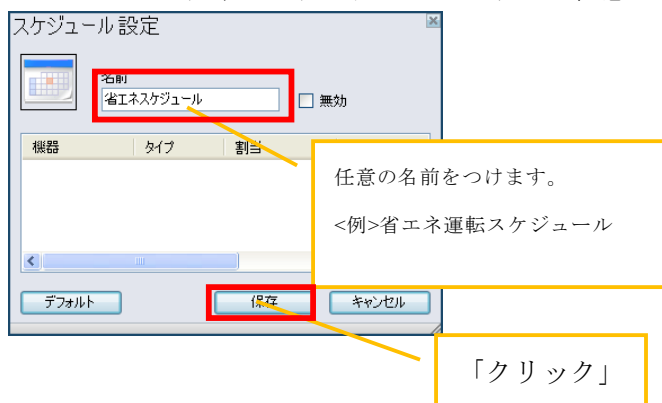
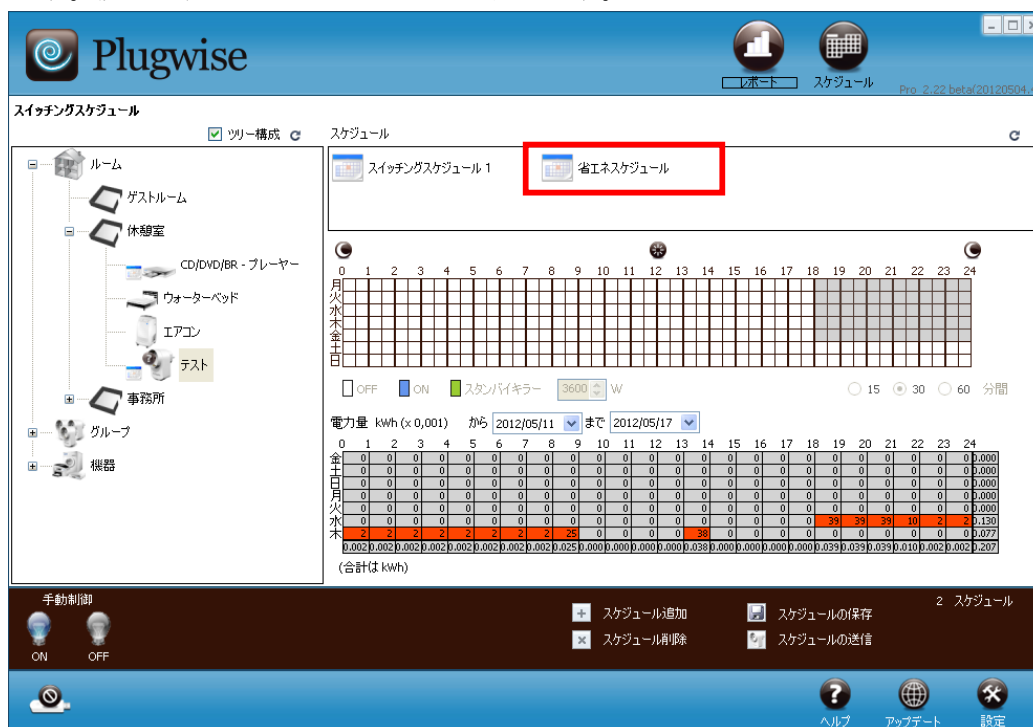
・ スケジュールを組むことでの、モジュール「ON」時間帯「OFF」時間帯、１週間当たりのエネルギー削減率、１年間当たりのエネルギー削減率が表示されます。

⑥ スケジュールコマンド

・ スケジュールの作成、削除ができます。また、作成したスケジュールを保存しモジュールに送信することができます。

■スケジュールを作成する

スケジュールの作成例を以下に記します。

① スケジュール設定を行なう為のカレンダーを作成します。スケジュールの追加をクリックします。

② ダイアログでウィンドウが表示されますので任意の名前をつけ「保存」をクリックします。

③ 新しく作成したスケジュールが表示されました。続けてスケジュールのカレンダー設定を行います。設定を行いたいカレンダーを選択します。

④ 赤枠内にてスケジュール設定を行えます。ドラッグ&ドロップでまとめてスケジュール設定を行ないたい箇所を選択できます。選択箇所は灰色となります。

<u>白⇒OFF　青⇒ON 緑⇒スタンバイキラー</u>

スタンバイキラー：消費電量がしきい値以下になると、モジュールの電源を OFF にすることができる待機電力カット機能です。しきい値の設定幅は 5～3600W です。

⑤ 設定したスケジュールを保存します。

⑥ 設定したスケジュールを機器に反映させます。設定したい機器に対してスケジュールをドラッグ&ドロップします。

⑦ カレンダーが機器に対して割り当てられたことを確認して下さい。最後に機器に対してスケジュール情報を送信します。以上の操作でスケジュール設定を行なうことができました。スケジュール設定することでの各機器のエネルギー削減率が予測表示されます。

3．4　ルーム画面

機器を設置場所毎に分類し管理する為の機能です。部屋毎に分類することでレポート画面では、部屋毎の計測データを一括で表示することができます。グループ画面と違い対象を複数の部屋に分類することはできません。また、こちらの画面でSEDと機器をグループ化することでレポート画面上にて計測データを表示できます。

① ルーム一覧

・作成したルームの一覧が表示されます。ツリー上で表示され、ルームの下には属している機器が表示されます。作成したルームは「レポート」「スケジュール」画面にて表示されます。

② 機器一覧

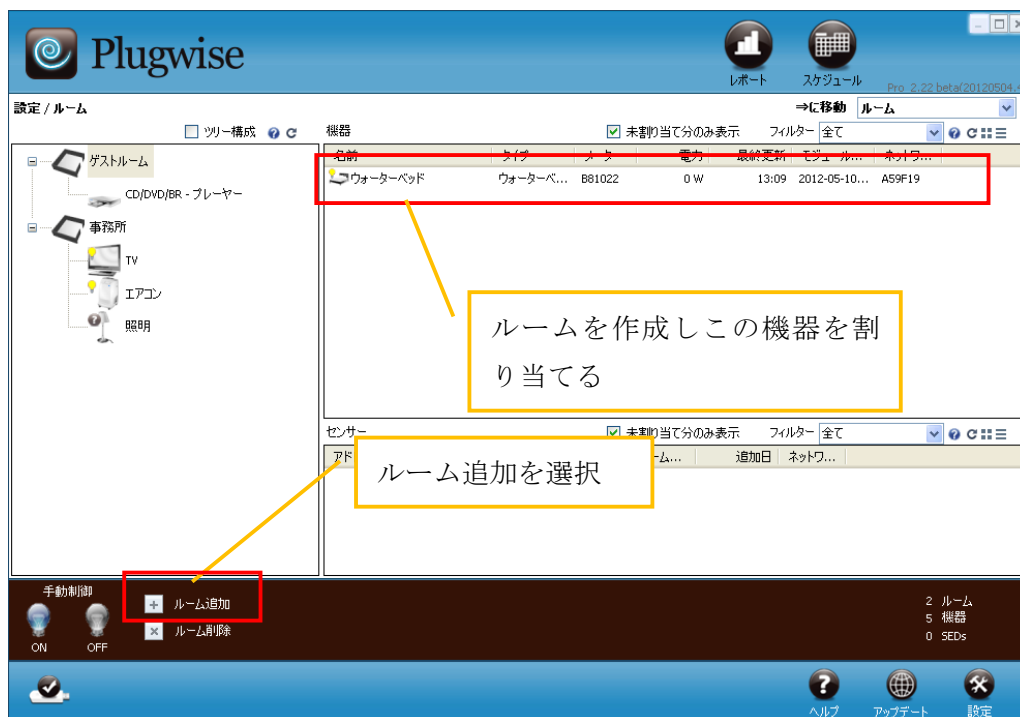
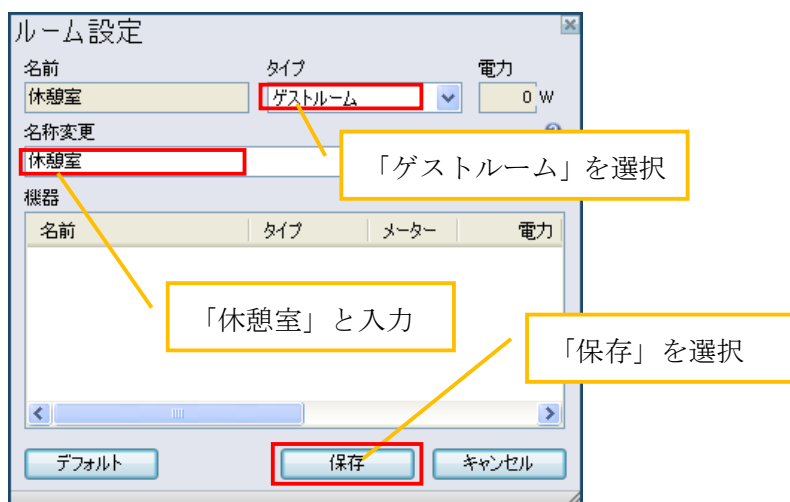
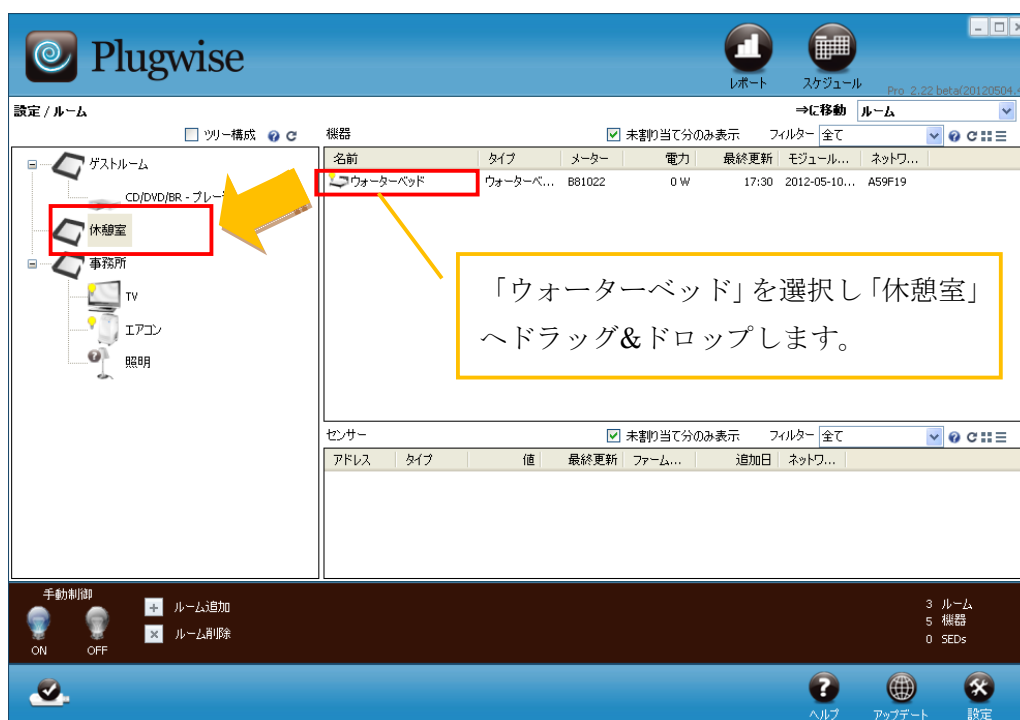
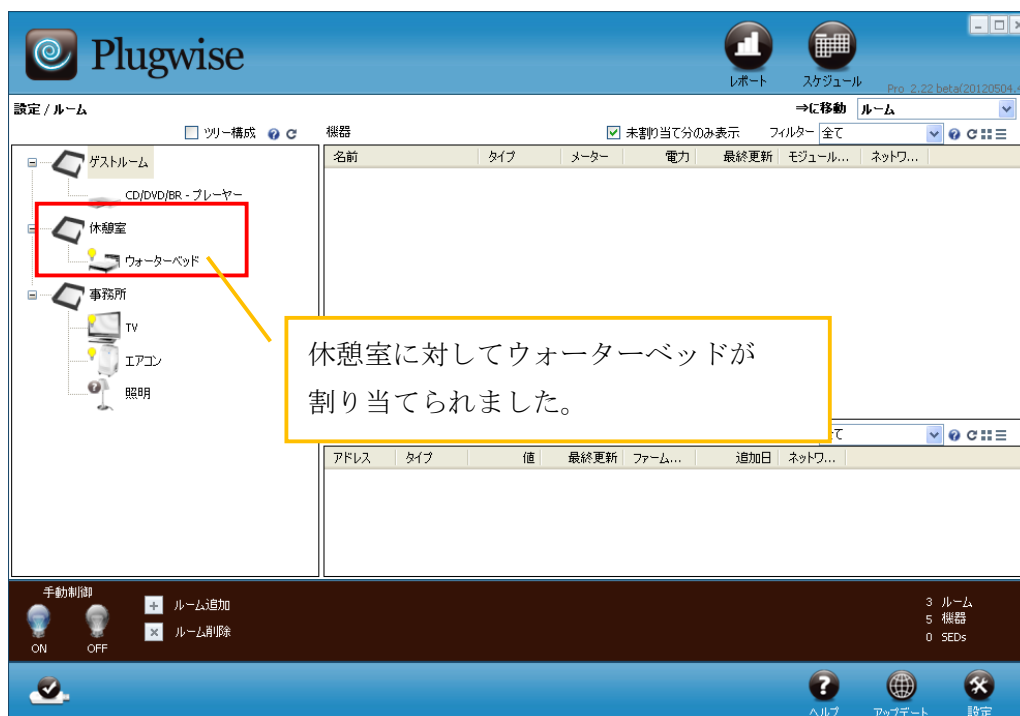
・「機器」画面にて作成した機器が一覧で表示されます。未割り当て分のみ表示のチェックを外すことで全ての機器が表示されます。

③ センサー一覧

・登録されている SED が一覧で表示されます。

■ルームを作成する＋機器を割り当てる

ルームを作成し機器を分類する方法を以下に説明します。「休憩室」という名称のルームを作成し「ウォーターベット」という機器を割り当ててみます。

① ルーム追加を選択します。

② 名称変更に「休憩室」、タイプは仮に「ゲストルーム」を選択し保存します。

③ 新たに作成された「休憩室」に対して「ウォーターベッド」をドラッグ&ドロップします。

④ 「休憩室」にウォーターベッドが割り当てられました。同様の手順で「センサー一覧」リストから SED を部屋に割り当てることでレポート画面上に計測データを表示できます。

3．5　グループ画面

機器を設置負荷毎に分類し管理する為の機能です。分類することでレポート画面では、負荷毎の計測データを一括で表示することができます。ルーム画面と違い対象を複数のグループへ割り当てることができます。SED を使用する場合は、こちらの画面で機器と SED をグループ化することで SED の制御対象を決めることができます。

① <u>グループ一覧</u>

・　作成したグループの一覧が表示されます。ツリー上で表示され、グループの下には属している機器が表示されます。

■アプリケーショングループ

Plugwise Web サーバを使用し、クライアントのウェブ画面上で機器をグループ毎に表示する際に表示されます。

■スイッチンググループ

スイッチンググループを作成し機器と SED を割り当てることで、同じグループに属している機器が SED の制御対象となります。

■レポートグループ

レポートグループを作成し機器を割り当てることで計測データを「レポート」「スケジュール」画面にて表示できます。

②　機器一覧

・登録されている機器が一覧で表示されます。

③　センサー一覧

・登録されている SED が一覧で表示されます。

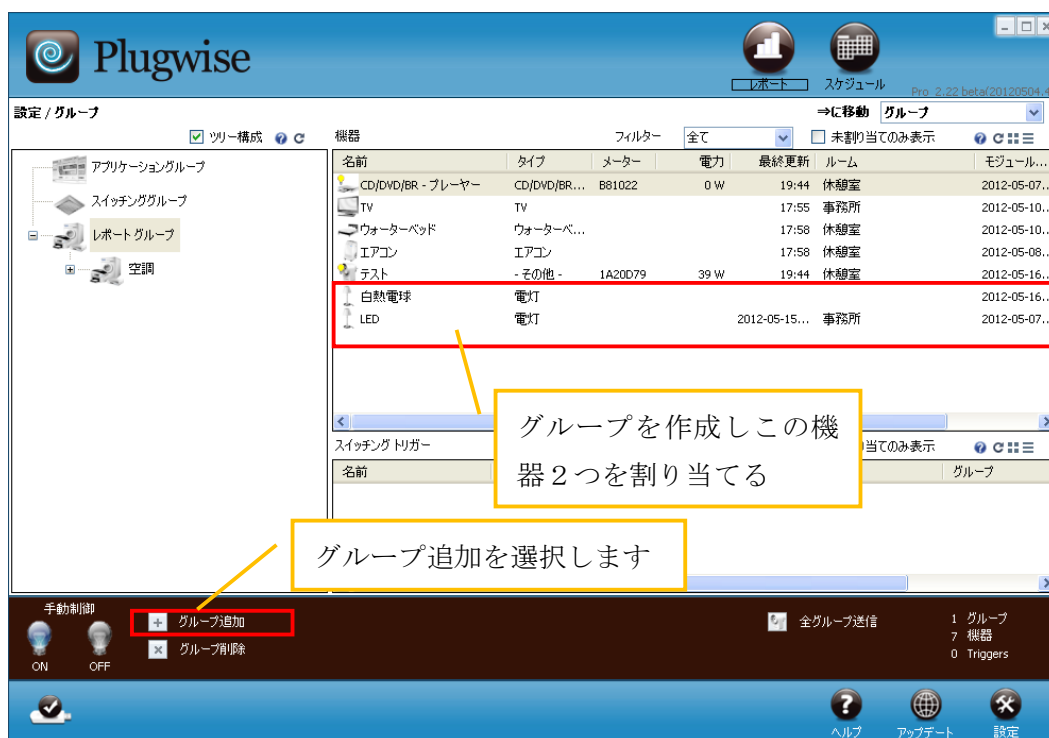
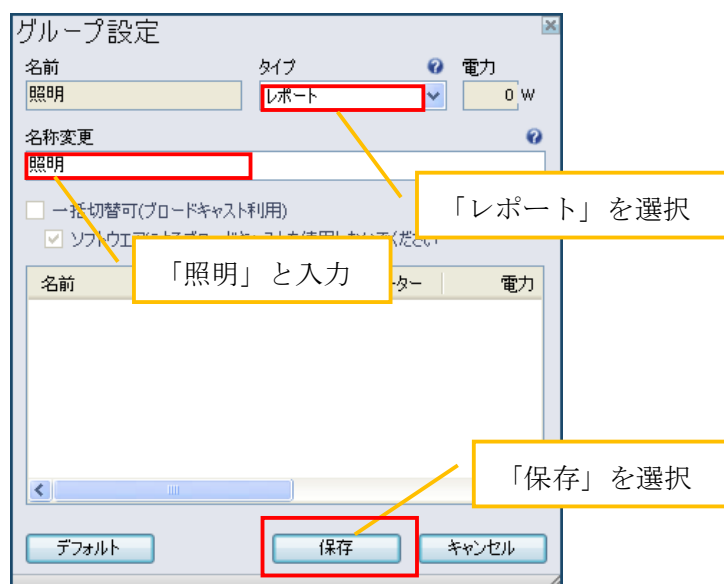
④　全グループ送信

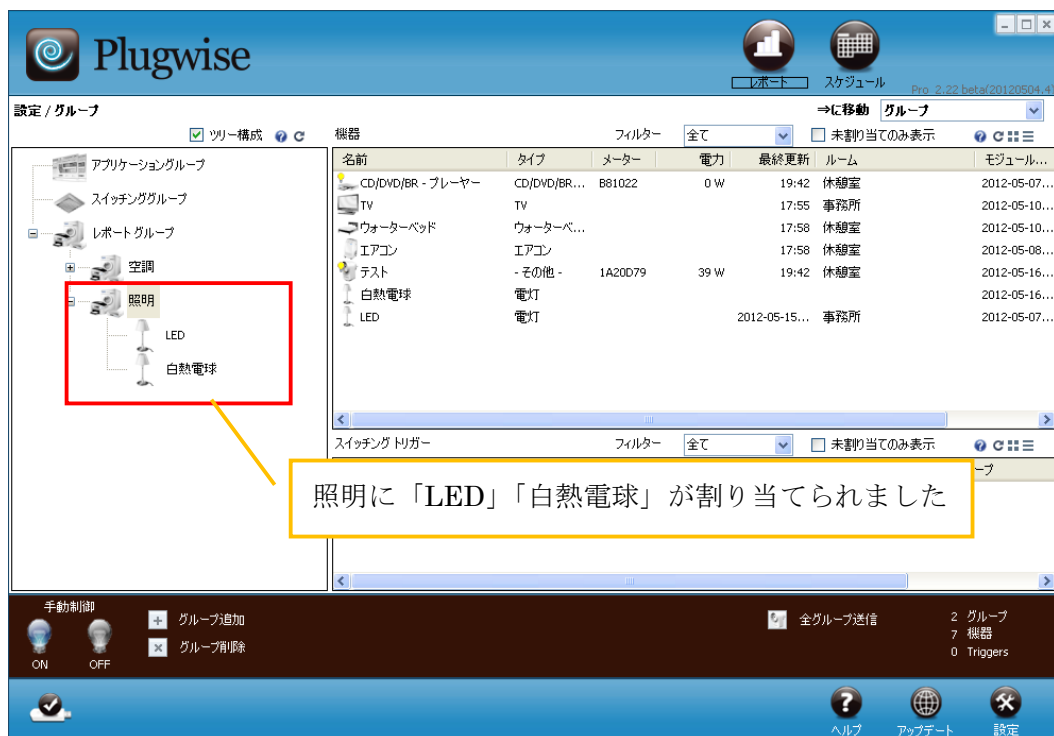
・Source 上で設定した各センサーの設定値を全 SED に対して再送します。設定値とは SED をタブルクリックした際に表示される「起動感覚」「起動経過」「スイッチ OFF 遅延」の情報です。

※各 SED の設定値が Source 上の設定と同期していない場合に使用して下さい。

■グループを作成する＋機器を割り当てる

グループを作成し機器を割り当てる方法を以下に記します。「照明」という名称のグループを作成し「白熱電球」「LED」という機器を割り当ててみます。

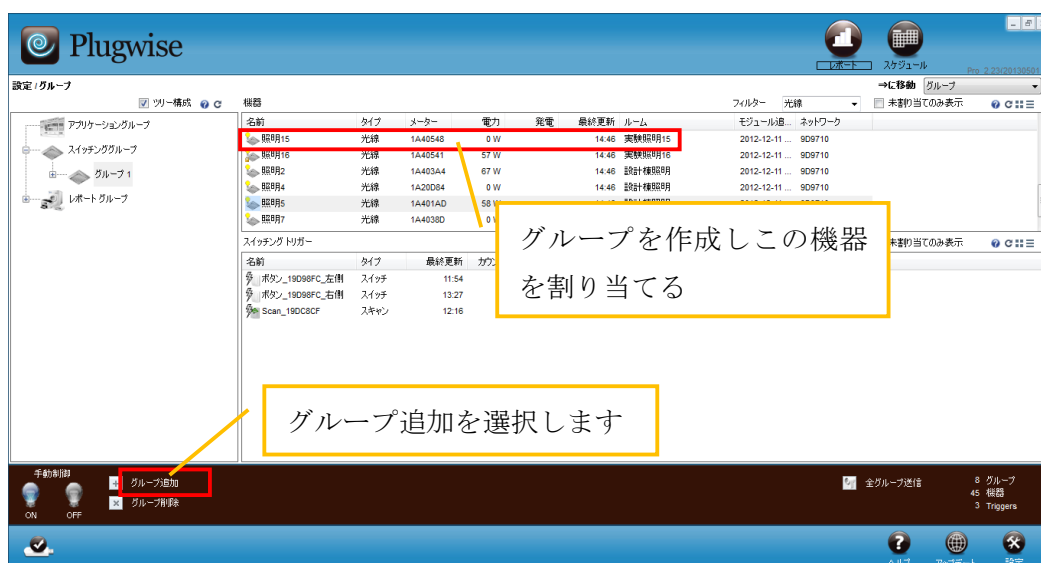
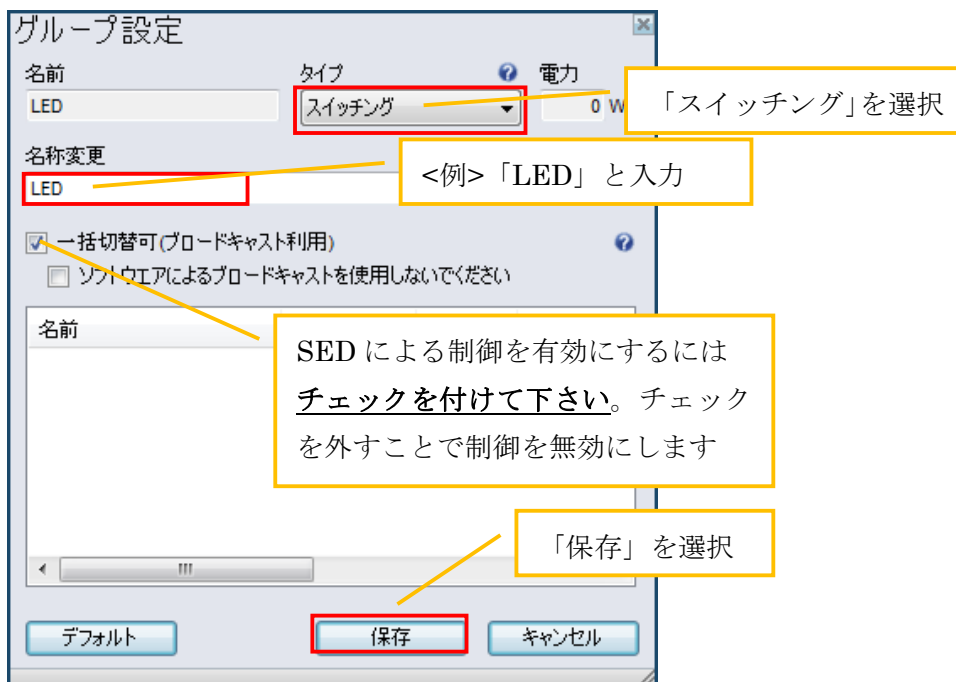
① グループ追加を選択します。

② 名称変更に「照明」、タイプは「レポート」を選択し保存します。

③ 新たに作成された「照明」に対して「白熱電球」「LED」をドラッグ&ドロップします。

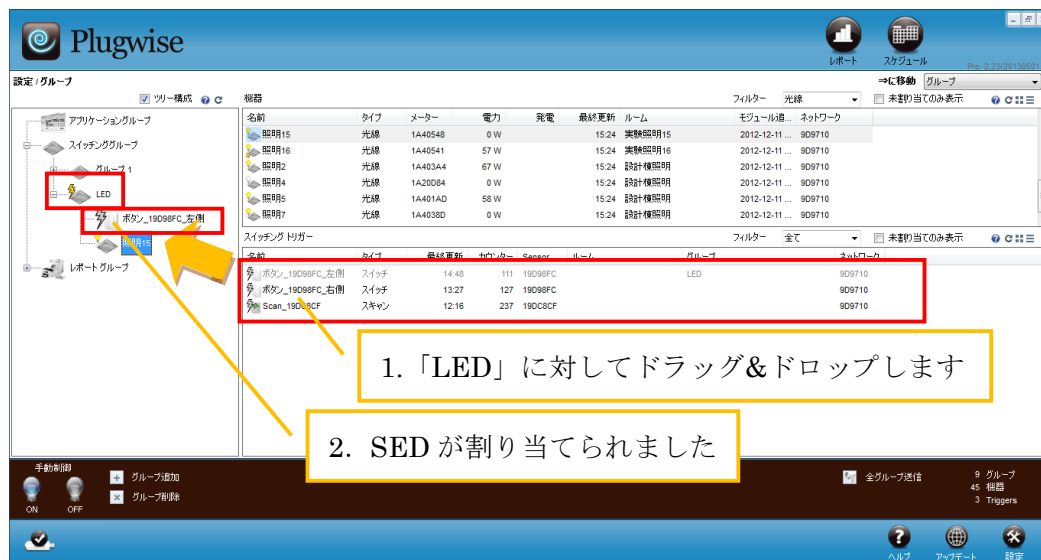
④ 「照明」に「LED」「白熱電球」が割り当てられました。

■グループを作成する＋SED を割り当てる

グループを作成し、機器と SED をグループ化することで SED の制御対象を決めることができます。その方法を以下に記載します。

—注意事項—

・1 台の SED で複数台の機器を制御対象としないで下さい。また、複数台の SED で 1 台の機器を制御対象としないで下さい。制御がうまく働かない可能性があります。
SED と機器は必ず 1 対 1 の組み合わせでグループを組んで下さい。

① グループ追加を選択します。

② 名称変更に「LED」、タイプは「スイッチング」を選択、「一括切り替可」（ブロードキャスト利用）にチェックを入れ保存します。

③ 作成した機器に稲妻マークが付いていることを確認して下さい。制御が有効になっている合図です。「照明 15」という名前の機器を、先ほど作成した「LED」というグループに対して割り当てます。

④　次に SED を割り当てます。登録した SED はスイッチングトリガーの一覧に表示されます。セパレートタイプの「スイッチ」を使用する場合はボタンの「左側」「右側」が別々に表示されます。片方だけ割り当てて使用することもできますし、両方を別々の対象に割り当てて使用することも可能です。シングルタイプの場合はボタンの「左側」のみが表示されます。

⑤　スイッチはボタンを押すことでアイコンの状態が変化し制御が働いたことを確認できます。また、スキャンは人を検知することで同様にアイコンが変化します。
※スキャンの人感制御が有効になるまでは割り当ててから暫く時間を置く必要があります。

3. 6　モジュールの追加

Plugwise ネットワークへ子機モジュールを追加する方法を以下に記します。

—注意事項—

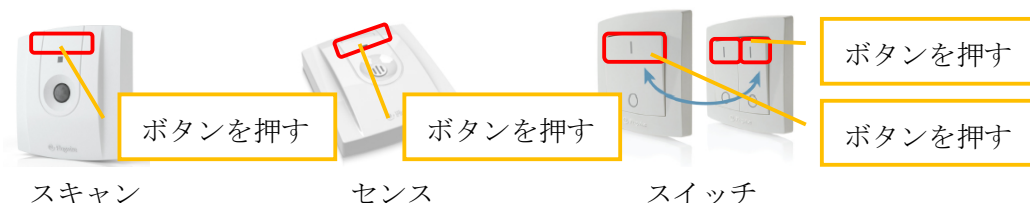
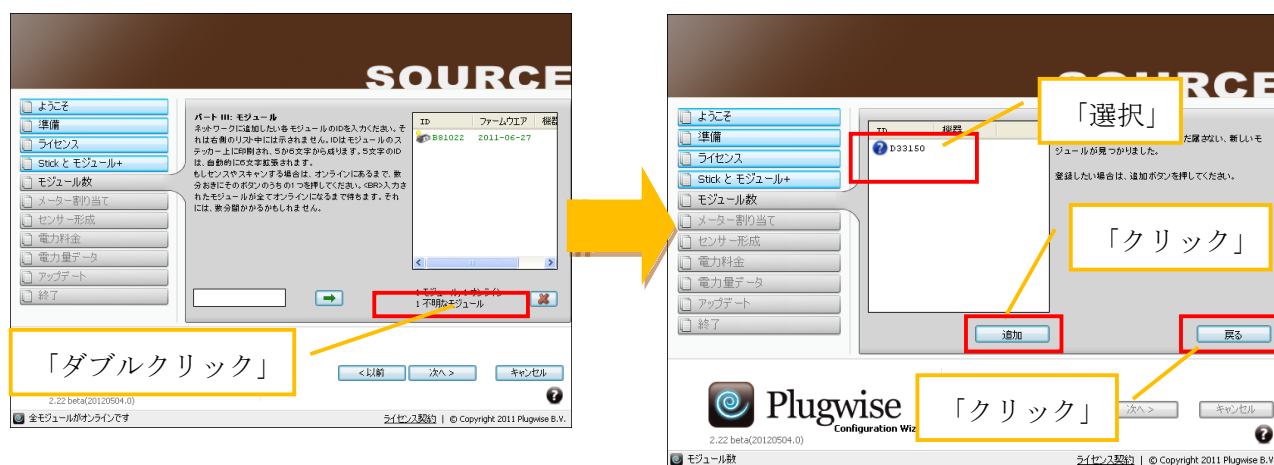
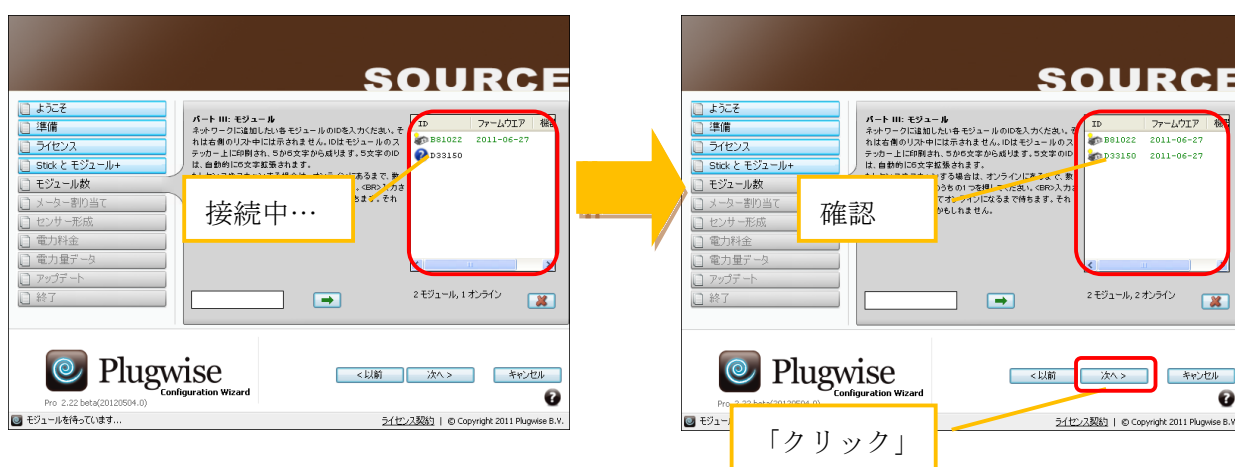
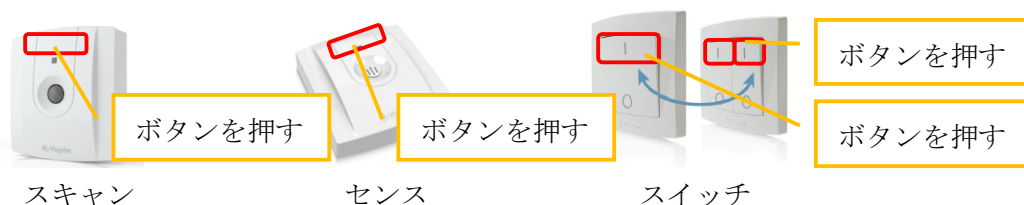
・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。

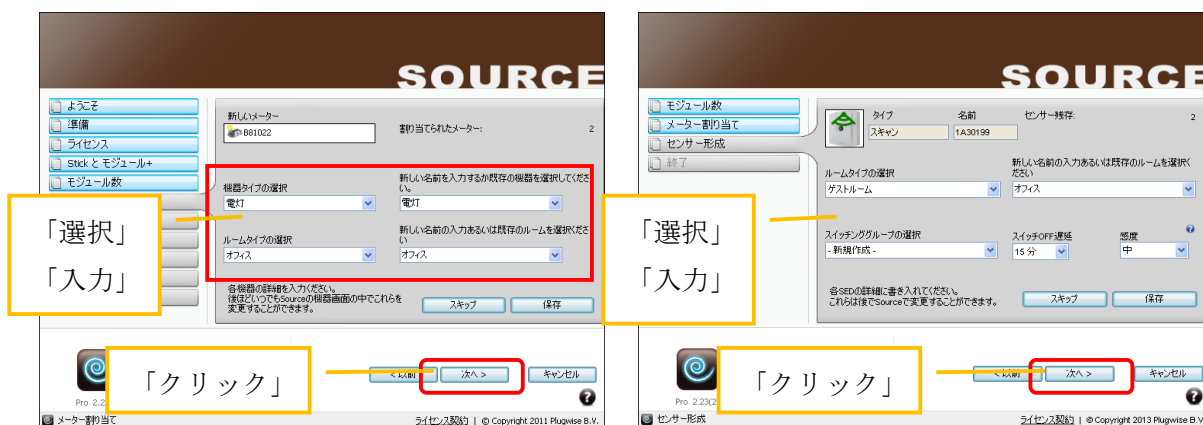
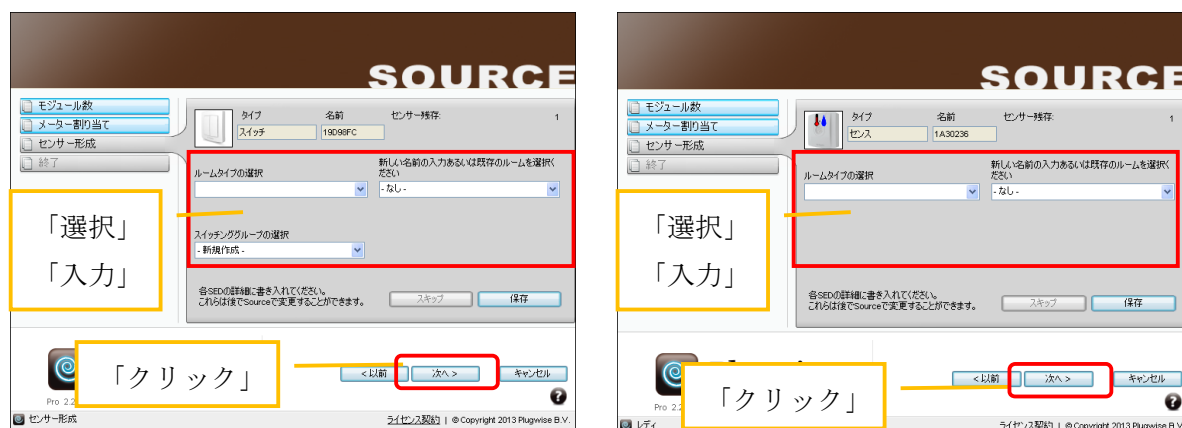
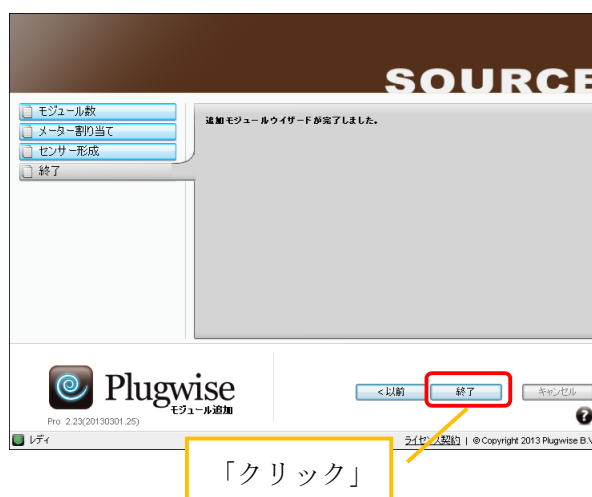
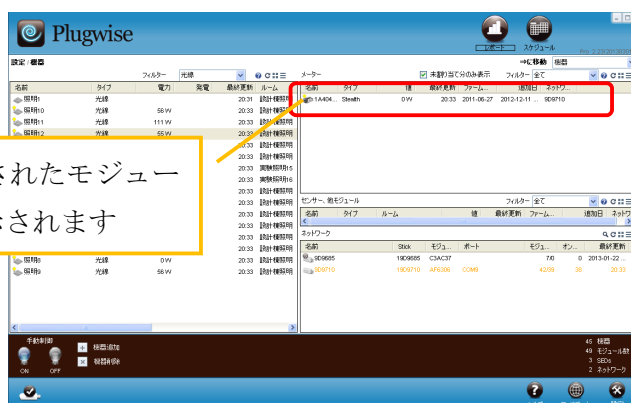
・モジュールに電源を供給した状態且つ通信が確立する距離に配置した状態で行って下さい。

・プラスモジュールはスティックの半径 5m以内推奨。子機モジュールはプラスモジュールの半径 10m以内推奨です。

・追加するモジュールはリセットされた状態の製品を使用して下さい。

※リセットされたモジュールでないと追加登録は行なえません。

① ネットワークに子機モジュール、SED を登録します。先ほど認証したプラスモジュールがリストに表示されていますが、新たに登録したいリセットされた子機モジュール、SED については「不明なモジュール」と表示され認証待ちの状態です。SED については表示されるまでボタンを数秒おきに押して下さい。(スイッチのセパレートタイプを使用する場合は左右両方のボタンを押して下さい。) 画面上の「不明なモジュール」をダブルリックします。

② 追加したいモジュールがリストに表示され ID が一致していることを確認します。その後、ネットワークに追加したいモジュールの ID を選択し、「追加」をクリックします。その後「戻る」をクリックしモジュール登録の画面に移ります。

③ 以下の画面では追加したモジュールの認証を行なっている状態です。全てのモジュールがオンラインになるまで待機して下さい。SED については表示されるまで正面のボタンを数秒おきに押して下さい。(スイッチのセパレートタイプを使用する場合は左右両方のボタンを押して下さい。）その後、全てのモジュールがオンラインになることを確認し、OK ならば「次へ」をクリックして下さい。 1 モジュールがオンラインになるには最大で 15 分程掛かります。

④ 続いてモジュールの接続されている負荷（機器タイプ）及び設置場所（ルームタイプ）の情報をプルダウンから選択します。SED については設置場所（ルームタイプ）及びスイッチンググループ（このグループに属しているモジュールに対して電源制御を行う　※詳細説明は「ルーム画面」の章を参照）の情報をプルダウンから選択します。接続する負荷の名前と設置場所の名前を入力あるいはプルダウンより選択します。必要な情報を入力したら「保存」後「次へ」をクリックします。

※　この情報は、Source の機器画面の中で常時変更可能です。

⑤ 最後に完了をクリックして終了です。機器画面にて追加モジュールが表示されます。

3．7　モジュールのリセット

本コンテンツでは、モジュールのリセット方法を記します。予期せぬトラブルが生じた場合（モジュールが認識しない、Source 上でエラーメッセージが表示され各コンテンツに移動できない等）やネットワークを一から構成したい場合にはモジュールのリセット行う必要があります。リセット後にコンテンツ内の「モジュールの追加」、または全てのプログラム⇒「Plugwise Source」⇒「コンフィグレーションウィザード」からモジュールの再登録を行って下さい。

リセット方法にはソフトリセット、ハードリセットの２種類の手段があり、どちらか実行することでネットワークからモジュールを除外することができます。

※リセット方法はソフト/ハードの 2 種類がありますが、基本的にはソフトリセットにて対応して下さい。ソフトリセットができない状況の際はハードリセットにて対応下さい。

—注意事項—

・プラスモジュールをリセットする場合には他の全てのモジュールをリセットする必要があります。リセットした場合全ての計測データ及びネットワーク構成の情報が失われますのでご注意下さい。

■プラスモジュールをリセットする場合の手順

※全てのモジュールをリセットする必要があります。

ステップ	リセット対象	注意事項
1	子機モジュール	リセットの成功の可否を確認する
2	プラスモジュール	リセットの成功の可否を確認する
3	スティック	-

リセット手順

■子機モジュールのみをリセットする場合の手順

ステップ	リセット対象	注意事項
1	子機モジュール	リセットの成功の可否を確認する

リセット手順

3．7．1　ソフトリセット

Source を用いたソフトリセットの方法を以下に記します。

■スティング、ステルスのリセット

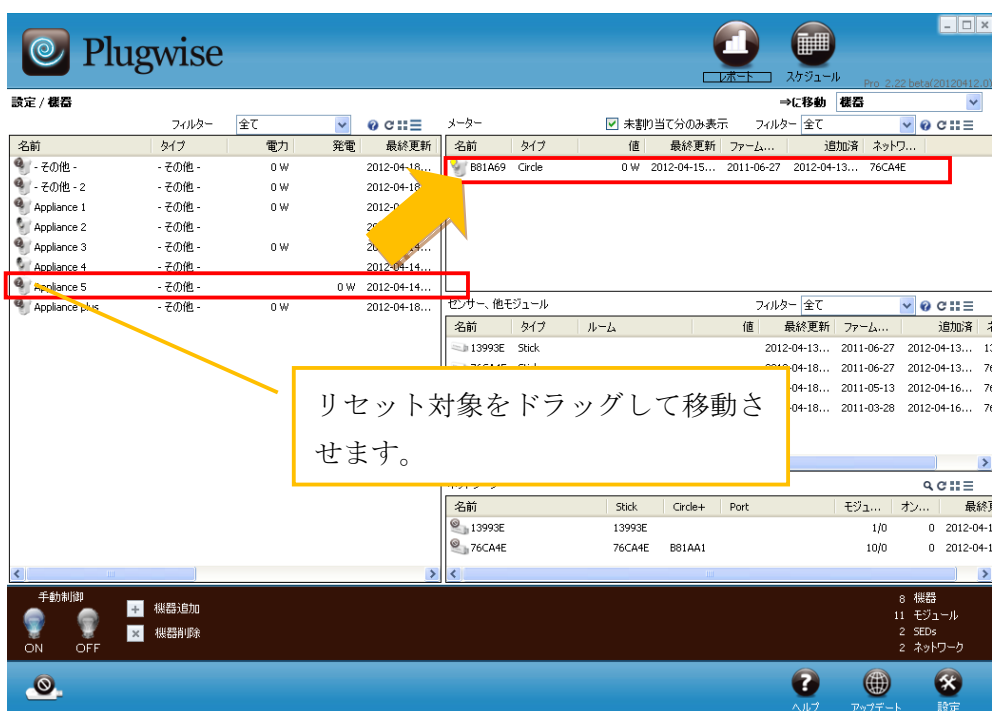
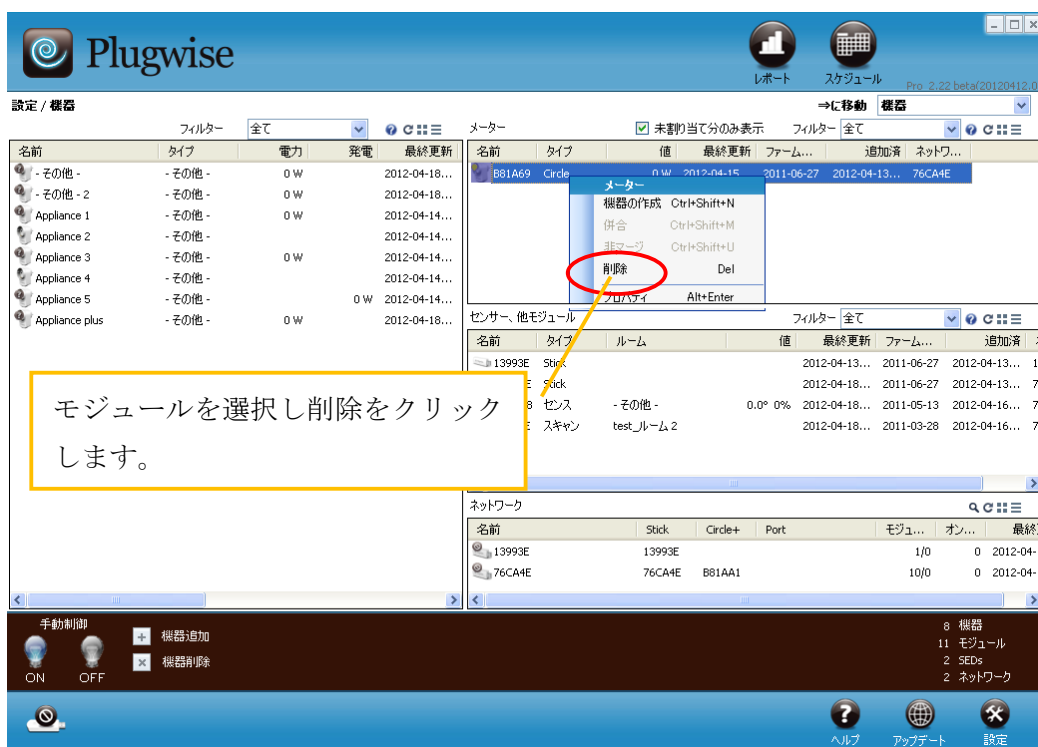
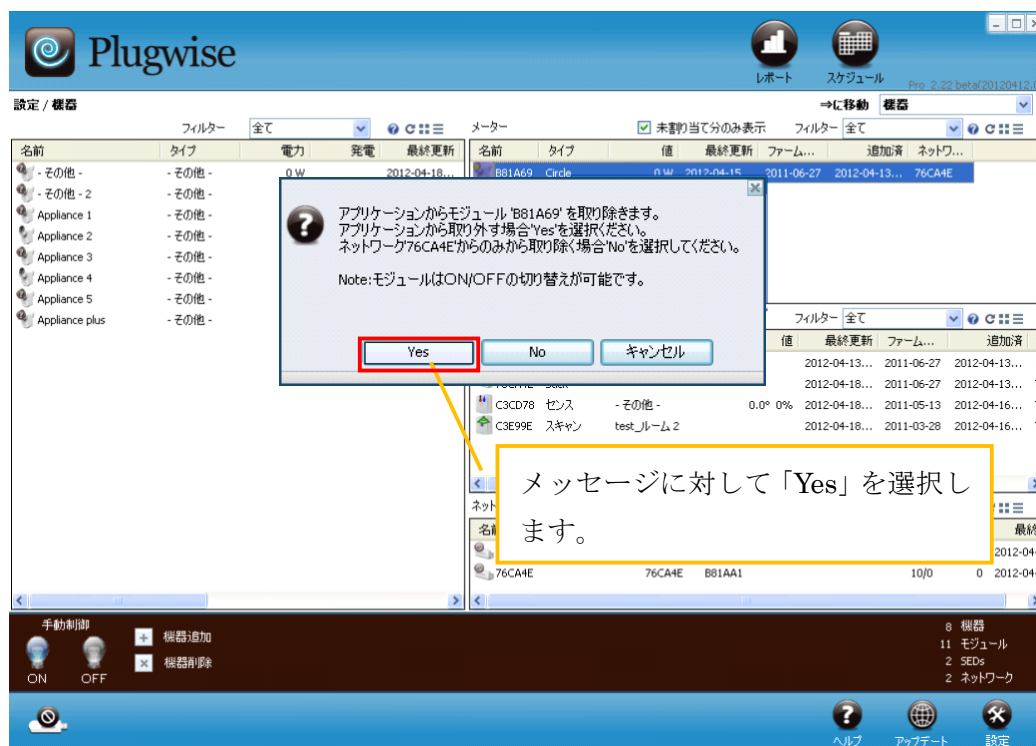
スティング、ステルスを Source からリセットする方法を以下に記載します。Source を立ち上げてメニューより「機器」を選択し以下の画面より開始します。

—注意事項—

・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。

・スティング、ステルスのリセットを行った場合、蓄積された計測データは全て失われてしまいます。

① リセットしたいモジュールを選択します。

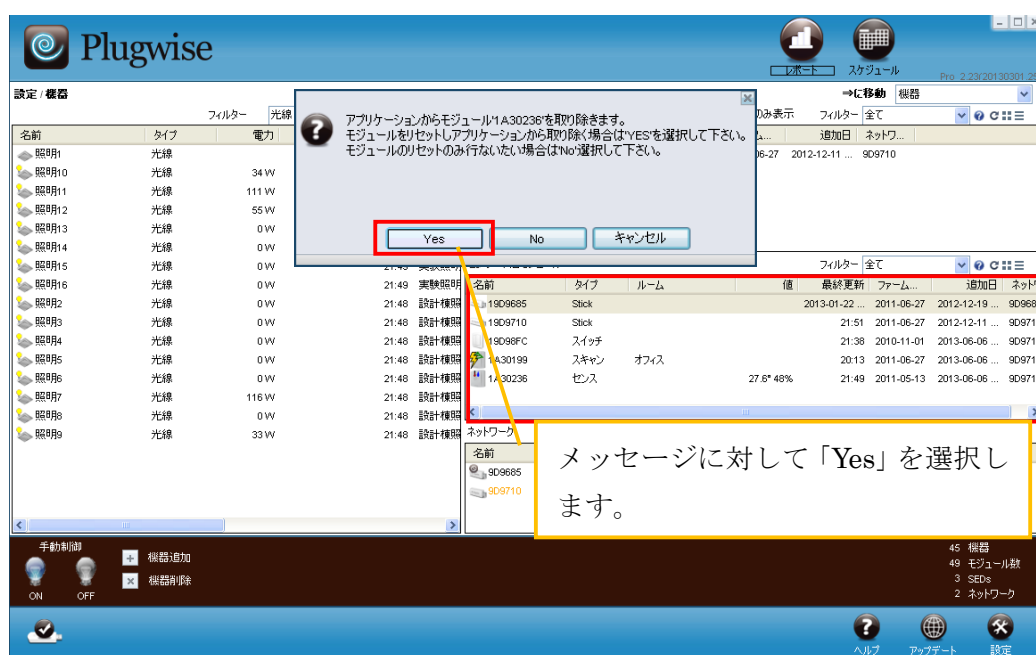
② リセット対象のモジュールをドラッグして移動させます。

③ 再びリセット対象のモジュールを選択し右クリックにて「削除」をクリックします。

④ 確認のダイアログメッセージが出ますので「Yes」を選択して下さい。モジュールがリセットされネットワークから除外されます。

■SED のリセット

SED を Source からリセットする方法を以下に記載します。Source を立ち上げてメニューより「機器」を選択し以下の画面より開始します。

—注意事項—

・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。

・SED のリセットを行った場合、蓄積された計測データは全て失われてしまいます。

① リセット対象の SED を確認し右クリック後に「削除」を選択します。ダイアログメッセージが出ますので「Yes」を選択して下さい。画面から削除されるまで SED 本体の通信ボタン（スキャン、センス）または、スイッチボタン（スイッチ）数秒おきに押して下さい。SED がリセットされネットワークから除外されます。

■スティングプラスのリセット

スティングプラスを Source からリセットする方法を以下に記載します。Source を立ち上げてメニューより「機器」を選択し以下の画面より開始します。

—注意事項—

・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。

・プラスモジュールのリセットを行った場合は、ネットワーク構成の情報、蓄積された計測データは全て失われてしまいます。

① 前章と同様の手順でリセットしたいプラスモジュールを選択し、ドラッグして移動させます次に選択した状態でキーボードにて「Ctrl＋Shift＋R」を同時に押して下さい。英語メッセージが表示されますので、削除する場合は「Yes」を選択して下さい。

■スティックのリセット

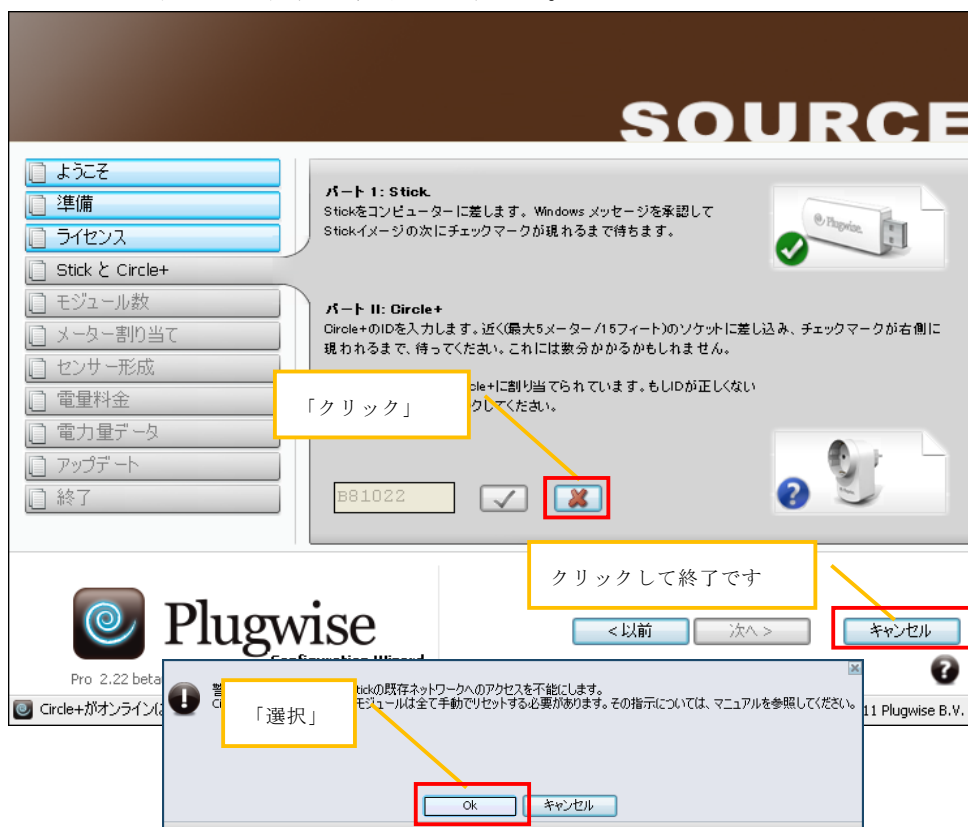
スティックを Source からリセットする方法を以下に記載します。Source を立ち上げてメニューより「機器」を選択し以下の画面より開始します。

—注意事項—

・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。
・スティックと紐付けされているプラスモジュールには電源を供給しないで下さい。

① スタートメニューより「すべてのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「コンフィグレーションウィザード」を選択します。以下の画面が立ち上がりますので「次へ」をクリックします。

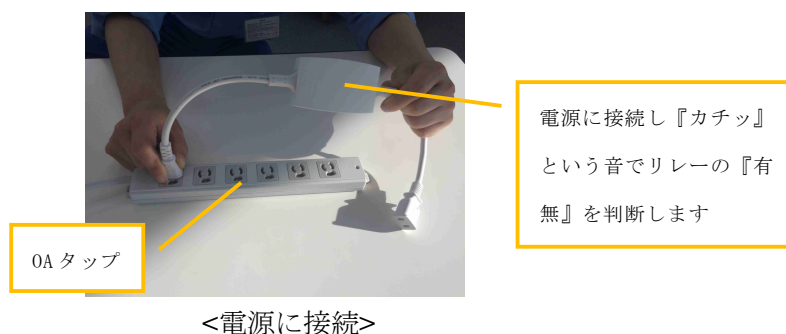
② ライセンスコードは既に書き込まれているので「次へ」を選択します。

③ スティックが認証され、プラスモジュールは ID が自動入力され認証待ちの状態になります。しばらくすると「×」がアクティブになりますのでクリックし、スティックのリセットを行います。次に確認メッセージが表示されますので「OK」を選択して下さい。最後に「キャンセル」をクリックして画面を終了して下さい。

3．7．2　ハードリセット

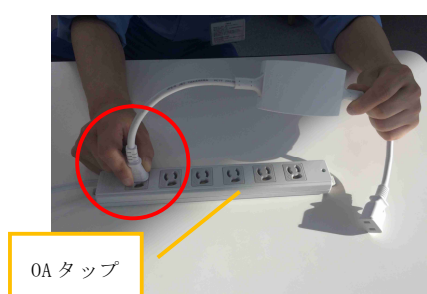
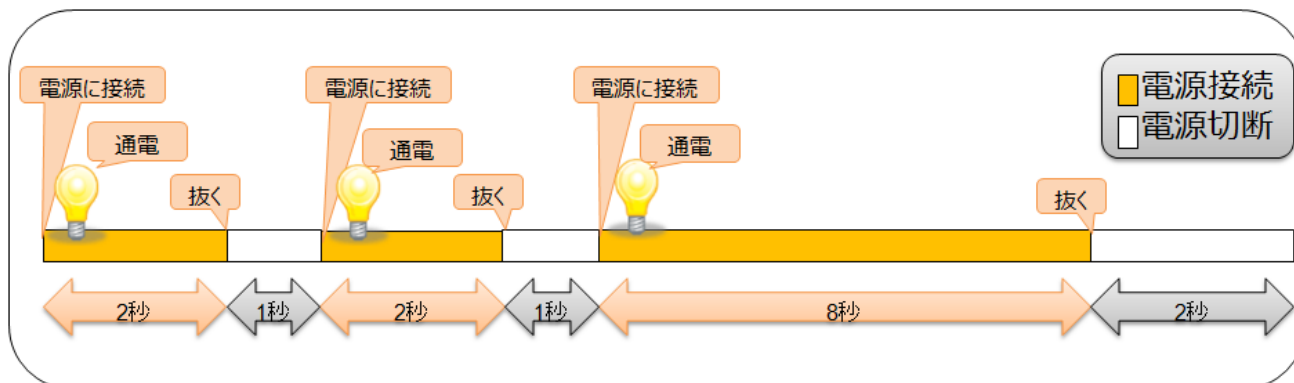
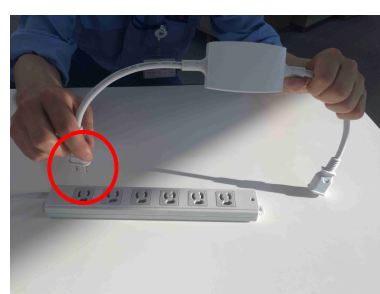
前章のソフトリセットができない状況の際はハードリセットを試して下さい。

◇スティングプラス、スティング、ステルスのリセット手順について

スティングプラスとスティングについては内部に実装されているリレーの『有無』で手順が多少異なります。リレーの有無を確認した上で該当する手順に従いリセットを行って下さい。

※電源に接続した際に『カチッ』と音がする場合は『リレー有り』、しない場合はリレー『無し』のタイプとなります。

<電源に接続>

■スティングプラス（リレー無し）、スティング（リレー無し）のリセット手順

スティングプラス、スティングについては OA タップを用意してプラグを電源に接続したり抜いたりする動作を以下の手順のように繰り返して下さい。

<電源に接続>

<抜く>

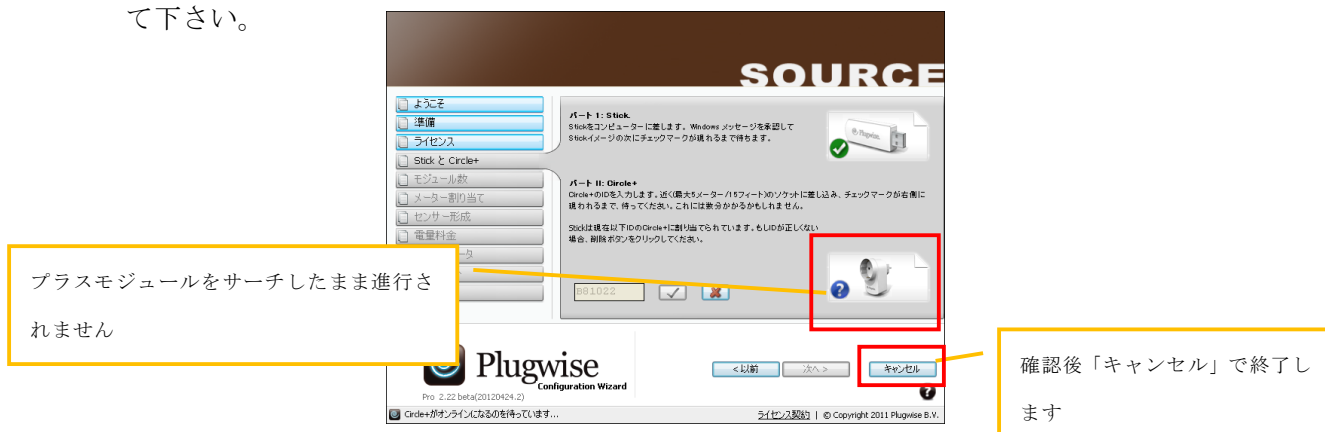
スティングプラス（リレー無し）、スティング（リレー無し）の場合

次に以下の手順に従い、リセットが成功していることの確認を Source から行います。確認方法がスティングプラス（リレー無し）、スティング（リレー無し）で異なります。

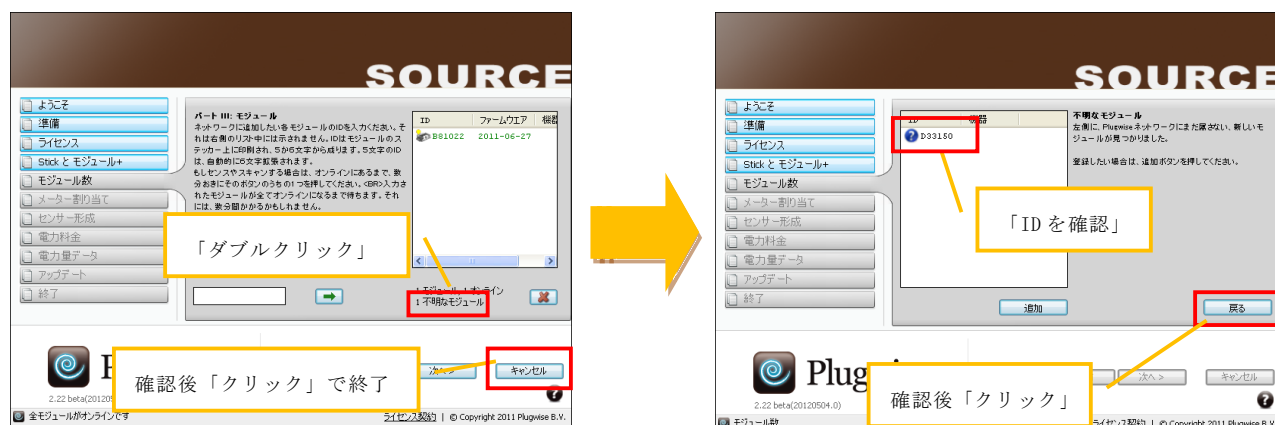
◇スティングプラス（リレー無し）の確認

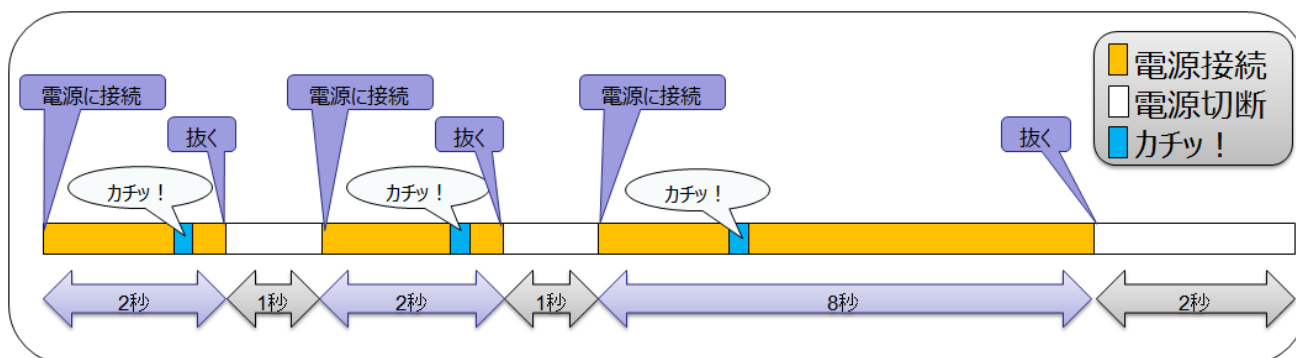
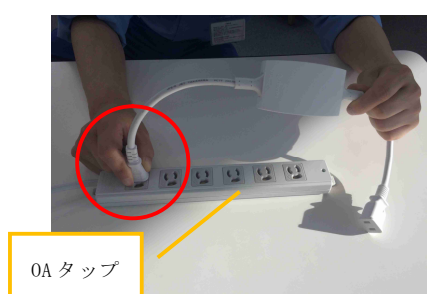
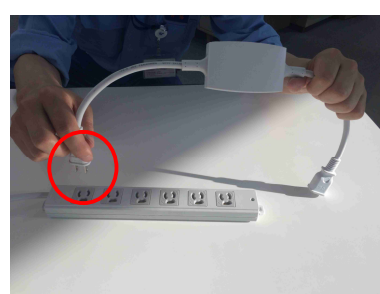
① スティックをパソコンに接続した状態でメインメニューより、「モジュールの追加」を選択して下さい。以下の画面まで進行させて 1 分程待機して下さい。

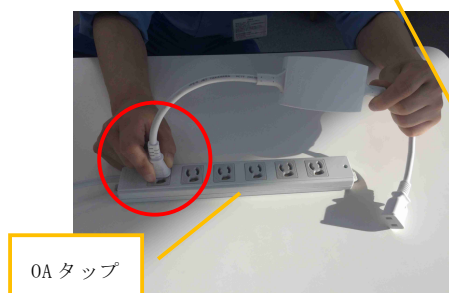
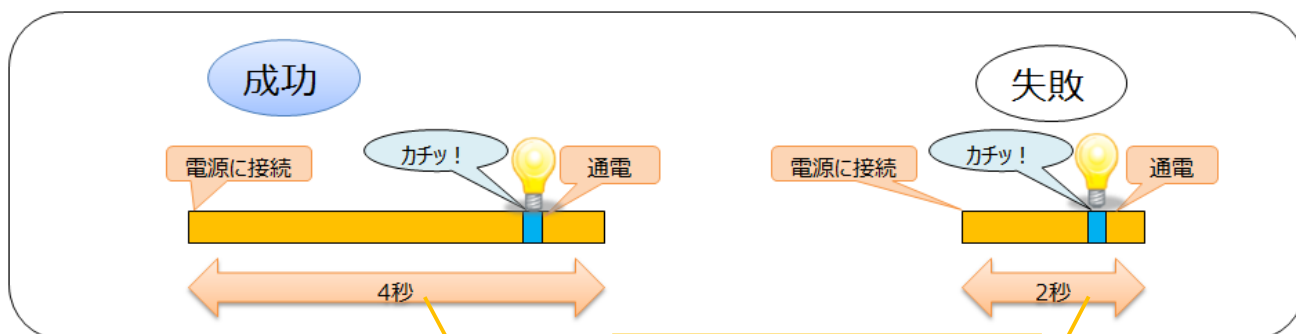
② リセットが成功している場合にはスティングプラスが認識されませんので、以下の画面から自動進行しません。リセットが失敗している場合は、以下の画面から自動進行します。その場合はもう一度最初からリセットをやり直して下さい。確認後はキャンセルをクリックして終了して下さい。

確認後「キャンセル」で終了します

◇スティング（リレー無し）の確認

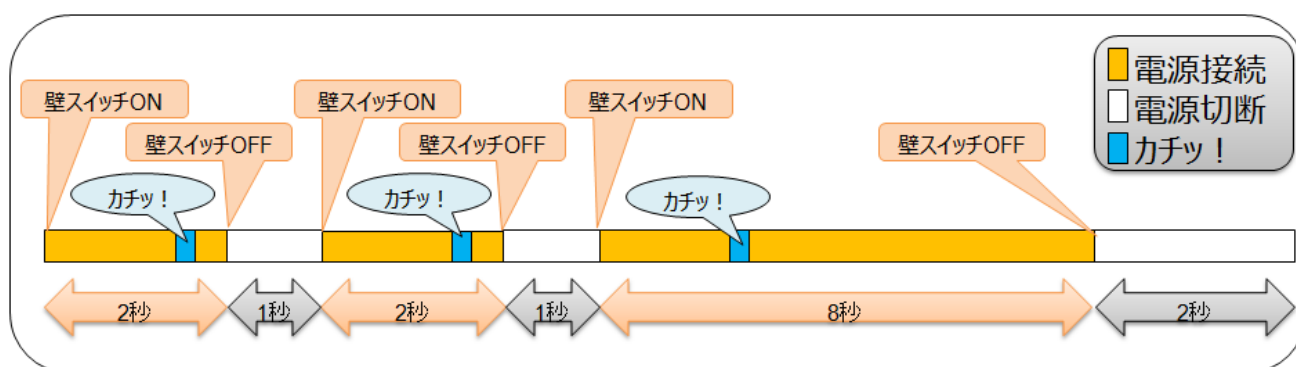
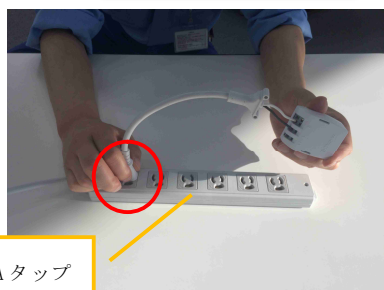
① スティックをパソコンに接続し、紐付されたスティングプラスとリセットしたスティングを電源に接続した状態でメインメニューより、「モジュールの追加」を選択して下さい。リセットが成功している場合は「不明なモジュール」という文字が画面に表示されます。リセットが失敗している場合は、表示されません。その場合はもう一度最初からリセットをやり直して下さい。次に、画面上の「不明なモジュール」をダブルリックします。

② リセットを行ったスティングと ID が一致していることを確認して下さい。確認後、「戻る」⇒「キャンセル」をクリックして終了して下さい。

■スティングプラス（リレー有り）、スティング（リレー有り）のリセット手順

スティングプラス、スティングについては OA タップを用意してプラグを電源に接続したり抜いたりする動作を以下の手順のように繰り返して下さい。

ハードリセット手順

<電源に接続>

<抜く>

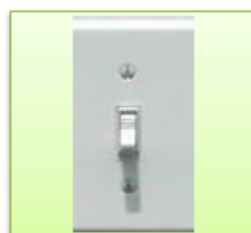
次に以下の手順に従い、リセットが成功していることを確認して下さい。方法はスティングプラス（リレー有り）、スティング（リレー有り）で共通です。OA タップを使いプラグを電源に接続して下さい。

<電源に接続>

■ステルスのリセット手順

設置前のステルスについては、下図のような接続サンプルのように接続を行い、OA タップを用意してプラグを電源に接続したり抜いたりする動作を以下の手順のように繰り返して下さい。設置済のステルスでも壁スイッチを入切することで電源の接続/切断の代わりになりますので設置したままでのリセットが可能です。

<壁スイッチON>

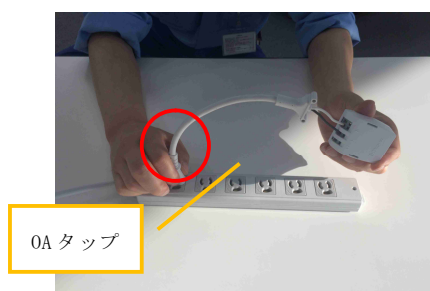
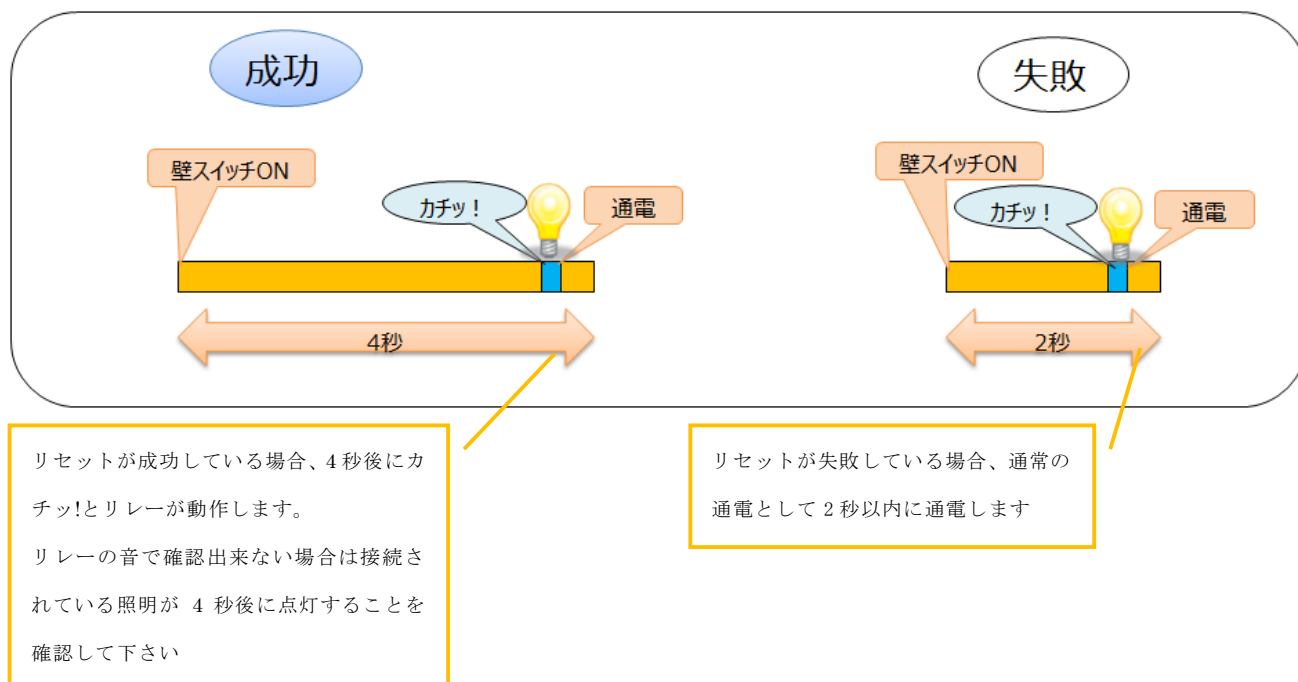
<電源に接続>

※壁スイッチ ON の状態

<壁スイッチOFF>

<抜く>

※壁スイッチ OFF の状態

ステルスの場合

次に以下の手順に従い、リセットが成功していることを確認して下さい。
OA タップを使いプラグを電源に接続するか、壁スイッチを ON にすることで以下を確認します。

<電源に接続>
※壁スイッチ ON の状態

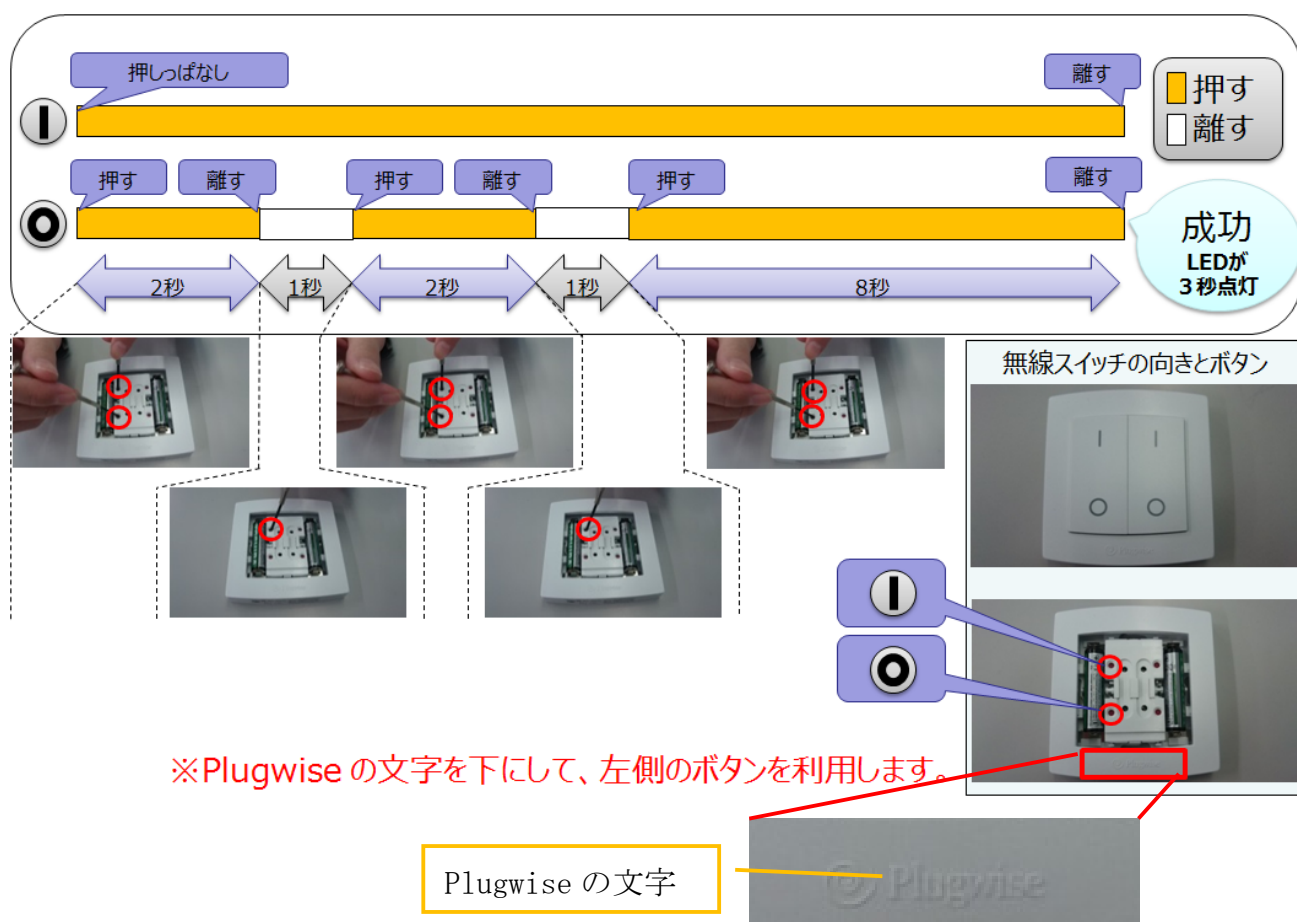
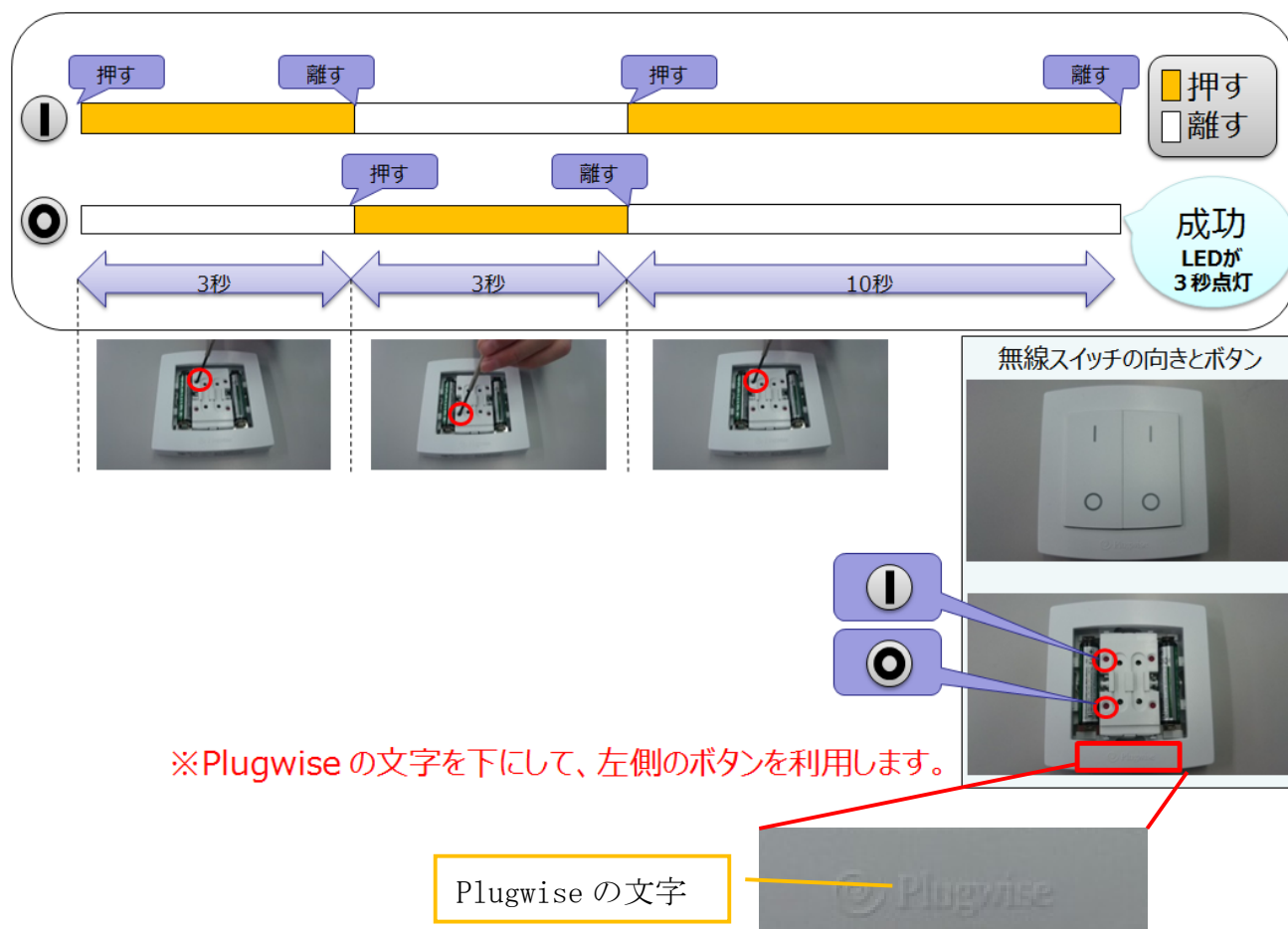
<壁スイッチON>

■スイッチのリセット方法

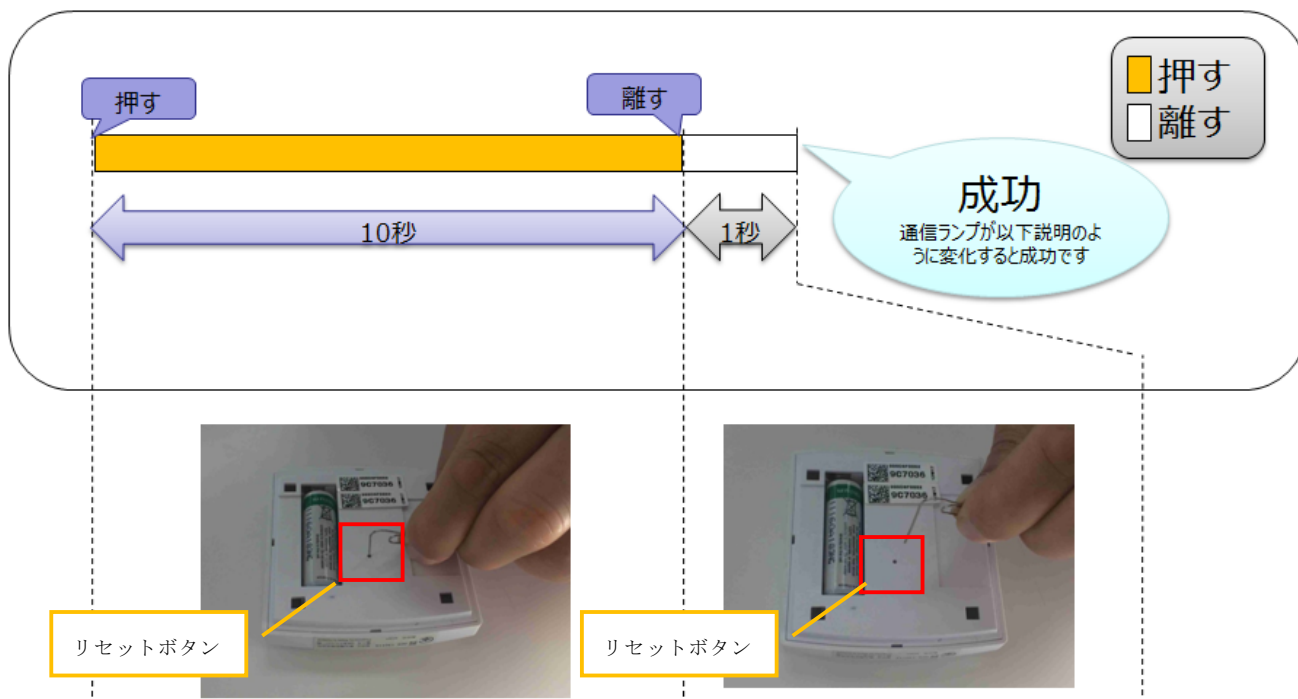
スイッチのリセット方法を以下に記載します。スイッチは、ファームウェアの違いによってリセット手順が異なります。

ファームウェアの確認はソース上に登録しないと確認できない為、登録前のリセットはパターン１、パターン２を両方試して下さい。 ファームウェアの確認が出来る場合は、該当するどちらかのパターンを試しください。

パターン１　：　<Firmware>　2011-07-01

パターン２　：　<Firmware>　2009-09-08　、　2010-11-01

スイッチ　パターン１のハードリセット手順

スイッチ　パターン２のハードリセット手順

■センス、スキャンのリセット手順

センス、スキャンのリセット方法を以下に記載します。バックプレートを外し、本体裏面のリセットボタンを押せる道具（ドライバーやクリップなど）を用意して下さい。また、リセットを行う際は必ず電池を取り付けた状態で行って下さい。

センス、スキャンのハードリセット手順

リセット手順が終了しましたら、正面の通信ランプの状態が以下のように変化することを確認して下さい。変化しない場合は、もう一度初めからリセット手順を試して下さい。

・センス：小刻みな点滅状態から消灯状態に変化

・スキャン：小刻みな点滅状態から点灯状態に変化

センス　スキャン

3．8　バックアップ

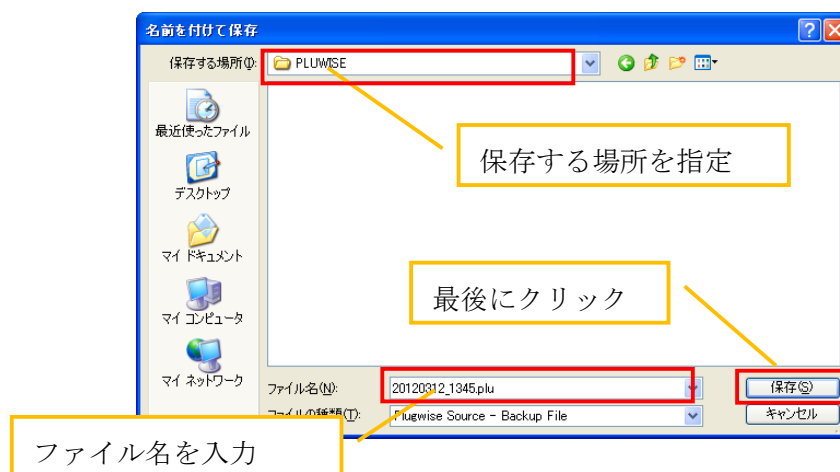
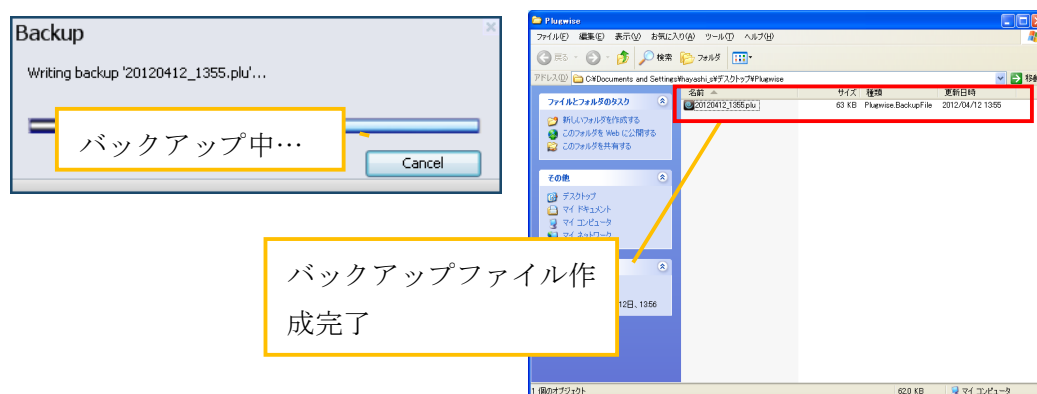
3．8．1　バックアップファイルについて

バックアップファイルに保存されているデータは以下の内容となります。重要なデータとなりますので定期的にバックアップファイルを保存しておくことを推奨します。

項目	内容
ライセンス情報	ネットワーク構成時に入力したライセンス情報が含まれます。
レポートデータ	過去に蓄積した全モジュールのレポートデータが含まれます。
スケジュール情報	スケジュール画面にて設定した全スケジュールデータが含まれます。
各種管理情報	「ルーム」「グループ」で設定した全モジュールの管理情報が含まれます。
各種設定情報	ローカルネットワークを介して、Web ブラウザからアクセスすることで計測データを遠隔から監視することできます。※英語表記

3．8．2　バックアップファイルの作成方法

本コンテンツでは、Source のバックアップファイル作成方法を記します。

① メインメニューから「バックアップ」を選択します。バックアップファイルの場所を指定し、ファイル名を入力します。最後にファイルを保存します。
ファイル名はデフォルトで　(yyyy/MM/dd hh:mm.plu　：年/月/日_時/分）となります。

② バックアップファイルの保存が行われますのでウィザードが終了するまで待機します。

3. 8. 3 バックアップデータのリストア方法（復元）

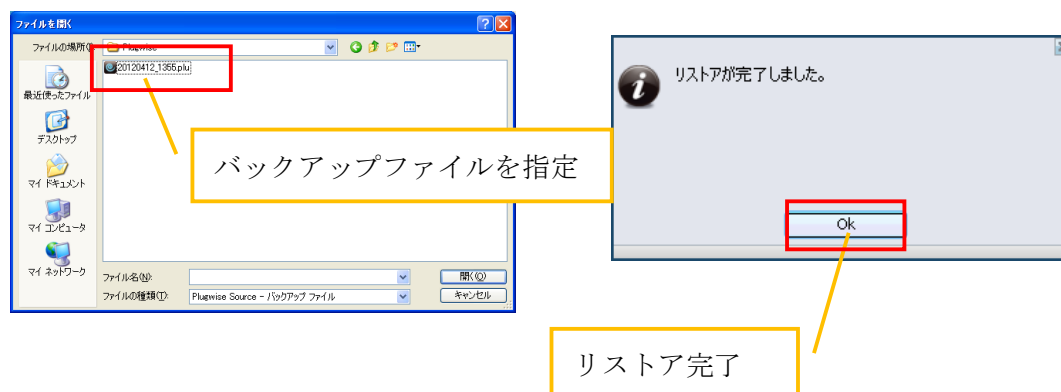
バックアップデータを用いてデータのリストアを行う方法を以下に記載します。リストア機能は以下のようなケースで活用することができます。

項目	内容
データの復元	パソコンが故障した際に Source がインストールされた他パソコンにデータを復元することができます。 ライセンス、ネットワーク情報も全て復元される為、スティックを差し込むだけで直ぐにマスターとして利用できます。
データの共有	Source がインストールされた他パソコンでレポートデータ等の復元した情報を供給することができます。

バックアップデータ活用ケース

① スタートメニューより「すべてのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「バックアップ&リストア」を選択します。以下の画面が立ち上がりますので「バックアップデータのリストア」を選択して下さい。

② バックアップファイルを指定し「開く」を選択して下さい。「リストアが完了しました」の表示が出ましたら完了です。Source を立ち上げる際には「Plugwise Source」をダブルクリックして下さい。

※バックアップファイルから Source を立ち上げてもオフラインモードで起動しますので、モジュールはオンラインになりませんのでご注意下さい。

3. 9　Firmware アップデート

以下の手順で Firmware を最新バージョンにアップデートすることができます。アップデートの通知設定がなされていない場合は利用可能なバージョンがあるかインターネットに接続し確認する必要があります。

※全モジュールの Firmware バージョンは出荷時に最新となっていますので基本的にこちらのコンテンツを実行する必要はありません。Firm アップデートを行うには「個人情報」の設定で「使用量データが送られることに合意します。」にチェックが有効になっている必要があります。

―注意事項―

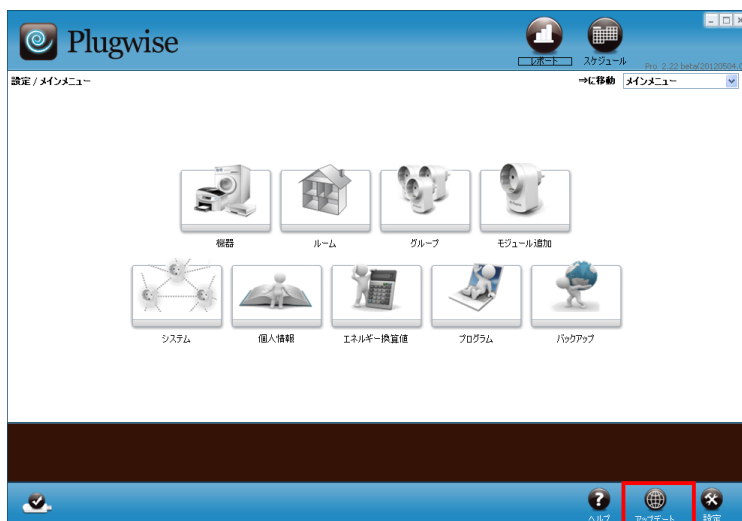
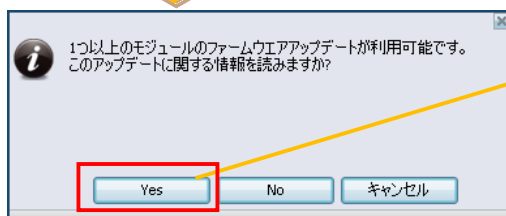
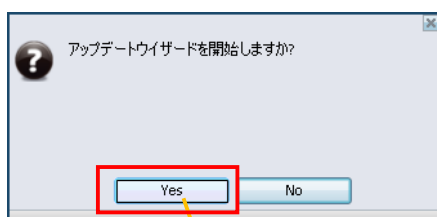
・インターネットに接続した状態で行なって下さい。

・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。

・アップデートするモジュールに電源を供給した状態且つ通信が確立する距離に配置した状態で行って下さい。

※プラスモジュールはスティックの半径 5m以内推奨。子機モジュールはプラスモジュールの半径 10m以内推奨です。

・アップデートする際にモジュールは ON/OFF 制御が働きます。ステルスプラス、ステルスをアップデートする際には負荷を接続しないことを推奨します。

・最新版の Source にアップデートした後で Firmware のアップデートは行って下さい。

① Word が立ち上がりますが終了して下さい。アップデートウィザードを開始します。「Yes」を選択して下さい。次に、アップデートの利用確認を改めて行ないますので、「次へ」をクリックし次のステップに進みます。

② パート１：インターネットへの接続を確認します。

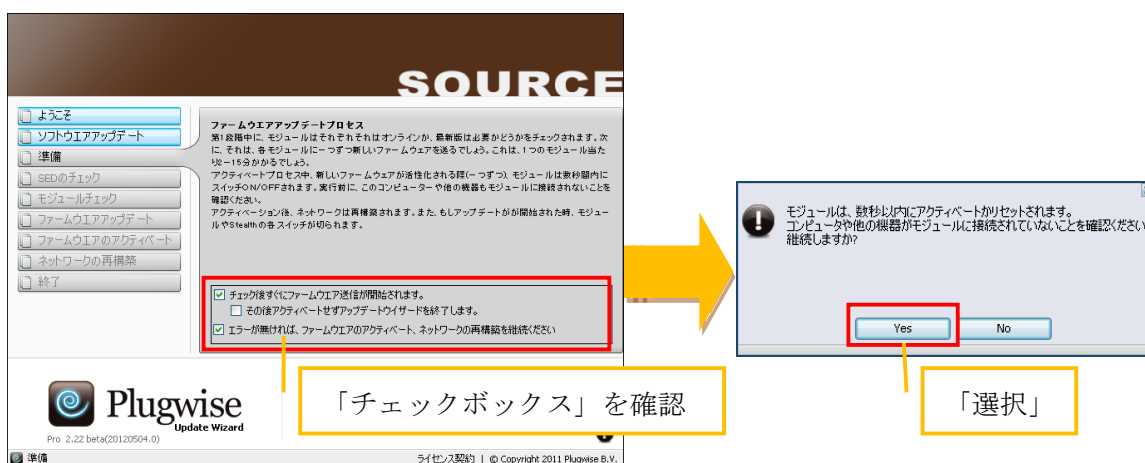
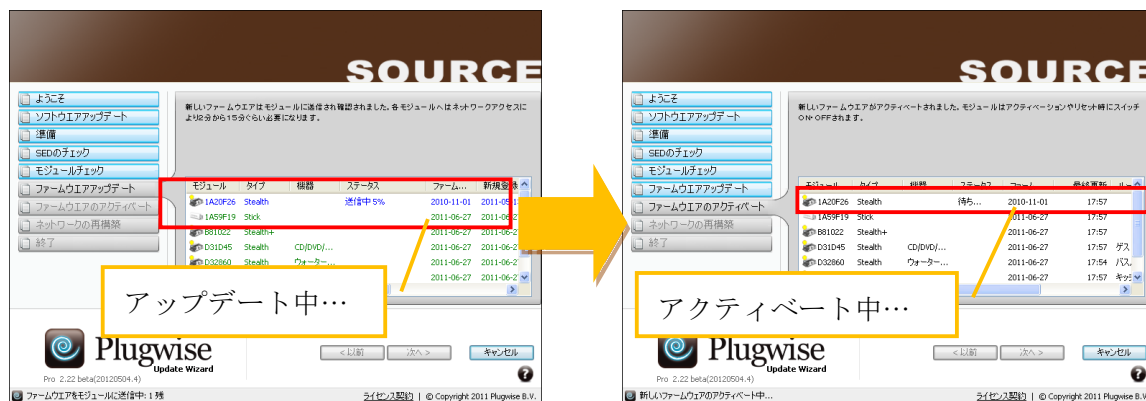
パート２：Source が最新バージョンであるか確認します。

パート３：ネットワークをチェックしモジュールの Firmware バージョンを確認します。

上記３項目が終了すると自動的に次のステップへ進みます。

※パート３でエラーメッセージが表示される場合がありますが、その場合①から再度手順を踏みな直して下さい。再度注意事項を確認して下さい。

③ 下記にようにチェックボックスがついているか確認して下さい。

「次へ」を選択します。

④ Firmware アップデートに移ります。青色文字のモジュールがアップデート対象でファームが古いモジュールが順にアップデートされていきます。全てのアップデートが終了しましたら、アクティベートに移ります。アップデートしたモジュールは一度、電源制御 OFF が出力されます。

⑤ アップデートしたモジュールのネットワークが再構築されます。全てのモジュールがオンラインになるまで待機します。電源が供給されていないモジュールはスキップされ暫くすると、Source は自動終了します。最後に「機器」画面でファームウェアが更新されていることを確認して下さい。

3. 10　個人情報

本コンテンツでは、ネットワーク構成で行なった個人データの情報を変更することができます。Plugwise 製品に関する情報や、モジュール及びソフトウェアのアップデート通知を得たい場合に設定しますが、こちらのコンテンツの設定は変更しないようお願いします。

3. 11　エネルギー換算値

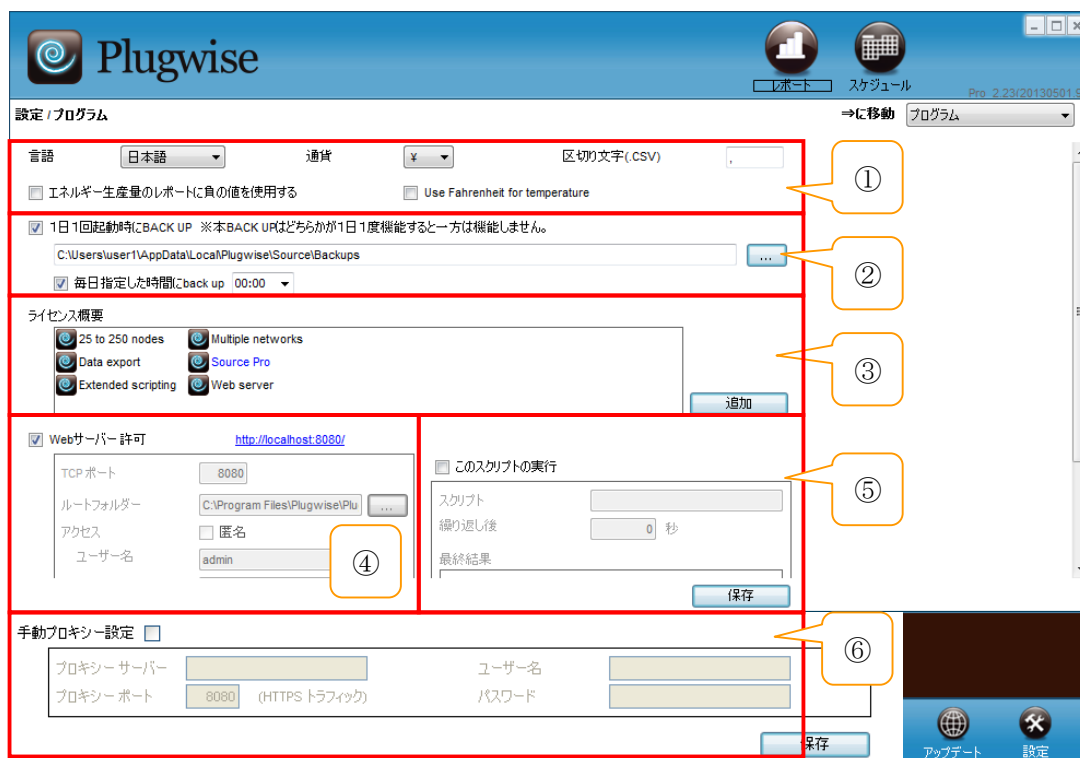
本コンテンツでは、ネットワーク構成で行なったエネルギー換算値の情報を変更することができます。入力をスキップした場合はこちらで新たに登録を行えます。

1．①に今までに設定したリストが一覧表示されます。
　新規作成する場合は右クリックより「新しい」を選択、既存情報を編集する場合は右クリックより「編集」を選択します。※削除する場合は右クリックより「削除」

2．②にエネルギー換算値情報を入力して下さい。
　名前：任意の名称を登録　　　　　　　　タイプ：電気使用量を選択
　会社名：Plugwise を選択（またはデフォルト）
プロダクト：エネルギー換算値を選択（またはデフォルト）
　開始日～終了日：エネルギー換算値の有効期間を入力します。
　税：電力会社との契約情報を入力します。
　CO2 排出量：1kWh 当りの CO2 排出量を入力します。
※電気料金は各電力会社の契約条件によって異なります。お客様の契約されている電気料金を確認して数値の入力を行なって下さい。また、詳細は各電力会社のホームページに記載されている数値を確認して下さい。
（記入例：20¥/kWh　※基本料金を除く大規模ビルの電力量金単価の一般例になります。）
※同様に CO2 排出量も同様に各電力会社にて異なります。各電力会社のホームページに記載されている数値を確認して下さい。
（記入例：0.374kg/kWh　※電気事業者の一般例になります。）

3．電気料金の夜間割引が適用される場合は③に契約情報を入力して下さい。夜間割引料金は「ピーク時」へ入力し有効期間をプルダウンにて選択します。未選択日については「オフピーク時」が適用されます。最後に保存を選択して終了して下さい。

3. 12　プログラム

本コンテンツでは、プログラム設定の変更を行なえます。

① 言語

・Source 中で使用される言語を設定します。またレポートの中で使用される通貨単位をセットすることができます。プルダウンにて選択して下さい。区切り文字は「,」として変更しないで下さい

エネルギー生産量のレポートに負の値を使用する

⇒チェックすることで計測データに負の値がある場合にそのデータもレポート画面にて表示します。

レポート画面にて Use Fahrenheit for temperature

⇒チェックすることで温度表示する際に華氏温度にて表示します。

② BACK UP

2 種類の方法により BACK UP ファイル自動生成することができます。

・「1 日 1 回起動時に BACK UP」⇒Source 起動時に指定の場所へバックアップファイルを保存します。チェックボックスを入力することで有効となります。

・「毎日指定した時間に back up」⇒指定した場所へバックアップファィルを保存します。チェックボックスを入力することで有効となります。※HOME 版では非表示

※本 BACKUP はどちらか 1 日 1 度機能すると一方は機能しません。

③　ライセンス概要

・Source 上で有効になっている機能が一覧で表示されます。Source では無償の Home 版ライセンスの他にオプションライセンスが用意されています。追加購入することでスマートコンセントを管理できる台数を増やしたり、新たな機能が利用できるようになります。追加購入したライセンスはインターネットに接続した状態で「追加」ボタンをクリックし、入力することで有効となります。

機能	機能説明
Source Pro	Home 版を Pro 版へアップグレードする為に必要なライセンスです。本ライセンスと他ライセンスを組み合わせることで機能を拡張することができます。 **※本ライセンスには「Source Pro」「Web server」「Multiple networks」「Data export」「25 to 250 nodes」「Extended scriptng」のライセンスが一式で含まれています。**
Web server （Home 版にライセンス含む）	Source の web サーバー機能を使用する為に必要なライセンスです。Web サーバーを起動させることで同一ネットワーク内にある他のパソコンから Source にアクセスすることができます。Plugwise API 使用する為にも必要です。
Multiple networks	Source で 2 つ以上のスティックを管理する為に必要なライセンスです。SLP を使用する為にも必要となります。
Data export （Home 版にライセンス含む）	電力量データを CSV ファイルに出力する為に必要なライセンスです。また、API の「Log」コマンドを使用する為に必要となります。
25 to 250 nodes	Source 上で管理できるモジュールの総数を「25～250 台」に拡張する為に必要なライセンスです。 **※別途 Source Pro のライセンスが必要です。**
250 and more nodes	Source 上で管理できるモジュールの総数を「250 台以上」に拡張する為に必要なライセンスです。 **※別途 Source Pro のライセンスが必要です。**
Extended scriptng	東光高岳製「エコ.web」と連携する為に必要なライセンスです。Plugwise API のカスタマイズをすることが可能となります。

Event scripting	警報をイベントとして出力する為に必要なライセンスです。 例えば「センス」で計測している温度が設定した上限値を超えた際に警報をイベントとして出力します。
Event scripting	Ｖライセンスと組み合わせてメールサーバー等に警報のイベントを転送させることができるライセンスです。 **※別途「Extended scriptng」ライセンスの購入が必要です。** **※別途「Source Pro」ライセンスの購入が必要です。**

ライセンス機能一覧

・Web サーバー許可

・Source の Web サーバー機能を有効にします。ローカルネットワークを介して Source にアクセスしたい場合はこちらで環境設定を行ないます。アクセスには web ブラウザを使用します。

ネットワーク上の他コンピュータと競合しないように TCP ポート、ルートフォルダーを設定します。また、アクセス権限を持たせたい場合はユーザー名及びパスワードを入力して下さい。

④ このスクリプトの実行

・この機能は使用不可です。

⑤ 手動プロキシ設定

・プロキシサーバーを使用して Source の web ブラウザにアクセスする際の、プロキシ設定を入力します。セキュリティ権限を持たせたい場合はユーザー及びパスワードも入力して下さい。

3. 13　システム

本コンテンツでは、SED を使用する際のデフォルト設定の変更を行なえます。

① SEDs デフォルト設定

・SED に対してデフォルトで設定される「起動間隔」「起動経過」を設定します。デフォルトとは Source 上に登録されたタイミングです。

※設定を短くすることは電池の消耗を早める為、特別な理由がない限り設定は変更しないで下さい。

② センスデフォルト設定

・センスに対してデフォルトで設定される「計測間隔」を設定します。デフォルトとは Source 上に登録されたタイミングです。

※設定を短くすることは電池の消耗を早める為、特別な理由がない限り設定は変更しないで下さい。

③ スキャンデフォルト設定

・スキャンに対してデフォルトで設定される「スイッチ OFF 遅延」「感度」を設定します。デフォル」トとは Source 上に登録されたタイミングです。

※設定を短くすることは電池の消耗を早める為、特別な理由がない限り設定は変更しないで下さい。

④ ファームウェアアップデート準備

・インターネットに接続されている場合、最新のファームウェアがあるか調べ指定した時刻に更新を行うことができます。

※設定を短くすることは電池の消耗を早める為、こちらの設定は変更しないで下さい。

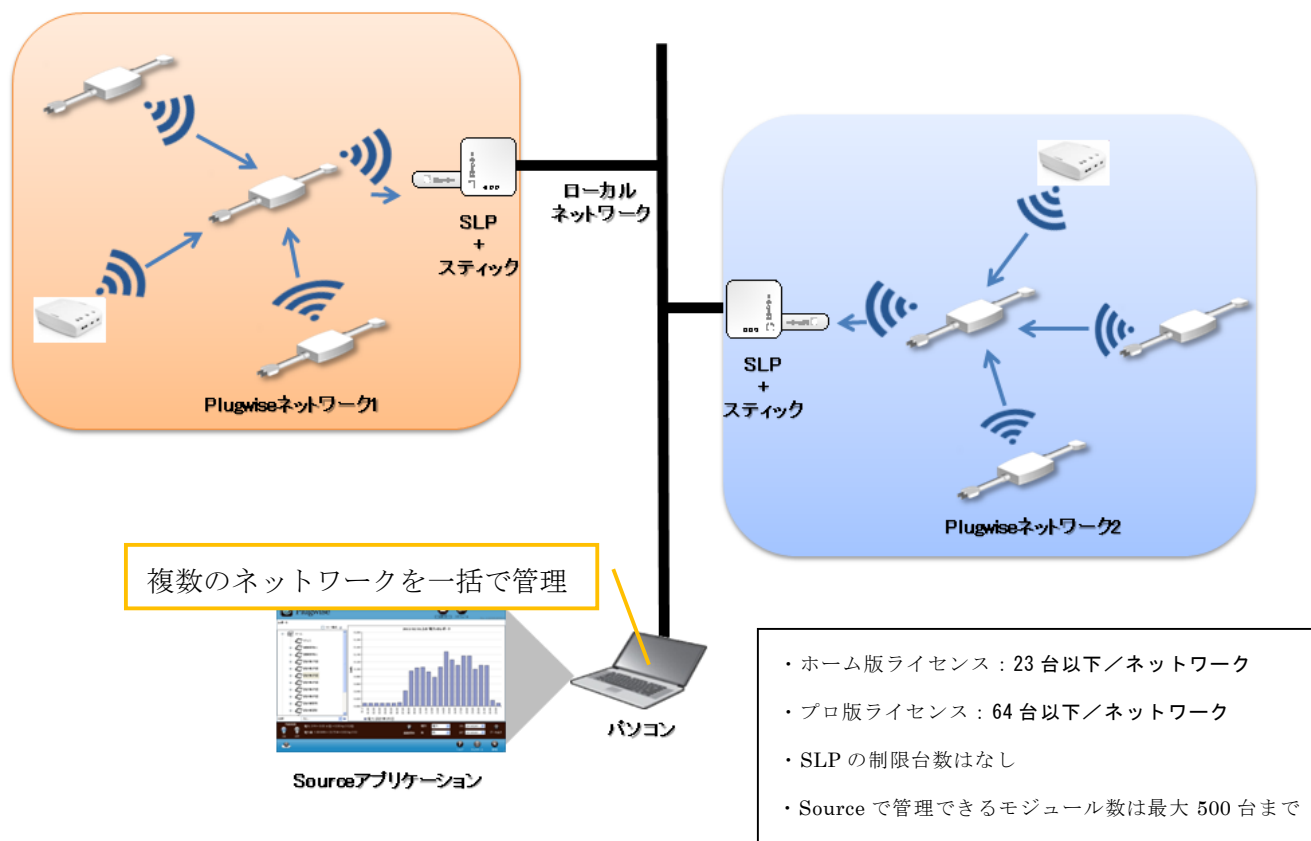
4． SLP を利用する

SLP を Source アプリケーションで利用する為の登録方法を以下に記します。

■SLP とは？

SLP はルーター機能を有するモジュールで、スティックを USB ポートに挿し込んで使用します。SLP を使用することで Source をインストールしたパソコンから電波の届かないモジュールに対して、LAN を利用して通信することができます。たとえば、管理用のパソコンを 1 台用意し、各フロアに SLP を 1 台ずつ設置することでフロア跨ぎのネットワークを一括で管理することができます。

—注意事項—

・スティックを USB ポートに差し込んだ状態で行ってください。
・SLP とセットで使用するスティックは事前にコンフィグレーション画面にて Soure 上に登録を行って下さい。
・SLP は IP アドレスの設定を終了した製品をご使用下さい。環境に合わせた設定が必要です。詳細は「Plugwise 機器取扱説明書」を参照願います。

SLP 基本システム構成

4．1　SLP 登録方法（自動）

ネットワーク内に存在する SLP を自動で検索して登録を行います。環境によってはサーチがうまくできない場合がありますので次章の「手動」で登録する方法を試して下さい。

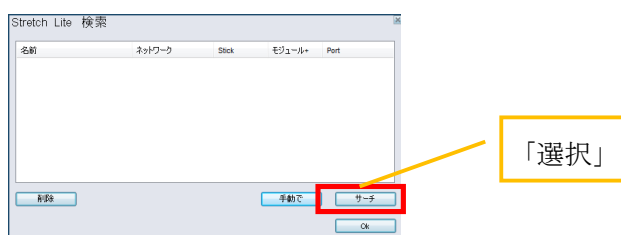
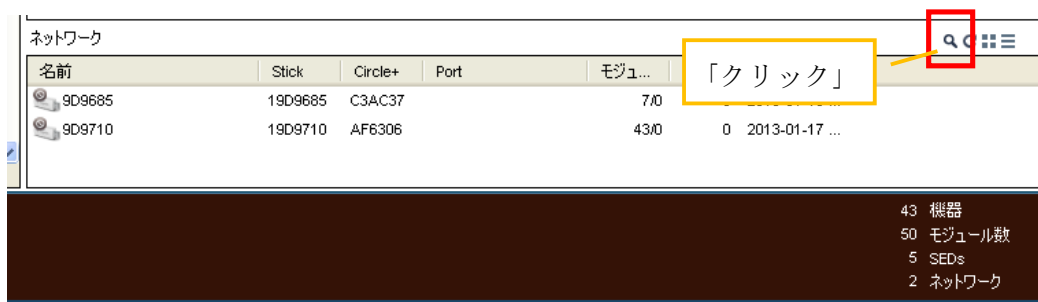
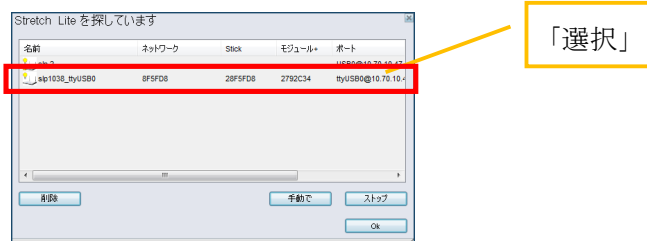
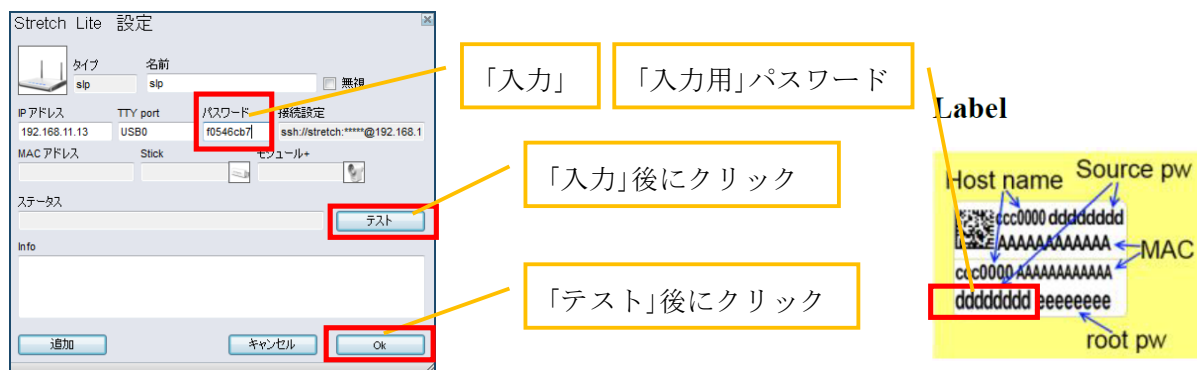
① Source アプリケーションが Pro2.23 以上のバージョンであることを確認します。
もし、Source アプリケーションが上記バージョンより古い場合にはバージョンアップして下さい

② Source アプリケーションのプログラム画面より以下アイコン「Multiple networks」があることを確認します。こちらのアイコンがないと SLP を使用することはできません。

ライセンス概要

25 to 250 nodes　Multiple networks
Data export　Source Pro
Extended scripting　Web server

チェック

③ Source を立ち上げ、機器画面にてグラスアイコンを選択後、Stretch Lite 検索ウインドウが立ち上がるので「サーチ」を選択します。

④ ネットワーク内にある SLP がリスト上に現れます。SLP をダブルクリックして選択します。SLP が複数台ある場合はリスト上の「名前」から照合して下さい。

⑤ SLP に貼られているシールのパスワードを入力します。入力後に「テスト」を選択します。「Success」が表示されれば登録成功です。「OK」ボタンで前の画面に戻って下さい。

⑥ 最後に機器画面より各モジュールの通信状態を確認します。

・ポート⇒ttyUSB0@××× ※×××は IP アドレス

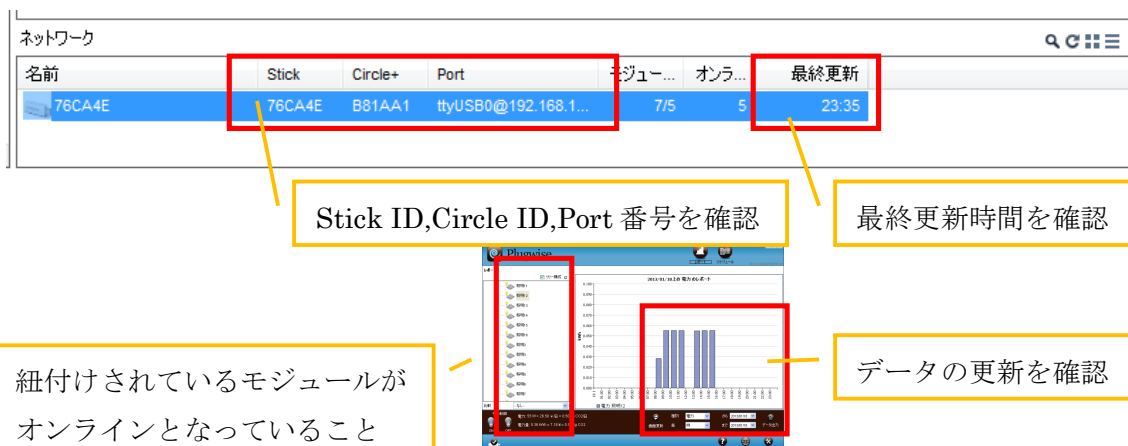
・Stick iD, Circle+ ID⇒事前にスティックと紐付けした ID

となっていることを確認して下さい。

一度 Source を再起動し、以下の内容を確認して下さい。

・スティックの「最終更新」時間が現時刻から数分以内となっている。

・紐付けされているモジュールがオンラインとなっている。

・計測データが更新される。

4．2　SLP 登録方法（手動）

前章の「自動」で登録する方法がうまくいかない場合は以下の手順を実行して下さい。

① Source アプリケーションが Pro2.23 以上のバージョンであることを確認します。

※もし、Source アプリケーションが上記バージョンより古い場合には以下、URL より Source をダウンロードしバージョンアップして下さい。

http://www.myplugwise.com/source/pwsetup.exe

② Source アプリケーションのプログラム画面より以下アイコン「Multiple networks」があることを確認します。こちらのアイコンがないと SLP を使用することはできません。

③ Source を立ち上げ、機器画面にてグラスアイコンを選択後、Stretch Lite 検索ウインドウが立ち上がるので「手動で」を選択します。

④　以下情報を各ボックス内に入力します。

■IP アドレス

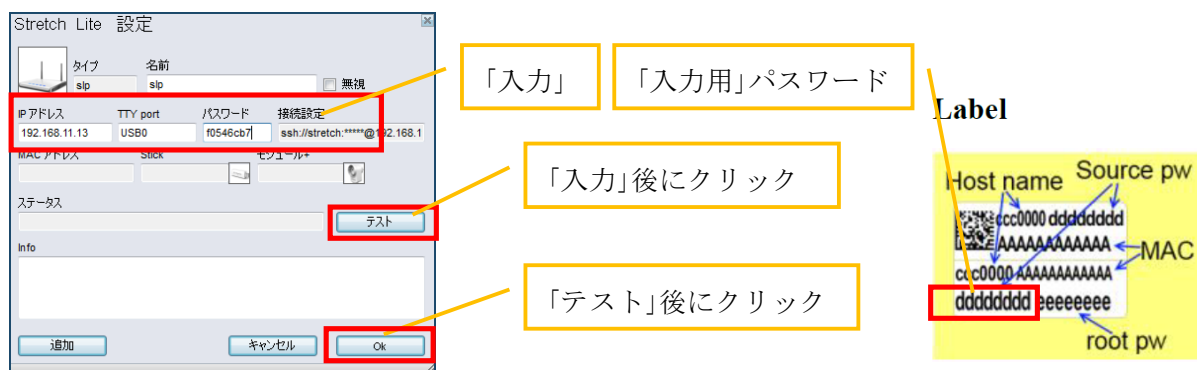
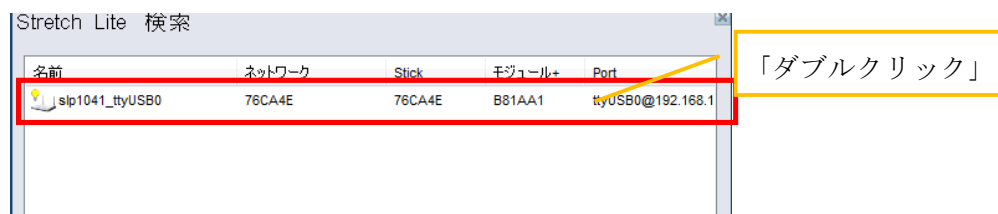
・事前に設定した又は DHCP より割り当てられた SLP の IP アドレスを入力する。

■TTY port

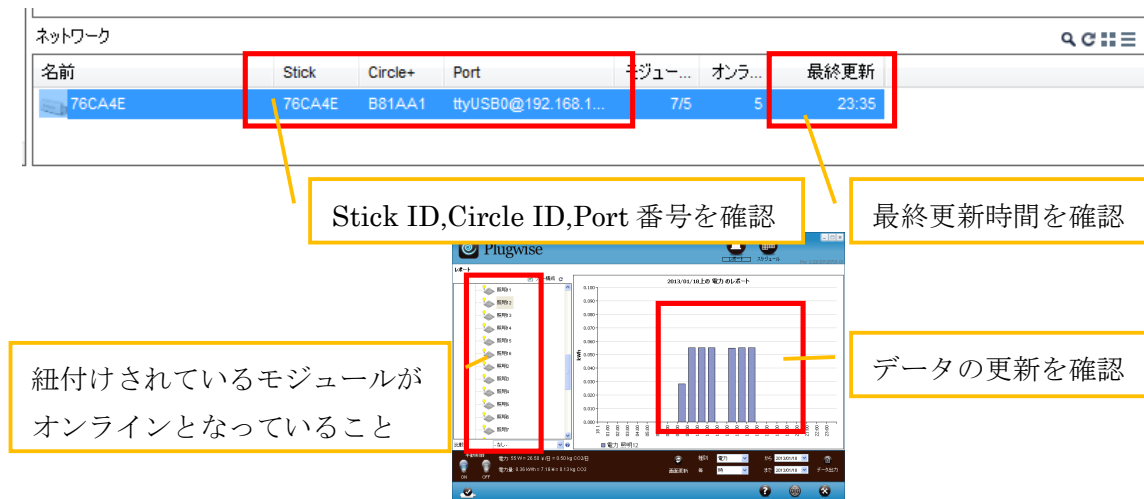
・USB0 と入力します。

■パスワード

・SLP に貼られている左下の番号を入力します。

入力後に「テスト」を選択します。一度「OK」ボタンで前の画面に戻る。

⑤　前の画面に戻ると「Stretch Lite 検索」画面に設定した SLP が表示されます。ランプマークが点灯していますが、この状態ではまだ SLP は使えない為、ダブルクリックして再度 SLP の選択を行います。

⑥　パスワードを再入力して、「テスト」をクリックします。ステータス「Success」を確認後、OK をクリックして完了です。この状態で初めて SLP との通信が確立します。

⑦ 機器画面より各モジュール通信状態を確認します。

- ポート⇒ttyUSB0@×××　　　　　※×××は IP アドレス
- Stick　iD, Circle+ ID⇒事前にスティックと紐付けした ID
  となっていることを確認して下さい。
  一度 Source を再起動し、以下の内容を確認して下さい。
- スティックの「最終更新」時間が現時刻から数分以内となっている。
- 紐付けされているモジュールがオンラインとなっている。
- 計測データが更新される。

５.　よくある質問（FAQ）

一般的な質問

・PC は常時 ON にする必要はありますか？

⇒PC は常時 ON である必要はありません。モジュールは、独自のメモリを持っており測定データは PC の電源が OFF されている場合でも保持され、送信したスケジュールに従い機器のスイッチは ON/OFF されます。また、PC の電源が ON された後、モジュールに格納されたデータは、Source 上に蓄積されレポート画面に棒グラフとして表示されます。※データ量に比例しある程度の時間を要します。

・モジュールの供給電源が OFF となった場合となった場合（停電時等）測定データはどうなりますか？

⇒最大で直近 1 時間の測定データが失われます。(16 時 45 分に停電の場合⇒16 時 00～16 時 45 分の測定データは損失。）過去 1 年分のデータは独自のメモリに保存されていますので保持されています。

・誤操作防止対策を施したい。

⇒不用意な操作を避けたい負荷（照明）が接続されている場合や一時的に ON/OFF 操作を禁止したい場合は以下の設定を適用して下さい。機器画面より機器を作成し、右クリックよりプロパティで設定します。

・どのくらいの期間、測定データは保存されますか？

⇒少なくとも１年間以上のデータは各モジュールに保存されます。メモリ上限になると古いデーから上書きされていきます。スマートコンセントを運用する上で少なくとも３ヶ月毎に、Source を介して測定データを取得することを推奨します。期間及びモジュール数に応じてデータを取得するのに時間を要します。必要な時間は数分～数時間と状況により異なります。

・システムの時刻はどのように定められていますか？

⇒全てのモジュールは個々に時刻を持ち合わせています。Source が起動されるとプラスモジュールの内蔵時計は PC の時刻と自動的に同期されます。他モジュールの時刻はプラスモジュールと同期されています。

・別のコンピュータに Source の環境（設定値、測定データ）を移すことはできますか？

⇒はい、可能です。他のコンピュータ上で Source をインストールしてバックアップファイルをリストアして下さい。

・ライセンスコードについて

⇒再発行はできませんので、ライセンスコードは大切に保管するようにお願いします。ソースをインストールし認証を行う際に必ず必要となります。

・Souce のアップデートをする必要はありますか？

⇒最新のソフトウェアには修正プログラムが提供されますのでアップデートすることを推奨します。アップデートを確認するにはインターネット接続が必要です。

ソフトウェア

・Source のインストール、ネットワーク構成にはどの程度の時間が掛かりますか？

⇒総時間は使用しているモジュールの数によって異なります。紐付けされていないモジュールを使用する場合、一般的に１つのモジュールに対して１分程の時間が掛かります。

・Plugwise ネットワークを拡大するには？（モジュールを新しく追加したい）

⇒新しいモジュールは以下操作で簡単に追加することができます。

［設定］⇒［モジュール追加］※詳細は本取扱説明書をご覧下さい。

・Plugwise ネットワークを１から再構築したい。

⇒全てのモジュールをリセットする必要があります。リセットした場合全ての計測データ及びネットワーク構成の情報が失われますのでご注意下さい。データは如何なる方法でも復元できません。

・測定時間を１時間より短い間隔で行なうことはできますか？

⇒測定間隔は１時間固定となります。

・リアルタイムの測定値はどのように積算表示しているのですか？

⇒8秒の平均値で算出した値を表示しています。

トラブルシューティング

◆レポート画面の棒グラフが更新されません。

⇒レポートの棒グラフを生成するには以下の手順を実行して下さい。

・レポート画面の表示期間を確認して下さい。「から」～「まで」を正しく設定します。

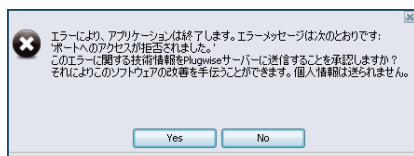
・「画面更新」ボタンをクリックします。

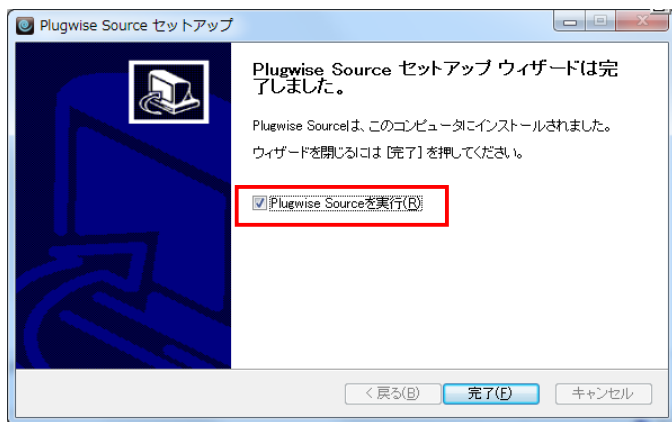
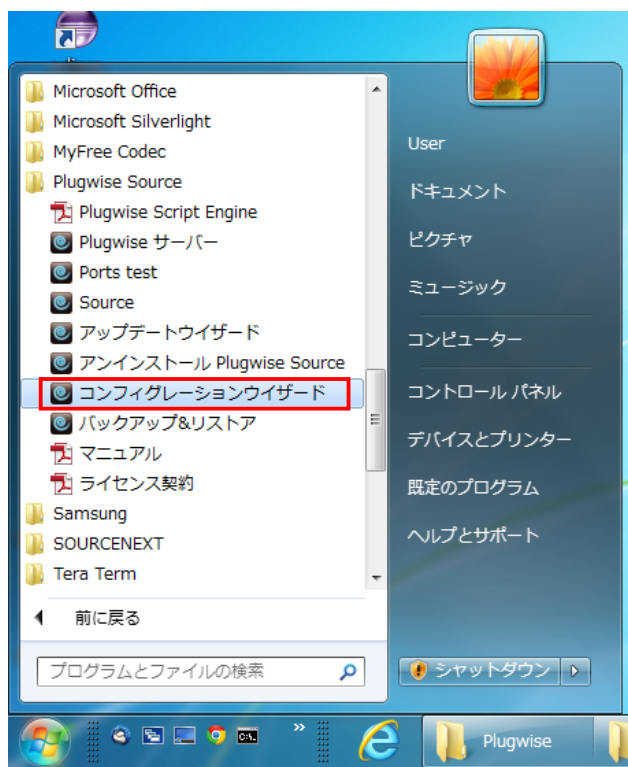
モジュールを登録してから、最初の使用量データが生成されるまで最大で2時間掛かかります。数時間モジュールを負荷に接続し、ネットワークの通信が問題ない場合、Source の問題の可能性がありますので最新バージョンの Source をダウンロードして下さい。

◆ライセンスコードを入力する時、「次へ」をクリックすることができません。

⇒不正なコードを入力している可能性があります。数字と文字が正しく入力されていることを確認して下さい。同様にインターネット接続を確認して下さい。それでも解決しない場合は、コンフィグレーションを最初からやり直して下さい。

◆コンフィグレーション中に以下のメッセージが表示され強制終了してしまいました。どうすればよいでしょうか？

⇒「スタート」⇒「全てのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「コンフィグレーション」にショートカットメニューがありますのでそちらから再開して下さい。

◆エラーメッセージが表示されバックアップファイルが読み込めません。
どうすればよいでしょうか？

⇒最新版 Source を上書きインストールします。インストールの最後で Source を起動するチェックボックスを外して下さい。

「スタート」⇒「全てのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「コンフィグレーション」にショートカットメニューがありますのでそちらから再開して下さい。

コンフィレーションウィザードが完了したら、Source を起動します。

◆ファームのアップデートプロセスが失敗してしまいました。

⇒「スタート」⇒「全てのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「アップデートウィザード」から再開できます。指示に従い再度更新ウィザードの操作を進めて下さい。

◆ハードドライブがクラッシュした場合どうすればよいですか？

⇒バックアップファイルを利用し、Plugwise ネットワーク情報及び計測データを復元することができます。定期的にバックアップファイルを出力し外部媒体記憶装置に保存することを推奨します。復元方法は以下の手順に従って下さい。

・Source の最新バージョンをダウンロードしインストールします。
・「ネットワーク構成」が開始されたらウィザードを終了します。
・「スタート」⇒「全てのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「バックアップ＆リストア」を選択します
・「バックアップデータのリストア」を選択しバックアップファイルの場所を指定します。
・最後に Source を起動して終了です。

◆スケジュールが時間通りに実行されない場合どうすればよいですか？

⇒全てのモジュールは個々に時刻を持っており、Source が起動した時、お使いの PC の時刻と同期されています。スケジュールが時間通りに実行されない場合には、Windows の時計が正しい時刻を表示しているかどうかを確認して下さい。

◆モジュールが、認識できません

⇒ネットワークは、モジュールを捜し出すことができない場合があります。 この場合、関係のある機器の Source アイコンは、以下のように表示されます。

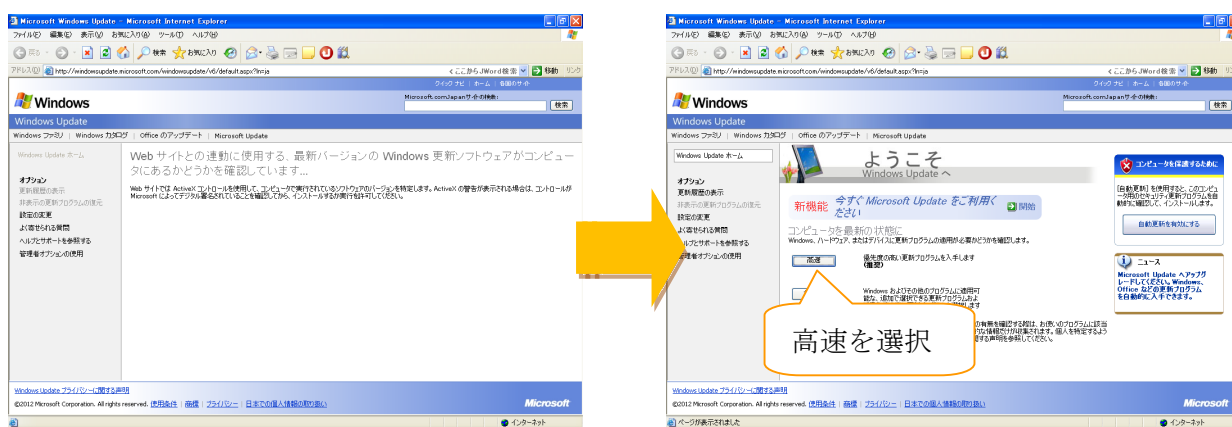
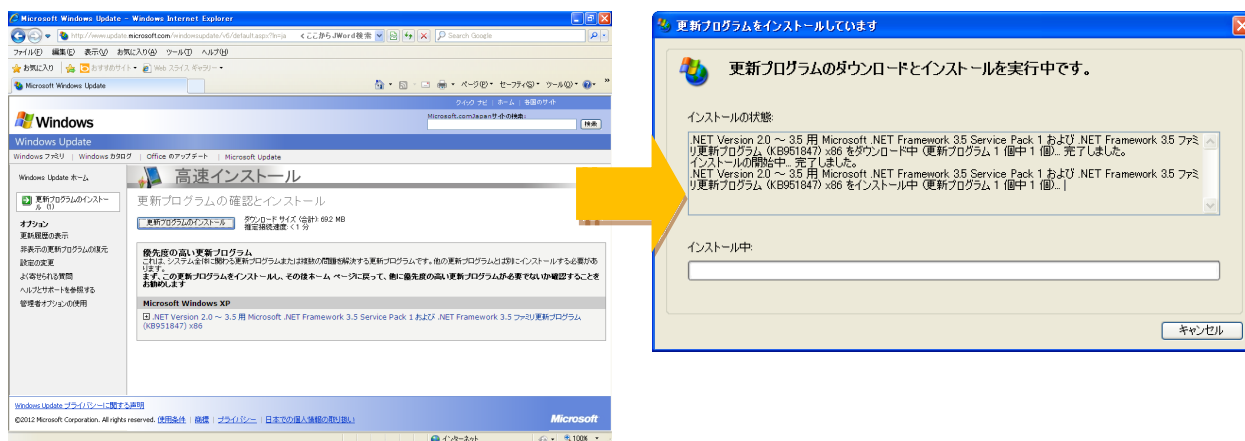
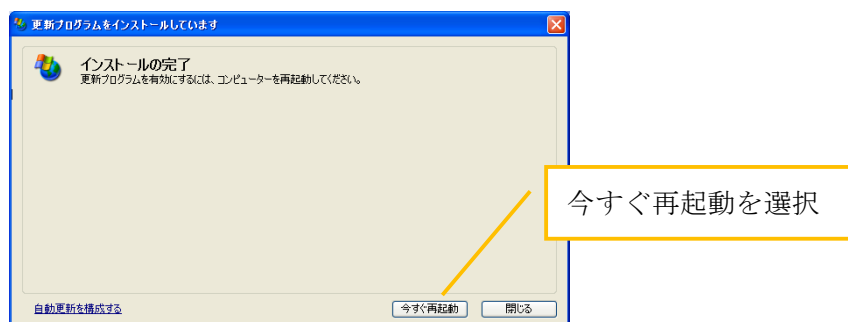
該当モジュール（スティング，ステルス）の設置状況を確認して下さい。モジュール間の距離や設置環境によっては、通信が届かずオンラインにならない場合があります。その場合は、中継器用としてモジュールを追加設置して下さい。

◆スティックが認識されません

⇒この問題にはいくつかの要因が考えられます。以下の解決策を順に試して下さい。

解決策１：.NET Frame work を windows Update にて最新のバージョンに更新する

- OS が Windows XP の場合は.NET Frame work のバージョンにより 正常に動作しない場合があります。以下の手順により最新版に更新して下さい

１.「スタート」→「全てのプログラム」→「Windows Update」によりブラウザを立ち上げます。
　プログラムの入手方法→「高速」を選択します。

２.「更新プログラムのインストール」を選択しプログロム更新します。

３．更新が終了しましたらコンピュータを再起動します。１度だけの更新では.NET が更新されない場合があります。更新プログラムが無くなるまで上記手順を繰り返し行なって下さい。

解決策２：スティックを元の USB ポートに差し込む

・Source がインストールされた時に使用されたものと異なる USB ポートに差し込まれた場合、コンピュータによっては、スティックを認識しない場合があります。以下の手順に従って下さい。

１．Source を終了します。
２．Source をインストール及びコンフィグレーションに使用した USB ポートにスティックを差し込んで下さい。
３．Source を再起動します。
これで動作しない場合は、毎回異なる USB ポートを使用して上記のステップを繰り替えして下さい。

解決策３：ドライバの削除

１．「全てのプログラム」⇒「Plugwise Source」⇒「アンインストール　Plugwise Source」から Source 及びドライバを削除します。
２．コンピュータを再起動します。
３．Source のセットアップファイルよりダブルクリックしてデバイスドライバーを再インストールして下さい。

上記手順を試しても、スティックが認識されない場合は他のパソコンで Source をインストールし同様の操作を試して下さい。

◆プラスモジュールをリセットしてネットワークの再構築をしたいのですが、Source 上のデータを消さずに行う方法はありますか？

以下の手順で実行して下さい。Source 上のデータは残りますがモジュール本体に蓄積されたデータはリセットすることで消去されますのでご注意ください。

１．バックアップファイルの作成
２．プラスモジュールを含むネットワーク内全てのモジュールのリセット
３．全てのモジュールのネットワーク再構築（紐付け）
４．「１」で作成したバックアップファイルのリストア

お問い合せ先
■本製品に関する Web ページ
http://www.tktk.co.jp/product/energy/saving_smart-plug/